年　報

（平成30年度～令和2年度）

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization
関門医療センター

〒752-8510　山口県下関市長府外浦町1番1号
TEL:083-241-1199(代表)/FAX:083-241-1301

https://kanmon.hosp.go.jp

巻 頭 言

平素より当センターの運営に多大なるご理解とご支援を賜りまして心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症第5波が収束し、10月中旬以降はこれまでにない低い水準で推移しています。コロナ禍においては、国民の受療行動に変容が見られ、慢性疾患を中心に受診抑制が起こりました。そして予想にたがわずコロナ前に戻ることはないようです。そのような中で厚生労働省は11月24日、「医療経済実態調査」を公表しました。調査によると、病院では2020年度の損益率は民間、国立、公立など全体の加重平均で1.2%の黒字となりました。19年度のマイナス2.0%よりも改善しましたが、黒字に転換したのはコロナ関連の補助金の効果が大きく、補助金を除いた損益率は全体でマイナス5.6%の赤字でした。一方、診療所では、28.8%と19年度並みの利益となり、ほとんどコロナの影響を受けていないようです。

さて、当センターの令和3年のテーマは、「プロフェッショナルとしての矜持を!!～コロナに負けない」といたしました。プロフェッショナリズムの定義は数多くみられますが、Stern,D.T.らは、「臨床能力、コミュニケーション・スキル、倫理的・法律的理解を土台とし、卓越性、人間性、利他主義、説明責任を4つの柱としてプロフェッショナリズムを支える図式である」と説明しています。この4つの柱はもちろんすべて重要ですが、私が最も大切だと考えるのは「人間性」です。

Viktor Emil Franklは、ナチスの劣悪な環境下における強制収容所での極限的な経験を踏まえ「最後の最後まで大切だったのは、その人がどんな人間であるか『だけ』だった」と主張しています。ある意味、コロナ禍で、人生も、健康も、幸福も……すべてが疑わしいものになりましたが、この真理は、今のコロナ禍においてもまったく変わるところがありません。つまり、わたしたち医療人は、コロナ禍が始まった時も、これからも、これまでの価値観が変わっても、今以上にこの「人間性」を試されるのだと思います。

William Oslerは、「医療はアートであり、取引ではない、使命であって商売ではない。その使命を全うする中で、あなたはその心を頭と同じくらい使うことになる」と述べています。患者-医療人関係の基本は信頼関係であり、当センターの職員には、確かな知識と卓越した技術に裏付けされた謙虚さと自信を持って、目の前の病む人を思いやりと愛情で寄り添い支え、そして、研ぎ澄まされた感性で、このプロフェッショナリズムを種々の場面で実践してもらいたいと願っています。

他方、地域に目を向ければ、下関医療圏地域医療構想調整会議において基幹病院の統合・再編へ向けた方向性が示されて約3年、この間に目に見える進捗はほとんどありません。巧遅拙速とは申しませんが、このままではコロナ禍のみならず、近時の医療界を取り巻く荒波に呑み込まれ、統合・再編ではなく自然淘汰という最悪のシナリオに進む危険性を孕んでいます。本医療圏において、将来にわたり地域の皆さまが安心できる良質な高度急性期・急性期医療を提供するためにも、地域医療構想の実現はスピード感をもって取り組まなければならない最優先課題であると考えます。

本年報は当センターの到達点を明らかにするとともに、今後取り組むべき課題を見いだすための記録でもあります。一年一年、一歩でも先へ、一段でも高いレベルへ進んで行くことができればと決意を新たにいたしております。当センターの理念であります、「先駆け」「地域」「教育」に則り、地域の皆さまから信頼され愛される病院、社会に貢献できる病院を目指して、職員一丸となって頑張ってまいります。

皆さまには、本年報をご高覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いでございます。関係の皆さまのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年12月吉日

独立行政法人国立病院機構関門医療センター

院 長　林　公人

目　次

巻頭言 2

Section 1　施設概要

施設概要 8
施設基準 9
指定医療 12
学会施設認定等 13
組織図 14
職員数 16

Section 2　統計

診療科別　患者数、診療点数等 18
病棟別　患者数、診療点数等 20
紹介率・逆紹介率 21
ビーンズ訪問看護ステーション　訪問看護利用件数 21
手術件数（手術室実施分） 22
コ・メディカルデータ 25
財務諸表 27
「病院情報の公表」 30

Section 3　部門紹介

糖尿病・血液内科 48
総合診療 50
精神科 52
脳神経内科 54
消化器内科 56
循環器内科 58
小児科 60
外科 62
心臓血管外科 64
整形外科 66
脳神経外科 68

泌尿器科 70
産婦人科 72
眼科 74
耳鼻咽喉科 76
放射線診断科 78
放射線治療科 80
病理診断科 82
救急科 84
麻酔科・ペインクリニック 86
歯科口腔外科 88
女性総合外来 90
薬剤部 92
診療放射線科 94
臨床検査科 96
栄養管理室 98
リハビリテーション科 100
医療機器管理室 102
心理療法 104
地域医療連携室 106
看護部 108
事務部（管理課・企画課） 112
診療情報管理室 114

Section 4 研究実績

原著論文、総説、著書（英文） 118
原著論文、総説、著書（和文） 123
国際学会発表 127
国内学会発表 128

Section 5 広報誌「海峡」

海峡184号～海峡219号 142

.

Section 1

施 設 概 要

施設概要

名称	どくりつぎょうせいほうじんこくりつびょういんきこう かんもんいりょうせんたー 独立行政法人国立病院機構 関門医療センター National Hospital Organaization Kanmon Medical Center	所在地	〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号 Tel 083-241-1199 Fax 083-241-1301
幹部職員	院長 林 弘人 副院長 佐藤 穣 統括診療部長 伊原 公一郎 臨床研究部長 柳井 秀雄 事務部長 難波 和弘 看護部長 上柿 博美 薬剤部長 藤田 秀樹 企画課長 萩野 勝司 管理課長 水尻 和夫		
病床数	医療法許可病床 一般 400床 運用病床数 379床(急性期一般 267床、ICU 4床、救命救急センター 12床、地域支援病棟 96床)		
診療科目 (34診療科)	内科(総合診療) 糖尿病・血液内科 脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 肝臓内科 循環器内科 腫瘍内科 女性内科(女性総合診療) 精神科 小児科 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 消化器外科 内視鏡外科 心臓血管外科 整形外科 リウマチ科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査科 病理診断科 救急科(ER24) 歯科口腔外科 麻酔科		
診療機能	地域医療支援病院(平成26年2月) 第二次救急医療施設(昭和52年10月)・救命救急センター(平成17年5月) エイズ治療拠点病院(平成8年7月)・エイズ治療中核拠点病院(平成19年4月) 災害拠点病院(平成22年11月) 臨床研修指定病院(平成60年3月)		

基本方針

＊地域の皆様の健康と医療を守る

・地域住民の健康と医療を守り、地域社会に安心・安全をもたらす

・地域住民からの信頼を最大化する

＊共に働く仲間を信頼し、尊重する

・共に働く仲間が働き甲斐と矜持を持てる職場に！

・チーム医療、多職種連携を推進し”チーム関門”としての連携を強化！

病院理念

国立病院機構の使命を果たす病院として、常に地域の皆さま本位の立場から次の病院理念を推し進める。

①あらゆる先駆けとなる医療に果敢に挑戦する。

②病気を成り立ちから見つめ、その克服のために最良の道を患者さんとともに歩む。

③次の世代をはぐくみ無限の可能性を引き出す。

・キーワードは①「先駆け」 ②「地域」 ③「教育」

・教育標語”3S”…①スピード、②スタンダード＆セイフティ、③スマイル

関門医療センターの使命

〇先駆的医療の実施　〇患者さん中心の医療　〇地域活動の支援　〇若い人を育てる

私達の挑戦

＊関門医療センターは病める人々に最善の医療を提供し、地域社会に安心安全をもたらすことを
もっとも大切な使命とこころえています。

＊私たちは目の前の人を、思いやりと愛情で寄り添い支え、安心と感動をお届けいたします。

施設基準

事　項　（区 分）		算定開始年月日
－	DPC病院	平成21年4月1日
－	入院時食事療養費（Ⅰ）	平成21年4月15日
－	食堂加算	平成21年4月15日
A100	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)	平成30年10月1日
A100	一般病棟入院基本料(7対1)	平成28年9月1日
A200	総合入院体制加算3	平成28年4月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	平成21年4月15日
A205	救急医療管理加算	平成22年4月1日
A205-2	超急性期脳卒中加算	平成21年4月15日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	平成22年11月1日
A207-2	医師業務作業補助体制加算1(15:1)	平成26年9月1日
A207-3	診療録管理体制加算1	平成27年5月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(25対1)(5割以上)	令和2年6月1日
A207-4	看護職員夜間16対1配置加算	令和元年9月1日
A219	療養環境加算	平成21年6月1日
A221	重症者等療養環境特別加算	平成21年4月15日
A224	無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日
A233-2	栄養サポートチーム加算	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算1	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算(医療安全対策地域連携加算1)	平成30年4月1日
A234-2	感染防止対策加算1	平成27年4月1日
A234-2	感染防止対策地域連携加算	平成27年4月1日
A234-2	感染防止対策加算1(抗菌薬適正使用支援加算)	平成30年5月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	平成22年11月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	平成23年12月1日
A243	後発医薬品使用体制加算1	令和元年9月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算1	平成27年11月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算2	平成28年4月1日
A245	データ提出加算2(200床以上)	平成26年10月1日
A246	入退院支援加算1	平成28年10月1日
A246	地域連携診療計画加算	平成28年10月1日
A246	入院時支援加算	平成31年1月1日
A247	認知症ケア加算1	平成29年1月1日
A247-2	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和2年4月1日
A252	地域医療体制確保加算	令和2年4月1日
A300	救命救急入院料1	平成27年4月1日
A300	救命救急入院料加算(救急医療体制充実加算2)	平成31年4月1日
A301	特定集中治療室管理料3	平成27年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	平成30年4月1日
A301	特定集中治療室管理料注5(早期栄養介入管理加算)	令和2年4月1日
A308-3	地域包括ケア病棟入院料2	平成26年10月1日
A308-3	看護職員配置加算	平成26年10月1日
B001-1	ウィルス指導料加算	令和2年4月1日
B001-2	小児科外来診療料	平成21年4月15日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	平成25年10月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
B001-3-2	ニコチン依存症管理料	平成21年6月1日
B001-16	喘息治療管理料	平成21年4月15日
B001-20	糖尿病合併症管理料	平成21年6月1日
B001-22	がん性疼痛緩和指導加算料	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料1	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料2	平成26年4月1日
B001-30	婦人科特定疾患治療管理料	令和2年4月1日
B006-18	BRCA1/2遺伝子検査	令和2年4月1日
B008	薬剤管理指導料	平成21年4月15日
B009	検査・画像情報提供加算	平成28年10月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	平成21年4月15日

事　項　（区 分）		算定開始年月日
C005	在宅患者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C005-1-2	同一建物居住者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C012	在宅療養後方支援病院	平成26年6月1日
C152-2	持続血糖測定器加算	平成28年2月1日
D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査	平成24年10月1日
D006-4	遺伝学的検査	平成29年9月1日
D023	HPV核酸同定検査	平成22年4月1日
D026	検体検査管理加算（Ⅱ）	平成29年11月1日
D225-4	ヘッドアップティルト試験	平成25年3月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	平成28年2月1日
D239-3	神経学的検査	平成21年4月15日
D409-2	センチネルリンパ節生検	平成22年4月1日
E －	画像診断管理加算1	平成21年4月15日
E －	画像診断管理加算2	平成22年1月1日
E101-2	ポジトロン断層撮影	平成22年4月1日
E101-3	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	平成22年4月1日
E200	CT撮影（64列）	平成28年10月1日
E200	冠動脈CT撮影加算	平成22年1月1日
E200	外傷全身CT加算	平成22年4月1日
E200	大腸CT撮影加算	平成24年4月1日
E202	MRI撮影	平成24年4月1日
E202	心臓MRI撮影加算	平成22年1月1日
E202	乳房MRI撮影加算	平成29年6月1日
F100	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
G －	外来化学療法加算1	平成21年4月15日
G020	無菌製剤処理料	平成21年4月15日
H －	各リハビリテーション料初期加算	平成24年4月1日
H000	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	平成21年5月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	平成21年4月15日
H001-2	廃用症候群リハビリテーション料	平成28年4月1日
H002	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成22年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成21年4月15日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	平成26年3月1日
J001-10	静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	令和3年9月1日
J038	人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）	平成30年4月1日
J038	導入期加算1	平成30年4月1日
J038	下肢末梢動脈疾患指導管理加算	平成30年3月1日
K134-4	椎間板内酵素注入療法	令和2年10月1日
K181 K181-2 K190 K190-2	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む）、脳刺激装置交換術及び脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術	平成21年4月1日
K476	乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1及び乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）	平成22年4月1日
K509	骨移植術（自家培養軟骨移植術）	平成26年8月1日
K546	経皮的冠動脈形成術	平成26年4月1日
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	平成26年4月1日
K597 K597-2	ペースメーカー移植術／交換術（電池交換含む）	平成21年4月1日
K600	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	平成21年4月1日
K664	胃瘻造設術	平成27年4月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術	平成29年10月1日
K702-2	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成31年2月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	令和3年6月1日
K920-2	輸血管理料Ⅰ	平成22年10月1日
K920-2	輸血適正使用加算1	平成24年4月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年4月1日
―	白内障に罹患している患者に対する水晶体再建に使用する眼鏡装用率の軽減効果を有する多焦点眼内レンズの支給	令和2年4月1日
L009	麻酔管理料	平成21年4月15日

項　　目		算定開始年月日
M000	放射線治療専任加算	平成21年6月1日
M000	外来放射線治療加算	平成21年6月1日
M000	1回線量増加加算	平成26年4月1日
M001	画像誘導放射線治療加算	平成23年4月1日
M001-3	直線加速器による定位放射線治療	平成21年8月1日
M001-3	高エネルギー放射線治療	平成21年12月1日
N006	病理診断管理加算1	平成24年4月1日
N006	悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年5月1日
歯科A000	初診料(歯科) 注1に掲げる施設基準	平成30年4月1日
歯科A000	歯科外来診療環境体制加算1	平成31年3月1日
歯科B004-6-2	歯科治療時医療管理料	平成31年1月1日

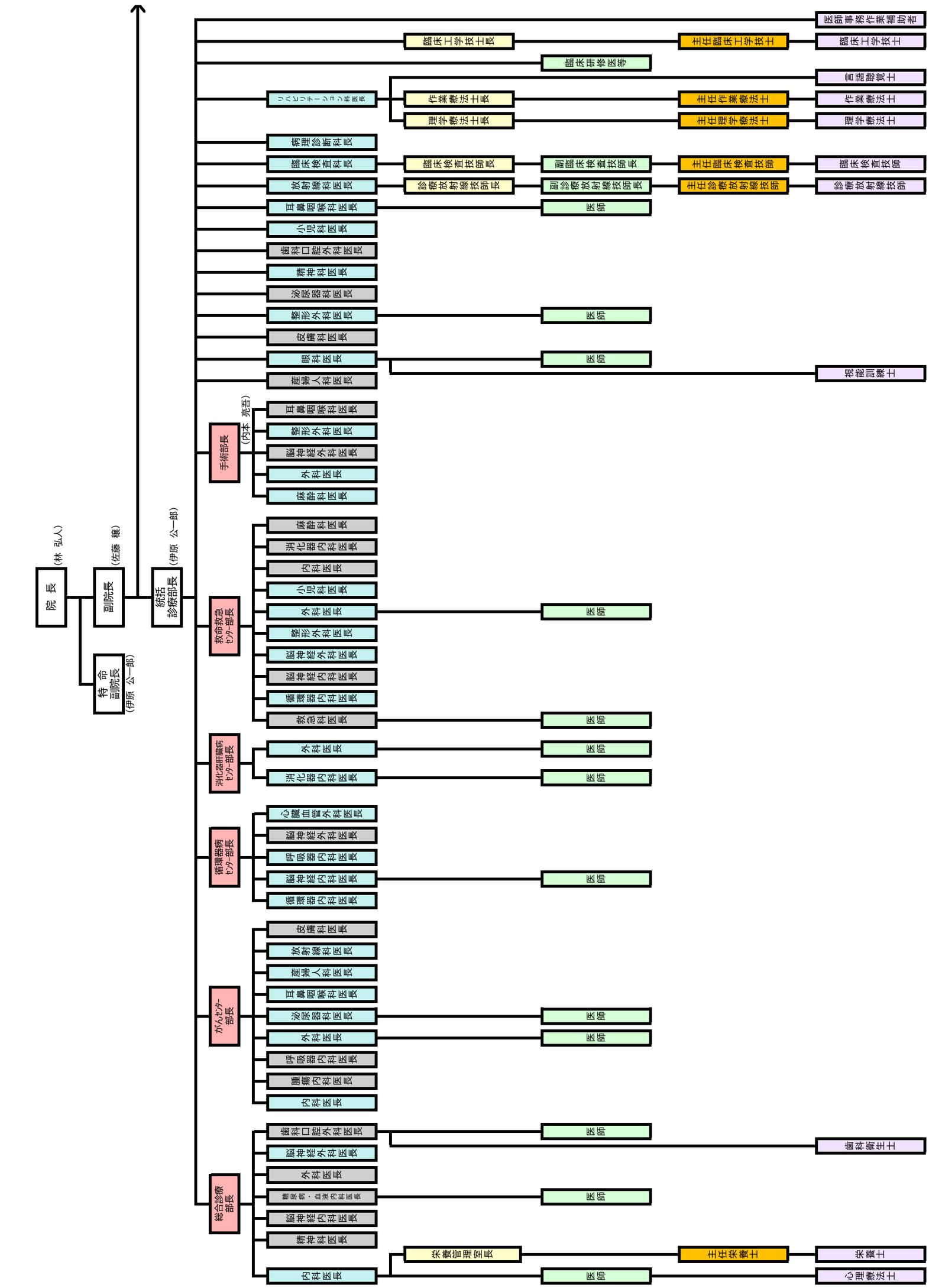
指定医療

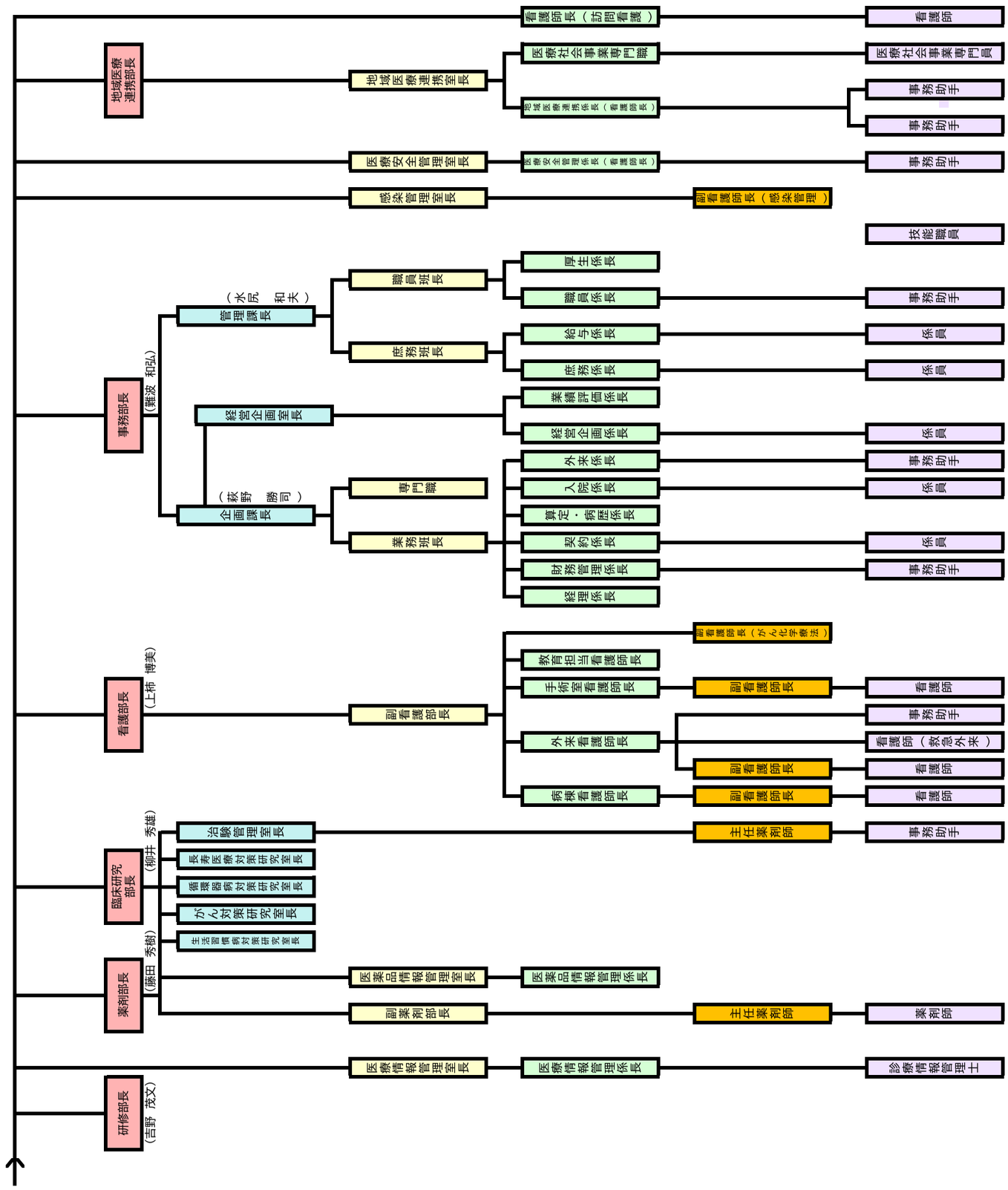
事　項
母子保健法(療育医療)
身体障害者福祉法及び戦傷病者特別援護法(更生医療･･･耳鼻咽喉科、整形外科)
児童福祉法(成育医療)
原子爆弾被爆者医療等に関する法律(認定疾病)
結核予防法
生活保護法
労災保険法
母体保護法
公害健康被害補償法

学会施設認定等

項　　目	指定日
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	昭和55年10月16日
日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム連携施設	昭和56年8月6日
日本整形外科学会専門医研修施設	昭和58年4月11日
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	昭和59年3月24日
日本麻酔科学会認定病院	昭和59年8月23日
日本内科学会教育関連病院	昭和60年4月1日
日本泌尿器科学会専門医教育施設	昭和61年4月1日
日本産科婦人科学会体外受精・胚移植の臨床実施及びヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設	昭和63年4月1日
日本消化器病学会認定・関連施設	平成1年12月1日
日本循環器学会認定研修施設	平成3年4月1日
日本消化器内視鏡学会認定医指導施設	平成5年12月1日
日本消化器外科専門医修練施設	平成7年1月1日
日本脳卒中学会認定研修教育病院	平成11年11月11日
日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成19年11月1日
日本消化器外科学会専門医修練施設	平成19年12月11日
日本病理学会研修登録施設	平成22年4月1日
日本手外科学会手外科研修施設	平成22年4月14日
日本医療機能評価機構認定施設	平成22年7月2日
日本精神神経学会精神科専門研修施設	平成23年4月1日
日本眼科学会専門研修施設	平成23年4月1日
麻酔科認定病院	平成23年4月1日
日本診療放射線学会医療被ばく低減施設	平成24年1月1日
日本高血圧学会専門医認定施設	平成24年4月1日
科研費指定研究機関	平成25年3月21日
日本胆道学会指導施設	平成25年7月1日
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成26年4月1日
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	平成26年4月1日
日本リウマチ学会教育施設	平成26年9月1日
マンモグラフィ検診施設画像認定施設	平成27年2月1日
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士認定教育施設	平成27年4月1日
日本集中治療医学会専門医研修施設	平成27年4月1日
日本理学療法士協会臨床指導施設	平成27年5月1日
日本産婦人科学会専門研修連携施設	平成28年8月1日
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設	平成28年9月1日
日本乳癌学会関連施設	平成28年1月1日
日本神経学会教育関連施設	平成29年4月1日
日本臨床細胞学会施設	平成29年4月1日
HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設	平成30年4月1日
日本食道学会食道外科専門医準認定施設	平成31年1月1日
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設	令和1年6月10日
腹部ステントグラフト実施施設	令和1年7月17日
日本脈管学会認定研修関連施設	令和1年10月9日
日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設	令和1年11月28日
卒後臨床研修評価機構認定施設	令和3年5月1日

組織図


院長（林 弘人）
副院長（佐藤 穣）
特命副院長（伊原 公一郎）
統括診療部長（伊原 公一郎）
医師事務作業補助者
臨床工学技士長
主任臨床工学技士
臨床工学技士
臨床研修医等
言語聴覚士
リハビリテーション科医長
作業療法士長
主任作業療法士
作業療法士
理学療法士長
主任理学療法士
理学療法士
病理診断科長
臨床検査科長
臨床検査技師長
副臨床検査技師長
主任臨床検査技師
臨床検査技師
放射線科医長
診療放射線技師長
副診療放射線技師長
主任診療放射線技師
診療放射線技師
耳鼻咽喉科医長
医師
小児科医長
歯科口腔外科医長
精神科医長
泌尿器科医長
整形外科医長
皮膚科医長
眼科医長
視能訓練士
産婦人科医長
手術部長（内本 亮吾）
耳鼻咽喉科医長
整形外科医長
脳神経外科医長
外科医長
麻酔科医長
救命救急センター部長
麻酔科医長
消化器内科医長
内科医長
小児科医長
外科医長
整形外科医長
脳神経外科医長
脳神経内科医長
循環器内科医長
救急科医長
消化器肝臓病センター部長
外科医長
消化器内科医長
循環器病センター部長
心臓血管外科医長
脳神経外科医長
呼吸器内科医長
脳神経内科医長
循環器内科医長
がんセンター部長
皮膚科医長
放射線科医長
産婦人科医長
耳鼻咽喉科医長
泌尿器科医長
外科医長
呼吸器内科医長
腫瘍内科医長
内科医長
総合診療部長
歯科口腔外科医長
歯科衛生士
脳神経外科医長
外科医長
糖尿病・血液内科医長
脳神経内科医長
精神科医長
栄養管理室長
主任栄養士
栄養士
内科医長
心理療法士


地域医療連携部長
看護師長（訪問看護）
看護師
医療社会事業専門職
医療社会事業専門員
地域医療連携室長
地域医療連携係長（看護師長）
事務助手
事務助手
医療安全管理室長
医療安全管理係長（看護師長）
事務助手
感染管理室長
副看護師長（感染管理）
技能職員
職員班長
厚生係長
職員係長
事務助手
（水尻　和夫）
管理課長
庶務班長
給与係長
係員
庶務係長
係員
事務部長
（難波　和弘）
業績評価係長
経営企画室長
経営企画係長
係員
外来係長
事務助手
入院係長
係員
（荻野　勝司）
企画課長
専門職
算定・病歴係長
業務班長
契約係長
係員
財務管理係長
事務助手
経理係長
副看護師長（がん化学療法）
教育担当看護師長
手術室看護師長
副看護師長
看護師
（上柿　博美）
看護部長
副看護部長
事務助手
外来看護師長
看護師（救急外来）
副看護師長
看護師
病棟看護師長
副看護師長
看護師
治験管理室長
主任薬剤師
事務助手
長寿医療対策研究室長
循環器病対策研究室長
臨床研究部長
（柳井　秀雄）
がん対策研究室長
生活習慣病対策研究室長
（藤田　秀樹）
薬剤部長
医薬品情報管理室長
医薬品情報管理係長
副薬剤部長
主任薬剤師
薬剤師
医療情報管理室長
医療情報管理係長
診療情報管理士
研修部長
（吉野　茂文）

職　員　数

職名		H30.4.1						H31.4.1						R2.4.1					
		常勤		期間職員		非常勤		常勤		期間職員		非常勤		常勤		期間職員		非常勤	
		定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数
医療職(一)	院長	1	1					1	1					1	1				
	副院長	1	1					1	1					1	1				
	部長	4	4					4	4					4	4				
	医長	25	25					26	26					28	28				
	医師	19	18.63	32	32			18	17.63	31	29			16	15.52	25	26		
	計	50	49.63	32	32	0.00	0.00	50	49.63	31	29	0.00	0.00	50	49.52	25	26	0.00	0.00
医療職(二)	薬剤部長	1	1					1	1					1	1				
	副薬剤部長	1	1					1	1					1	1				
	主任薬剤師	4	3					4	4					4	3				
	薬剤師	12	12					12	11					12	10				
	小計	18	17	0	0	0.00	0.00	18	17	0	0	0.00	0.00	18	15	0	0	0.00	0.00
	診療放射線技師長	1	1					1	1					1	1				
	副診療放射線技師長	1	1					1	1					1	1				
	主任診療放射線技師	4	4					4	4					4	4				
	診療放射線技師	9	9					9	9					9	9				
	小計	15	15	0	0	0.00	0.00	15	15	0	0	0.00	0.00	15	15	0	0	0.00	0.00
	臨床検査技師長	1	1					1	1					1	1				
	副臨床検査技師長	1	1					1	1					1	1				
	主任臨床検査技師	8	5					8	5					8	4				
	臨床検査技師	7	10				0.77	7	10					7	12				
	小計	17	17	0	0	0.00	0.77	17	17	0	0	0.00	0.00	17	18	0	0	0.00	0.00
	栄養管理室長	1	1					1	1					1	1				
	主任栄養士	1	1					1	1					1	0				
	栄養士	3	2		1			3	3					3	4				
	小計	5	4	0	1	0.00	0.00	5	5	0	0	0.00	0.00	5	5	0	0	0.00	0.00
	理学療法士長	1	1					1	1					1	1				
	主任理学療法士	2	2					2	2					2	2				
	理学療法士	13	12					13	14					13	13				
	小計	16	15	0	0	0.00	0.00	16	17	0	0	0.00	0.00	16	16	0	0	0.00	0.00
	作業療法士長	1	0					1						1					
	副作業療法士長	0	1					0	1					0	1				
	主任作業療法士	2	0					2	1					2	1				
	作業療法士	8	10					8	8					8	9				
	小計	11	11	0	0	0.00	0.00	11	10	0	0	0.00	0.00	11	11	0	0	0.00	0.00
	言語聴覚士	3	2	0	0	0.00	0.00	3	3	0	0	0.00	0.00	3	3	0	0	0.00	0.00
	臨床工学技士長	−	−					−	−					1	1				
	主任臨床工学技士	1	1					1	1					2	2				
	臨床工学技士	6	6					6	6					4	4				
	小計	7	7	0	0	0.00	0.00	7	7	0	0	0.00	0.00	7	7	0	0	0.00	0.00
	視能訓練士	1	1					1	1					1	1			0.77	0.31
	心理療法士	2	2					2	2					2	2				
	歯科衛生士	0	0			1.54	0.77	0	0			1.54	0.77	0	0			1.54	0.77
	計	95	91	0	1	1.54	1.54	95	94	0	0	1.54	0.77	95	93	0	0	2.31	1.08
医療職(三)	看護部長	1	1					1	1					1	1				
	副看護部長	2	2					2	2					2	2				
	看護師長	13	13					13	13					13	13				
	副看護師長	26	26					26	28					26	26				
	看護師	270	320.52			15.46	15.46	270	315.75			17.06	18.60	259	334.90			17.06	18.43
	計	312	362.52	0	0	15.46	15.46	312	359.75	0	0	17.06	18.60	301	376.90	0	0	17.06	18.43
福祉職	医療社会事業専門職	1	1					1	1					1	1				
	医療社会事業専門員	4	3		1			4	3					4	4				
	計	5	4	0	1	0.00	0.00	5	4	0	0	0.00	0.00	5	5	0	0	0.00	0.00
事務職	事務部長	1	1					1	1					1	1				
	課長・室長	3	3					3	2					3	2				
	班長・専門職	4	3					4	3					4	3				
	係長	8	5					8	5					8	5				
	一般職員	6	8.62			44.26	44.20	6	7.62			47.34	45.10	6	7.62			47.59	43.00
	計	22	20.62	0	0	44.26	44.20	22	18.62	0	0	47.34	45.10	22	18.62	0	0	47.59	43.00
診療情報管理職	医療情報管理係長	1	0					1	0					1	0				
	診療情報管理士	4	4					4	5					4	5				
	計	5	4	0	0	0.00	0.00	5	5	0	0	0.00	0.00	5	5	0	0	0.00	0.00
技能職		6	6	0	0	27.02	25.42	4	4	0	0	28.59	27.73	3	3	0	0	29.30	25.91
合計		495	537.77	32	34	88.28	86.62	493	535.00	31	29	94.53	92.20	481	551.04	25	26	96.26	88.42

Section 2

統　計

統　計

診療科別　患者数、診療点数等

		外来					入院	
		延べ患者数	1日平均患者数	延べ診療点数	1人1日診療点数	初診患者数	延べ患者数	1日平均患者数
内科	H30年度	88	0.4	159,791	1,815.8	8	13	0.0
	R1年度	348	1.5	176,223	506.4	27	12	0.0
	R2年度	551	2.3	283,239	514.0	125	19	0.1
糖尿病・血液内科	H30年度	11,352	47.3	25,640,889	2,258.7	599	12,404	34.0
	R1年度	11,982	49.9	28,762,712	2,400.5	754	12,610	34.5
	R2年度	12,458	51.3	32,255,505	2,589.1	222	10,856	29.7
総合診療科	H30年度	4,287	17.9	10,672,286	2,489.5	1,783	4,767	13.1
	R1年度	4,592	19.1	11,641,531	2,535.2	1,967	3,329	9.1
	R2年度	4,046	16.7	11,563,690	2,858.1	1,602	2,369	6.5
女性総合	H30年度	106	0.4	68,834	649.4	11		
	R1年度	96	0.4	59,985	624.8	12		
	R2年度	93	0.4	45,800	492.5	11		
（内科 計）	H30年度	15,833	66	36,541,800	2,308.0	2,401	17,184	47.1
	R1年度	17,018	70.9	40,640,451	2,388.1	2,760	15,951	43.6
	R2年度	17,148	70.6	44,148,234	2,574.5	1,960	13,244	36.3
精神科	H30年度	5,629	23.5	2,069,730	367.7	549	11	0.0
	R1年度	5,473	22.8	1,960,889	358.3	738	19	0.1
	R2年度	4,674	19.2	1,619,951	346.6	81	44	0.1
脳神経内科	H30年度	12,099	50.4	15,282,330	1,263.1	658	13,868	38.0
	R1年度	11,910	49.6	23,844,362	2,002.0	656	14,181	38.7
	R2年度	10,799	44.4	27,654,296	2,560.8	407	12,088	33.1
呼吸器内科	H30年度	1,818	7.6	2,116,824	1,164.4	192	2	0.0
	R1年度	2,160	9	2,302,459	1,066.0	244		
	R2年度	1,692	7	1,914,634	1,131.6	53		
消化器内科	H30年度	10,264	42.8	19,306,385	1,881.0	829	9,289	25.4
	R1年度	11,320	47.2	18,175,197	1,605.6	865	10,488	28.7
	R2年度	10,157	41.8	16,844,122	1,658.4	459	9,758	26.7
循環器内科	H30年度	8,485	35.4	5,221,813	615.4	510	5,626	15.4
	R1年度	8,155	34	5,368,844	658.3	503	5,904	16.1
	R2年度	7,027	28.9	4,440,714	632.0	122	4,233	11.6
小児科	H30年度	4,589	19.1	3,308,255	720.9	722	854	2.3
	R1年度	4,086	17	2,999,572	734.1	591	832	2.3
	R2年度	3,160	13	2,510,256	794.4	436	678	1.9
外科	H30年度	12,365	51.5	39,470,287	3,192.1	773	15,525	42.5
	R1年度	12,378	51.6	48,834,809	3,945.3	726	15,212	41.6
	R2年度	11,104	45.7	45,793,644	4,124.1	570	16,003	43.8
心臓血管外科	H30年度							
	R1年度	765	3.2	711,009	929.4	66	860	2.3
	R2年度	978	4	697,922	713.6	35	1,657	4.5
整形外科	H30年度	19,814	82.6	17,141,687	865.1	1,339	30,300	83.0
	R1年度	19,627	81.8	17,185,359	875.6	1,267	32,166	87.9
	R2年度	16,864	69.4	15,273,307	905.7	914	28,917	79.2
脳神経外科	H30年度	2,516	10.5	3,431,000	1,363.7	257	4,813	13.2
	R1年度	1,992	8.3	3,719,283	1,867.1	226	4,445	12.1
	R2年度	1,722	7.1	3,344,102	1,942.0	111	6,014	16.5
形成外科（H31.2より）	H30年度	19	0.1	3,686	194.0	5		
	R1年度	439	1.8	213,248	485.8	46		
	R2年度	431	1.8	208,068	482.8	20		
腫瘍内科	H30年度	742	3.1	2,592,194	3,493.5	231	1,097	3.0
	R1年度	331	1.4	1,315,882	3,975.5	155	185	0.5
	R2年度	4	0	0	0.0	0	0	0.0
皮膚科	H30年度	2,359	9.8	265,635	112.6	398		
	R1年度	2,710	11.3	440,238	162.4	369		
	R2年度	1,738	7.2	336,986	193.9	35		
泌尿器科	H30年度	17,900	74.6	35,026,846	1,956.8	482	5,656	15.5
	R1年度	17,962	74.8	38,822,620	2,161.4	513	5,475	15.0
	R2年度	17,334	71.3	37,092,258	2,139.9	291	5,037	13.8
産婦人科	H30年度	3,769	15.7	2,600,540	690.0	393	1,921	5.3
	R1年度	3,610	15	2,541,441	704.0	358	1,610	4.4
	R2年度	3,151	13	2,364,446	750.4	244	1,583	4.3
眼科	H30年度	12,802	53.3	10,886,875	850.4	512	1,414	3.9
	R1年度	13,559	56.5	10,338,289	762.5	554	1,162	3.2
	R2年度	11,976	49.3	9,490,167	792.4	256	597	1.6
耳鼻咽喉科	H30年度	6,442	26.8	5,124,607	795.5	603	2,859	7.8
	R1年度	6,251	26	5,001,322	800.1	598	2,368	6.5
	R2年度	5,261	21.7	4,376,005	831.8	316	1,626	4.5
リハ科	H30年度	2,913	12.1	443	0.2	0		
	R1年度	3,394	14.1	1,110	0.3	1		
	R2年度	2,337	9.6	1,900	0.8	8		
放射線診断	H30年度	1,289	5.4	4,915,311	3,813.3	1,074		
	R1年度	1,064	4.4	4,202,456	3,949.7	720		
	R2年度	914	3.8	3,726,659	4,077.3	689		
放射線治療	H30年度	2,010	8.4	3,986,953	1,983.6	69		
	R1年度	1,807	7.5	3,623,808	2,005.4	181		
	R2年度	2,431	10	2,969,177	1,221.4	12		
救急科	H30年度	4,662	19.4	9,764,768	2,094.5	2,941	353	1.0
	R1年度	4,710	19.6	10,099,725	2,144.3	2,941	344	0.9
	R2年度	4,328	17.8	7,794,516	1,801.0	2,095	475	1.3
麻酔科	H30年度	1,530	6.4	548,278	358.4	383	72	0.2
	R1年度	1,396	5.8	438,121	313.8	357	67	0.2
	R2年度	1,029	4.2	324,710	315.6	9	25	0.1
歯科口腔外科	H30年度	5,067	21.1	1,908,933	376.7	670	986	2.7
	R1年度	5,185	21.6	1,886,045	363.8	771	1,017	2.8
	R2年度	3,363	13.8	2,027,031	602.7	442	969	2.7
合計	H30年度	154,916	634.9	221,515,180	1,429.9	15,991	111,830	306.4
	R1年度	157,302	655.4	########	1,555.4	16,206	112,286	306.8
	R2年度	139,622	574.6	234,953,105	1,682.8	9,565	102,948	282.0

入院					合計		
平均 在院日数	延べ 診療点数	1人1日 診療点数	延べ 新入院数	1日当たり 新入院数	診療点数		
0.0	180,313	13,870.2	13	0.0	340,104	H30年度	内科
0.0	157,994	13,166.2	12	0.0	334,217	R1年度	
30.0	249,342	13,123.3	19	0.1	532,581	R2年度	
27.3	62,187,354	5,013.5	445	1.2	87,828,243	H30年度	糖尿病・ 血液内科
30.9	64,187,932	5,090.2	409	1.1	92,950,644	R1年度	
25.9	62,573,913	5,764.0	412	1.1	94,829,418	R2年度	
18.5	22,015,166	4,618.2	265	0.7	32,687,452	H30年度	総合診療科
16.7	16,491,724	4,954.0	205	0.6	28,133,255	R1年度	
15.6	12,847,983	5,423.4	161	0.4	24,411,673	R2年度	
					68,834	H30年度	女性総合
					59,985	R1年度	
					45,800	R2年度	
24.2	84,382,833	4,910.5	723	2.0	120,924,633	H30年度	（内科 計）
26.4	80,837,650	5,067.9	626	1.7	121,478,101	R1年度	
23.2	75,671,238	5,713.6	592	1.6	119,819,472	R2年度	
1.8	200,028	18,184.4	7	0.0	2,269,758	H30年度	精神科
1.5	191,279	10,067.3	12	0.0	2,152,168	R1年度	
2.9	358,922	8,157.3	15	0.0	1,978,873	R2年度	
24.1	75,670,864	5,456.5	573	1.6	90,953,194	H30年度	脳神経内科
25.3	74,521,645	5,255.0	547	1.5	98,366,007	R1年度	
24.4	68,128,275	5,636.0	497	1.4	95,782,571	R2年度	
4.0	15,696	7,848.0	1	0.0	2,132,520	H30年度	呼吸器内科
					2,302,459	R1年度	
					1,914,634	R2年度	
16.5	47,377,432	5,100.4	732	2.0	66,683,817	H30年度	消化器内科
14.5	59,764,375	5,698.4	958	2.6	77,939,572	R1年度	
14.7	55,636,165	5,701.6	861	2.4	72,480,287	R2年度	
21.8	31,345,058	5,571.5	250	0.7	36,566,871	H30年度	循環器内科
21.5	32,768,394	5,550.2	262	0.7	38,137,238	R1年度	
22.3	23,225,811	5,486.8	180	0.5	27,666,525	R2年度	
3.6	4,477,506	5,243.0	237	0.6	7,785,761	H30年度	小児科
3.2	4,534,316	5,449.9	262	0.7	7,533,888	R1年度	
3.8	3,577,195	5,276.1	181	0.5	6,087,451	R2年度	
10.3	117,450,258	7,565.2	1,505	4.1	156,920,545	H30年度	外科
10.5	116,788,326	7,677.4	1,444	3.9	165,623,135	R1年度	
11.3	123,365,689	7,708.9	1,432	3.9	169,159,333	R2年度	
						H30年度	心臓血管外科
9.8	8,105,645	9,425.2	77	0.2	8,816,654	R1年度	
20.9	14,274,471	8,614.6	75	0.2	14,972,393	R2年度	
29.3	152,667,320	5,038.5	1,039	2.8	169,809,007	H30年度	整形外科
31.0	157,821,211	4,906.5	1,024	2.8	175,006,570	R1年度	
26.6	163,107,544	5,640.5	1,050	2.9	178,380,851	R2年度	
25.3	31,541,748	6,553.4	177	0.5	34,972,748	H30年度	脳神経外科
19.9	32,521,585	7,316.4	213	0.6	36,240,868	R1年度	
26.3	40,516,699	6,737.1	226	0.6	43,860,801	R2年度	
					3,686	H30年度	形成外科 （H31.2より）
					213,248	R1年度	
					208,068	R2年度	
18.7	5,145,519	4,690.5	57	0.2	7,737,713	H30年度	腫瘍内科
17.6	863,088	4,665.3	9	0.0	2,178,970	R1年度	
	0	0.0	0	0.0	0	R2年度	
					265,635	H30年度	皮膚科
					440,238	R1年度	
					336,986	R2年度	
12.3	32,407,669	5,729.8	498	1.4	67,434,515	H30年度	泌尿器科
12.4	31,623,237	5,775.9	516	1.4	70,445,857	R1年度	
12.8	30,320,272	6,019.5	455	1.2	67,412,530	R2年度	
13.7	11,010,779	5,731.8	166	0.5	13,611,319	H30年度	産婦人科
15.4	8,252,542	5,125.8	130	0.4	10,793,983	R1年度	
11.6	11,511,319	7,271.8	155	0.4	13,875,765	R2年度	
2.1	15,524,029	10,978.8	556	1.5	26,410,904	H30年度	眼科
1.7	12,408,610	10,678.7	484	1.3	22,746,899	R1年度	
2.0	6,740,906	11,291.3	277	0.8	16,231,073	R2年度	
13.3	13,130,372	4,592.6	237	0.6	18,254,979	H30年度	耳鼻咽喉科
10.4	11,923,615	5,035.3	242	0.7	16,924,937	R1年度	
10.4	8,267,062	5,084.3	156	0.4	12,643,067	R2年度	
					443	H30年度	リハ科
					1,110	R1年度	
					1,900	R2年度	
					4,915,311	H30年度	放射線診断
					4,202,456	R1年度	
					3,726,659	R2年度	
					3,986,953	H30年度	放射線治療
					3,623,808	R1年度	
					2,969,177	R2年度	
3.0	3,357,574	9,511.5	220	0.6	13,122,342	H30年度	救急科
2.8	3,254,489	9,460.7	230	0.6	13,354,214	R1年度	
4.1	4,123,280	8,680.6	193	0.5	11,917,796	R2年度	
11.1	355,752	4,941.0	7	0.0	904,030	H30年度	麻酔科
4.9	348,889	5,207.3	12	0.0	787,010	R1年度	
8.0	112,470	4,498.8	5	0.0	437,180	R2年度	
13.7	4,297,205	4,358.2	72	0.2	6,206,138	H30年度	歯科口腔外科
10.8	4,468,680	4,394.0	98	0.3	6,354,725	R1年度	
12.5	4,854,947	5,010.3	79	0.2	6,881,978	R2年度	
17.4	########	5,636.7	7,057	19.3	851,872,822	H30年度	合計
17.3	########	5,708.6	7,146	19.5	885,664,115	R1年度	
17.3	########	6,156.4	6,429	17.6	868,745,370	R2年度	

病棟別　患者数、診療点数等

		延べ 患者数	1日平均 患者数	平均 在院日数	延べ 診療点数	1人1日あたり 診療点数	新入院数	退院数
救命救急	H30年度	3,347	9.2	8.7	43,378,878	12,960.5	664	137
	R1年度	3,495	9.5	9.2	43,682,289	12,498.5	688	118
	R2年度	2,883	7.9	8.6	37,680,750	13,070.0	605	100
ICU	H30年度	791	2.2	20.7	26,291,817	33,238.7	53	24
	R1年度	899	2.5	28.6	29,300,925	32,592.8	43	21
	R2年度	1,059	2.9	29.9	32,317,617	30,517.1	51	26
4C	H30年度	15,914	43.6	17.2	85,593,580	5,378.5	1,034	1,010
	R1年度	16,058	43.9	18.8	84,753,817	5,278.0	995	961
	R2年度	15,196	41.6	16.9	91,515,702	6,022.4	993	1,022
5B	H30年度	15,400	42.2	24.7	81,770,495	5,309.8	591	694
	R1年度	15,389	42.0	23.0	80,695,495	5,243.7	625	761
	R2年度	15,234	41.7	26.8	88,822,315	5,830.5	483	712
6B	H30年度	15,673	42.9	17.4	72,319,626	4,614.3	1,044	1,097
	R1年度	15,830	43.3	15.7	77,465,204	4,893.6	1,219	1,231
	R2年度	15,048	41.2	16.3	74,171,648	4,929.0	987	1,054
6C	H30年度	14,744	40.4	9.7	104,510,865	7,088.4	1,613	1,451
	R1年度	15,423	42.1	9.8	110,986,751	7,196.2	1,667	1,547
	R2年度	16,318	44.7	11.2	118,299,736	7,249.6	1,521	1,444
7B	H30年度	16,911	46.3	16.7	108,318,617	6,405.2	1,216	799
	R1年度	17,046	46.6	16.8	109,161,510	6,403.9	1,200	778
	R2年度	16,856	46.2	18.7	121,590,733	7,213.5	1,071	718
急性期病棟 計	H30年度	78,642	215.5	15.8	452,513,183	5,754.1	5,498	5,051
	R1年度	79,746	217.9	15.6	463,062,777	5,806.7	5,706	5,278
	R2年度	78,652	215.5	16.6	494,400,431	6,285.9	5,055	4,950
5C	H30年度	12,931	35.4	21.6	52,504,652	4,063.2	645	1,176
	R1年度	12,107	33.1	23.6	49,660,527	4,101.8	577	1,105
	R2年度	7,310	20.0	21.2	30,961,950	4,235.6	369	624
7C	H30年度	16,119	44.2	38.9	55,633,112	3,451.4	197	663
	R1年度	16,039	43.8	42.7	55,291,058	3,447.3	132	634
	R2年度	13,044	35.7	30.6	47,789,601	3,663.7	349	780
地域包括 計	H30年度	29,050	79.6	29.1	108,173,764	3,723.7	842	1,839
	R1年度	28,146	76.9	32.0	104,951,585	3,728.8	709	1,739
	R2年度	20,354	55.8	26.2	78,751,551	3,869.1	718	1,404
合計	H30年度	111,830	306.4	17.4	630,357,642	5,636.7	7,057	7,051
	R1年度	112,286	306.8	17.3	640,997,576	5,708.6	7,146	7,156
	R2年度	102,948	282.0	17.3	643,150,052	6,247.3	6,429	6,480

病棟名	運営病床数	主な診療科	届出入院基本料
E1病棟	12 床('19年12月まで16床)	救命救急センター	救命救急入院料1
E2病棟	4 床	ICU	特定集中治療室管理料3
4C病棟	54 床	産婦人科、新生児、糖尿病・血液内科、眼科、泌尿器科	急性期一般入院料1
5B病棟	52 床	脳神経外科(急性期)、脳神経内科(急性期)、循環器内科(急性期)、総合診療(急性期)	急性期一般入院料1
5C病棟	51 床	総合診療、循環器内科、脳神経外科、脳神経内科	地域包括ケア病棟入院料2
6B病棟	54 床	消化器内科、腫瘍内科、外科、緩和ケア、放射線科、歯科口腔外科	急性期一般入院料1
6C病棟	53 床	外科(周術期)、消化器内科(内視鏡治療)	急性期一般入院料1
7B病棟	54 床	整形外科、耳鼻咽喉科、小児科	急性期一般入院料1
7C病棟	45 床('20年1月まで52床)	整形外科、脳神経内科、脳神経外科	地域包括ケア病棟入院料2

紹介率・逆紹介率

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018（H30）年度	A 初診患者数	936	1,000	936	1,077	1,023	836	995	949	935	1,068	920	1,006	11,681
	B 初診紹介患者数	417	392	435	457	366	359	445	404	369	390	381	436	4,851
	C 初診救急搬送	137	181	136	214	171	162	190	139	162	178	169	186	2,025
	D 初診休日夜間	176	189	166	234	225	189	167	149	204	271	182	202	2,354
	E 逆紹介患者数	472	500	485	489	457	460	514	503	474	436	428	476	5,694
	紹介率	66.9%	62.2%	68.6%	72.7%	58.4%	74.0%	69.7%	61.1%	64.9%	63.0%	67.0%	70.6%	66.4%
	逆紹介率	75.8%	79.4%	76.5%	77.7%	72.9%	94.8%	80.6%	76.1%	83.3%	70.4%	75.2%	77.0%	78.0%

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019（R1）年度	A 初診患者数	934	1,025	903	1,007	1,051	896	1,010	935	1,005	1,012	803	780	11,361
	B 初診紹介患者数	433	446	378	443	377	370	425	395	375	395	323	350	4,710
	C 初診救急搬送	140	193	163	173	217	160	161	157	229	191	152	154	2,090
	D 初診休日夜間	217	232	210	204	240	181	201	174	232	237	205	157	2,490
	E 逆紹介患者数	497	498	480	528	498	451	523	527	516	466	427	462	5,873
	紹介率	75.0%	74.3%	71.3%	70.3%	63.5%	66.7%	65.6%	65.4%	68.9%	67.6%	72.4%	74.6%	69.5%
	逆紹介率	86.1%	83.0%	90.6%	83.8%	83.8%	81.3%	80.7%	87.3%	94.9%	79.8%	95.7%	98.5%	86.6%

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020（R2）年度	A 初診患者数	654	639	826	933	789	799	849	787	723	762	643	810	9,214
	B 初診紹介患者数	328	283	426	426	406	386	447	380	366	421	322	415	4,606
	C 初診救急搬送	140	138	123	183	158	160	146	165	167	171	148	139	1,838
	D 初診休日夜間	90	156	153	171	138	151	127	153	104	127	119	108	1,597
	E 逆紹介患者数	394	383	475	448	481	461	563	460	481	479	484	582	5,691
	紹介率	77.4%	82.0%	77.5%	73.6%	82.4%	79.1%	77.6%	81.0%	81.0%	90.7%	85.6%	73.7%	79.7%
	逆紹介率	92.9%	111.0%	86.4%	77.4%	97.6%	94.5%	97.7%	98.1%	106.4%	103.2%	128.7%	103.4%	98.5%

$$\text{紹介率} = \frac{\text{B 初診紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{E 逆紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

ビーンズ訪問看護ステーション

○訪問看護利用件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018（H30）年度	介護保険分	216	216	215	272	248	205	274	224	233	278	216	251	2,848
	医療保険分	127	175	130	89	177	108	127	179	135	116	88	122	1,573
	計	343	391	345	361	425	313	401	403	368	394	304	373	4,421
2019（R1）年度	介護保険分	275	249	236	260	256	250	260	265	247	211	209	242	2,960
	医療保険分	107	110	96	120	114	968	113	124	158	112	129	100	2,251
	計	382	359	332	380	370	1218	373	389	405	323	338	342	5,211
2020（R2）年度	介護保険分	230	194	222	208	193	77	188	182	184	162	152	232	2,224
	医療保険分	118	116	142	145	96	100	105	95	103	89	78	104	1,291
	計	348	310	364	353	289	177	293	277	287	251	230	336	3,515

手術件数(手術室実施分)

○2018(H30)年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術件数	総件数	242	264	248	257	247	179	272	264	225	239	247	266	2,950	245.8
	外科	47	53	43	51	43	40	61	45	43	53	55	50	584	48.7
	脳神経外科	11	6	10	8	11	10	7	9	10	1	3	2	88	7.3
	整形外科	87	84	74	78	66	68	90	95	91	99	84	103	1,019	84.9
	産婦人科	4	6	4	4	11	5	6	3	2	47	9	3	61	5.1
	泌尿器科	11	13	18	15	10	10	15	14	7	12	15	17	157	13.1
	耳鼻咽喉科	6	5	7	6	7	3	4	5	3	2	4	4	56	4.7
	歯科口腔外科	2	2	3	2	2	0	0	1	0	2	1	3	18	1.5
	眼科	74	95	89	91	96	43	88	90	69	66	75	83	959	79.9
	その他	0	0	0	2	1	0	1	2	0	0	1	1	8	0.7
手術点数	200～2999点	46	47	60	58	60	34	54	54	47	40	40	40	580	48.3
	3000～7999点	27	30	28	29	18	17	32	30	20	19	39	37	326	27.2
	8000点以上	169	184	159	163	164	128	181	179	158	177	166	188	2,016	168.0
	自費・算定不可	0	3	1	7	5	0	5	1	0	3	2	1	28	2.3
(再掲)時間外手術		38	35	38	51	30	37	66	47	44	50	42	49	527	43.9

麻酔件数	全麻	124	132	107	119	119	105	139	136	124	137	122	142	1,506	125.5
	腰麻	11	14	18	15	15	18	14	14	10	14	19	14	176	14.7
	局麻	98	111	119	120	109	54	109	109	85	81	98	104	1,197	99.8
	その他	9	7	4	3	4	2	10	5	6	7	8	6	71	5.9
麻酔点数	1000点未満	122	132	141	138	129	74	131	135	102	101	125	123	1,453	121.1
	1000点以上	120	132	107	119	118	105	141	136	123	138	122	143	1,504	125.3

○2019(R1)年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術件数	総件数	263	272	241	268	262	217	295	236	185	188	198	241	2,866	238.5
	外科	50	46	50	43	46	51	58	37	49	38	51	48	567	47.3
	心臓血管外科	0	0	1	8	2	11	10	10	3	5	8	7	65	5.4
	脳神経外科	11	9	7	7	11	10	10	10	9	8	7	11	110	9.2
	整形外科	88	104	68	87	100	66	90	77	86	81	76	84	1,007	83.9
	産婦人科	10	4	5	5	7	5	6	2	2	5	2	5	58	4.8
	泌尿器科	15	14	13	17	10	12	16	13	12	14	18	16	170	14.2
	耳鼻咽喉科	6	3	5	4	9	6	6	5	5	3	2	5	59	4.8
	歯科口腔外科	2	1	4	2	4	4	4	2	3	1	4	5	36	3.0
	眼科	80	91	87	94	71	50	94	78	14	32	28	58	777	64.7
	その他	1	0	1	1	2	2	1	2	2	1	2	2	17	1.3
手術点数	200～2999点	38	44	43	47	43	48	54	51	28	38	26	37	497	41.4
	3000～7999点	40	30	33	29	34	18	33	26	21	18	25	32	339	28.3
	8000点以上	182	196	163	190	184	151	207	158	135	131	146	167	2,010	167.5
	自費・算定不可	3	2	2	2	1	0	1	1	1	1	1	5	20	1.7
(再掲)時間外手術		53	56	33	51	55	37	56	36	33	34	58	39	541	45.1

麻酔件数	全麻	141	134	119	121	142	116	137	112	128	125	133	135	1,543	128.6
	腰麻	22	14	12	15	7	16	17	11	12	12	9	14	161	13.4
	局麻	96	115	105	119	105	80	132	108	37	49	50	86	1,082	90.2
	その他	3	9	5	12	8	5	8	4	8	2	6	6	76	6.3
麻酔点数	1000点未満	119	137	121	145	119	102	158	123	57	63	62	106	1,312	109.3
	1000点以上	143	135	120	122	143	115	136	112	128	125	136	135	1,550	129.2

○2020(R2)年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術件数	総件数	204	188	247	213	205	196	251	197	212	238	197	239	2,587	215.6
	外科	44	35	31	57	38	52	66	42	52	41	45	47	550	45.8
	心臓血管外科	1	1	4	6	2	4	6	5	2	2	2	1	36	3.0
	脳神経外科	9	7	11	10	8	8	6	13	12	11	9	9	113	9.4
	整形外科	66	75	103	76	97	85	88	78	87	112	80	103	1,050	87.5
	産婦人科	6	2	2	3	3	4	7	1	4	4	2	3	41	3.4
	泌尿器科	9	19	15	15	13	17	15	13	6	11	14	11	158	13.2
	耳鼻咽喉科	5	2	7	4	9	1	2	3	1	3	4	3	44	3.7
	歯科口腔外科	2	1	4	3	4	0	1	2	5	3	2	6	33	2.8
	眼科	59	44	67	38	31	25	59	39	41	50	38	56	547	45.6
	その他	3	2	3	1	0	0	1	1	2	1	1	0	15	1.3
手術点数	200～2999点	46	33	54	39	40	21	51	31	44	35	21	43	458	38.2
	3000～7999点	26	20	21	15	398	20	31	24	24	24	19	35	298	24.8
	8000点以上	131	135	170	159	125	156	168	142	146	176	157	161	1,826	152.2
	自費・算定不可	1	0	2	0	1	0	1	0	0	3	0	0	8	0.7
(再掲)時間外手術		29	39	38	50	54	46	64	48	43	71	40	43	565	47.1

麻酔件数	全麻	105	103	131	133	131	130	137	118	138	155	115	134	1,530	127.5
	腰麻	9	12	11	12	11	15	16	9	9	11	12	10	137	11.4
	局麻	80	64	97	65	57	43	88	66	61	68	63	87	839	69.9
	その他	10	9	8	3	6	8	10	4	4	4	7	8	81	6.8
麻酔点数	1000点未満	98	85	115	80	74	63	113	79	73	83	81	104	1,048	87.3
	1000点以上	106	103	132	133	131	133	138	118	139	155	116	135	1,539	128.3

コ・メディカルデータ

○薬剤部

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤師人数	人	H30年度	15	15	15	15	16	15	15	14	14	14	14	14	−
		R1年度	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	−
		R2年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	13	−
薬剤管理指導件数	件	H30年度	695	738	729	763	699	608	727	691	626	631	603	564	8,074
		R1年度	478	439	624	806	641	567	549	568	504	524	527	633	6,860
		R2年度	429	490	639	669	661	600	585	589	629	637	553	536	7,017
後発医薬品採用品目数比率	%	H30年度	57.8%	59.9%	60.0%	60.5%	62.5%	61.4%	60.4%	58.2%	59.6%	59.7%	58.1%	60.1%	59.9%
		R1年度	63.1%	57.2%	58.2%	59.3%	62.8%	61.3%	63.0%	62.0%	62.3%	62.1%	61.2%	61.2%	61.1%
		R2年度	61.5%	61.4%	61.9%	62.5%	62.3%	62.5%	63.0%	64.0%	64.0%	63.6%	68.0%	64.7%	63.3%
（購入金額ベース）	%	H30年度	(58.3%)	(65.1%)	(58.8%)	(63.1%)	(64.0%)	(64.6%)	(58.7%)	(65.5%)	(60.2%)	(60.3%)	(73.2%)	(71.3%)	(63.6%)
		R1年度	(63.9%)	(68.5%)	(62.6%)	(70.5%)	(66.7%)	(71.3%)	(68.9%)	(54.7%)	(52.4%)	(45.7%)	(52.3%)	(59.4%)	(61.4%)
		R2年度	(58.8%)	(55.6%)	(51.6%)	(56.9%)	(61.6%)	(63.0%)	(64.9%)	(59.7%)	(66.7%)	(60.9%)	(64.9%)	(70.3%)	(61.3%)
［消費数量ベース］	%	H30年度	[88.3%]	[89.1%]	[91.3%]	[90.7%]	[90.8%]	[91.6%]	[89.7%]	[89.6%]	[90.8%]	[90.0%]	[91.2%]	[91.8%]	[90.4%]
		R1年度	[87.5%]	[89.6%]	[89.8%]	[90.4%]	[91.8%]	[93.3%]	[91.2%]	[93.6%]	[90.5%]	[92.0%]	[91.7%]	[91.7%]	[91.1%]
		R2年度	[93.3%]	[90.9%]	[90.0%]	[92.8%]	[92.8%]	[93.8%]	[93.1%]	[92.8%]	[93.7%]	[91.8%]	[93.8%]	[94.1%]	[92.7%]
調剤件数	件	H30年度	75,605	79,650	78,363	76,328	79,876	69,856	78,118	80,465	84,364	81,525	76,312	81,017	941,479
		R1年度	93,219	88,908	78,075	79,981	81,835	82,069	80,424	80,667	92,375	83,674	75,928	99,163	1,016,318
		R2年度	86,419	66,661	77,434	84,423	77,713	82,631	84,170	76,829	82,209	80,186	72,146	77,160	947,981

○診療放射線科

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療放射線技師人数	人	H30年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	−
		R1年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	−
		R2年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	−
エックス線診断・単純	人	H30年度	2,112	2,276	2,020	2,273	2,195	1,972	2,218	2,257	2,069	2,176	2,113	2,216	25,897
		R1年度	2,222	2,271	2,020	2,651	2,264	2,079	2,279	2,168	2,213	2,098	1,884	2,038	26,187
		R2年度	1,753	1,692	1,934	1,947	1,934	1,941	2,664	2,025	2,059	2,030	1,818	1,818	23,615
エックス線診断・造影	人	H30年度	78	132	108	123	149	105	151	215	147	134	142	120	1,604
		R1年度	126	138	131	197	129	154	160	215	182	150	111	128	1,821
		R2年度	117	98	149	171	157	170	177	202	245	146	130	158	1,920
エックス線診断・血管造影	人	H30年度	17	19	11	9	14	3	16	13	9	12	11	11	145
		R1年度	7	5	14	21	15	14	11	13	16	17	13	12	158
		R2年度	18	8	12	15	12	10	14	16	14	9	24	10	162
SPECT	人	H30年度	89	79	83	89	108	68	83	81	83	83	87	93	1,026
		R1年度	94	81	84	91	93	59	92	94	87	86	81	83	1,025
		R2年度	75	59	66	73	67	71	100	99	72	71	71	81	905
PET、PET/CT	人	H30年度	38	38	47	56	47	44	66	45	47	46	43	43	560
		R1年度	39	36	43	60	41	35	43	40	43	46	28	0	454
		R2年度	0	8	63	47	42	42	48	38	28	29	32	39	416
CT	人	H30年度	1,144	1,204	1,151	1,156	1,126	1,078	1,291	1,221	1,112	1,159	1,063	1,154	13,859
		R1年度	1,213	1,158	1,060	1,146	1,152	1,164	1,300	1,151	1,719	1,204	1,058	1,193	14,518
		R2年度	1,014	994	1,062	1,181	1,130	1,219	1,229	1,168	1,265	1,220	1,110	1,265	13,857
MRI	人	H30年度	411	396	462	440	435	344	424	437	374	341	389	405	4,858
		R1年度	437	374	388	435	419	374	412	434	416	397	372	377	4,835
		R2年度	368	336	380	378	384	383	453	399	411	379	389	477	4,737
放射線治療	人	H30年度	243	355	400	213	365	275	247	383	317	182	175	286	3,441
		R1年度	214	242	237	214	256	190	274	326	215	211	312	321	3,012
		R2年度	250	174	251	252	221	184	234	263	364	251	159	268	2,871

○栄養管理室

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養食事指導・入院	件	H30年度	42	67	68	65	63	62	55	66	73	32	72	62	727
		R1年度	43	44	53	66	56	55	62	49	76	55	94	100	753
		R2年度	108	103	137	140	124	168	167	110	136	142	156	101	1,592
栄養食事指導・外来	件	H30年度	34	32	34	34	34	28	31	23	32	20	30	34	366
		R1年度	33	40	30	25	31	26	31	36	32	27	20	37	368
		R2年度	40	33	48	51	49	40	58	43	46	35	30	37	510
栄養食事指導・集団	件	H30年度	12	8	10	11	1	10	3	1	2	1	4	5	68
		R1年度	4	0	4	2	4	6	3	3	4	2	2	5	39
		R2年度	7	2	6	2	7	7	5	5	4	2	7	4	58
栄養食事指導・非加算	件	H30年度	43	37	48	43	63	38	46	52	41	35	58	45	549
		R1年度	27	18	21	23	30	13	11	20	23	17	22	30	255
		R2年度	22	17	24	25	18	23	22	21	16	23	18	24	253

○臨床工学技士

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
透析患者数	人	H30年度	44	46	44	46	43	39	46	48	51	45	45	51	548
		R1年度	43	42	42	53	47	43	47	46	42	41	39	41	526
		R2年度	41	39	39	37	36	40	43	41	40	42	43	46	487
透析実施件数	件	H30年度	504	532	488	496	507	449	519	492	559	526	450	460	5,982
		R1年度	500	510	461	542	518	476	520	495	502	505	457	491	5,977
		R2年度	446	456	436	461	465	477	466	474	475	498	459	517	5,630
高気圧酸素治療実施件数	件	H30年度	57	109	128	32	22	47	81	30	29	25	19	105	684
		R1年度	125	182	137	66	94	62	82	23	56	65	71	94	1,057
		R2年度	178	163	149	129	1	53	164	158	145	123	156	131	1,550

○臨床検査科

		単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	一般検査	件	H30年度	3,774	4,413	4,231	4,496	4,635	3,958	4,606	4,334	4,279	4,083	4,058	4,176	51,043
			R1年度	4,484	4,503	4,088	4,461	4,536	4,240	4,638	4,322	4,418	4,215	3,963	4,191	52,059
			R2年度	3,867	3,209	4,068	4,461	4,185	4,292	4,478	4,211	4,398	3,854	3,720	4,462	49,205
	血液学的検査	件	H30年度	12,267	13,403	12,733	13,564	13,781	11,716	13,599	12,590	12,469	13,098	12,523	13,276	155,019
			R1年度	13,410	13,729	12,739	13,467	13,423	12,642	14,121	12,724	13,383	12,722	12,069	12,546	156,975
			R2年度	11,385	11,001	12,310	13,272	12,598	13,047	13,902	12,950	13,355	13,086	12,255	13,357	152,518
	生化学的検査	件	H30年度	66,243	71,082	68,426	72,988	73,523	63,339	74,843	68,488	67,254	69,839	67,533	70,838	834,396
			R1年度	73,573	73,555	67,011	73,114	72,297	68,946	75,608	68,870	73,162	70,875	65,843	67,681	850,535
			R2年度	62,663	59,673	68,340	73,951	69,279	71,644	75,803	70,618	71,072	68,528	64,204	74,531	830,306
	免疫学的検査	件	H30年度	7,593	8,160	8,155	8,363	8,162	7,413	8,524	8,013	7,928	8,779	8,054	8,385	97,529
			R1年度	8,278	8,673	7,793	8,028	7,952	8,098	8,715	7,808	8,734	7,950	7,640	8,028	97,697
			R2年度	6,832	6,692	7,670	8,027	7,414	7,677	8,109	7,629	9,249	9,074	8,267	9,717	96,357
	微生物学的検査	件	H30年度	1,107	1,201	1,350	1,246	1,324	1,066	1,496	1,397	1,310	1,365	1,275	1,838	15,975
			R1年度	1,242	1,389	1,176	1,288	1,437	1,288	1,643	1,045	1,426	1,249	1,187	1,109	15,479
			R2年度	1,103	1,111	1,318	1,374	1,407	1,243	1,396	1,485	1,370	1,454	1,296	1,265	15,822
生理検査	心電図	件	H30年度	539	604	610	584	583	547	655	544	544	564	651	584	7,009
			R1年度	561	601	605	670	649	600	661	596	618	649	597	592	7,399
			R2年度	440	375	532	532	536	561	615	523	502	500	487	567	6,170
	呼吸機能検査	件	H30年度	123	128	98	106	104	117	156	112	72	112	103	110	1,341
			R1年度	86	150	136	130	140	132	100	118	102	116	134	84	1,428
			R2年度	104	76	116	104	117	107	134	98	110	78	88	150	1,282
	脳波検査	件	H30年度	36	46	46	49	42	28	41	45	30	40	47	41	491
			R1年度	36	40	28	40	39	29	36	53	55	43	53	54	506
			R2年度	44	37	47	50	52	35	39	29	30	19	28	49	459
	心エコー	件	H30年度	239	253	223	278	231	209	278	261	227	283	262	254	2,998
			R1年度	267	282	248	261	273	255	292	276	270	310	252	245	3,231
			R2年度	213	214	216	224	209	268	314	253	243	274	239	275	2,942
	腹部エコー	件	H30年度	133	137	143	151	167	140	180	132	154	153	156	140	1,786
			R1年度	175	147	163	172	170	161	167	169	165	150	135	137	1,911
			R2年度	123	91	146	116	107	133	152	137	130	102	104	157	1,498
	体表エコー（甲状腺）	件	H30年度	105	91	102	87	93	84	129	91	97	101	102	113	1,195
			R1年度	97	90	99	83	86	77	97	75	110	94	84	90	1,082
			R2年度	87	70	92	83	64	90	98	98	83	87	80	94	1,026
	血管エコー（頸動脈・下肢動静脈）	件	H30年度	88	79	89	96	99	67	87	86	72	86	83	69	1,001
			R1年度	80	86	67	116	104	107	118	118	104	93	92	114	1,199
			R2年度	95	52	85	67	79	71	98	83	76	77	76	79	938
	乳腺エコー	件	H30年度	46	55	49	64	73	68	57	67	63	63	56	58	719
			R1年度	50	55	54	82	68	52	66	65	60	42	48	49	691
			R2年度	42	31	46	40	58	53	53	56	53	41	47	52	572

○リハビリテーション科

		単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	職員数	人	H30年度	15	15.7	16	16	16	16	16	16	15	15	14	15	－
			R1年度	17	16.5	16	16	15	15	15.7	16	15.2	15	15	15	－
			R2年度	14	14	14	14	14	15	15	15	14	14	14	14	－
	単位数	単位	H30年度	4,865	5,293	5,274	5,340	5,501	5,001	5,050	5,077	4,759	4,746	4,271	5,057	60,234
			R1年度	5,115	5,211	4,603	4,545	4,393	4,488	4,296	4,316	4,823	4,461	4,357	4,065	54,673
			R2年度	3,544	3,660	3,946	4,161	4,056	4,092	4,390	4,121	4,060	3,758	3,453	3,805	47,046
	1人1日当たり単位数	単位	H30年度	17.3	17.8	17.0	17.8	18.7	18.2	17.5	18.1	18.2	19.0	18.8	17.7	18.0
			R1年度	16.7	17.8	16.5	16.2	16.4	16.8	15.7	16.9	18.1	18.0	18.1	17.7	17.1
			R2年度	12.6	14.3	14.8	15.2	15.4	14.6	15.1	15.3	15.4	15.5	15.2	15.0	14.9
作業療法	職員数	人	H30年度	11	11	11	10	10	9	9	9	9	9	9	9	－
			R1年度	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	－
			R2年度	11	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	－
	単位数	単位	H30年度	3,329	3,385	3,508	3,216	3,228	2,807	2,915	3,041	3,077	2,736	2,631	2,550	36,423
			R1年度	2,973	3,281	3,283	3,382	3,369	3,209	3,396	3,075	3,224	3,237	3,092	3,488	39,009
			R2年度	3,361	3,051	3,311	2,954	2,918	2,890	2,889	2,466	2,729	2,437	2,186	2,608	33,800
	1人1日当たり単位数	単位	H30年度	15.8	16.4	17.4	17.5	18.1	18.2	17.5	18.5	18.5	17.7	18.0	18.4	17.6
			R1年度	16.0	17.2	16.7	16.9	16.8	16.7	16.3	16.8	17.0	17.5	17.2	17.3	16.9
			R2年度	16.2	15.9	16.6	16.3	16.7	16.3	16.4	15.8	16.1	15.6	14.8	16.0	16.1
言語聴覚	職員数	人	H30年度	2	2.6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	－
			R1年度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	－
			R2年度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	－
	単位数	単位	H30年度	698	852	746	969	914	854	654	684	835	786	779	790	9,561
			R1年度	688	793	854	821	799	686	705	742	766	812	814	804	9,284
			R2年度	842	839	847	850	828	793	874	844	778	759	680	799	9,733
	1人1日当たり単位数	単位	H30年度	18.4	15.5	12.4	15.4	15.2	16.1	11.5	12.0	14.9	15.4	13.9	14.4	14.5
			R1年度	12.3	14.2	14.5	13.9	13.5	12.7	12.2	12.9	14.5	14.3	15.4	15.2	13.8
			R2年度	15.0	14.1	14.4	14.4	14.5	13.6	14.8	14.8	14.7	14.1	13.3	13.8	14.3
退院時リハ		件	H30年度	1	0	2	1	2	0	5	5	4	2	0	0	22
			R1年度	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			R2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

財務諸表

○損益計算書　（円）

勘定科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総収益	8,651,752,610	9,007,714,043	9,440,025,158
経常収益	8,651,223,410	9,007,013,539	9,440,025,158
医業収益	8,498,653,951	8,845,267,886	8,684,913,364
入院診療収益	6,059,438,891	6,174,972,530	6,124,001,222
室料差額収益	163,603,731	152,735,068	145,444,730
外来診療収益	2,201,626,185	2,428,847,991	2,337,075,567
保健予防活動収益	59,820,168	61,867,335	56,260,131
その他医業収益	43,011,847	44,419,456	39,872,364
保険等査定減(△)	▲ 28,996,871	▲ 17,877,272	▲ 18,646,206
医業外収益	152,569,459	161,746	755,111,794
診療業務収益	92,600,197	101,963,278	703,669,639
教育研修業務収益	194,400	0	0
臨床研究業務収益	31,774,956	24,813,780	27,773,797
その他経常収益	27,999,906	34,968,595	23,668,358
臨時利益	529,200	700,504	0
総費用	8,803,217,592	8,942,810,256	9,110,023,444
経常費用	8,798,767,377	8,937,088,962	9,109,934,060
診療業務費(医業費用)	8,656,073,869	8,843,971,632	9,025,145,041
給与費	4,518,816,804	4,531,760,538	4,559,982,499
材料費	2,431,589,880	2,629,662,861	2,674,879,163
医薬品費	1,546,752,737	1,728,796,146	1,711,627,862
診療材料費	756,795,028	785,319,218	835,113,240
医療消耗器具備品費	37,713,577	30,963,457	48,058,105
給食用材料費	90,328,538	84,584,040	80,079,956
委託費	407,936,626	424,674,939	535,609,091
設備関係費	875,999,236	846,185,969	840,596,720
（再掲）減価償却費	569,388,250	518,931,980	516,098,180
研究研修費	10,218,535	7,914,959	1,989,960
経費	411,512,788	403,772,366	412,087,608
（再掲）本部経費負担額	129,243,882	124,351,816	127,407,335
医業外費用	142,693,508	93,117,330	84,789
看護師等養成所運営費	0	0	0
研修活動費	0	0	0
臨床研究業務費	64,991,840	62,474,756	59,308,709
その他経常費用	77,701,668	30,642,574	25,480,310
（再掲）内部支払利息	63,260,940	22,382,690	20,110,096
臨時損失	4,450,215	5,721,294	89,384
医業収支差	▲ 157,419,918	1,296,254	▲ 340,231,677
経常収支差	▲ 147,543,967	69,924,577	330,091,098
総収支差	▲ 151,464,982	64,903,787	330,001,714
医業収支率	98.18%	100.01%	96.23%
経常収支率	98.32%	100.78%	103.62%
総収支率	98.28%	100.73%	103.62%

○貸借対照表　　（円）

勘定科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産	9,352,332,164	8,973,208,374	9,522,262,119
流動資産	1,962,085,872	2,033,976,206	2,686,315,048
当座資産	1,874,349,615	1,946,847,296	2,560,735,128
現金	1,397,090	141,203	2,480,205
小口現金	47,840	50,000	50,000
普通預金	432,283,310	503,001,632	720,943,946
医業未収金	1,443,273,347	1,446,712,631	1,476,975,911
貸倒引当金(△)	▲ 5,427,997	▲ 5,390,320	▲ 4,016,208
未収金	2,776,025	2,332,150	364,301,274
棚卸資産	76,438,067	75,478,904	104,065,501
その他流動資産	11,298,190	11,650,006	21,514,419
固定資産	7,390,246,292	6,939,232,168	6,835,947,071
有形固定資産	6,901,748,894	6,515,651,699	6,352,170,400
建物	3,449,611,531	3,449,611,531	3,449,611,531
建物減価償却累計額(△)	▲ 903,234,693	▲ 992,395,560	▲ 1,081,548,388
建物減損損失累計額(△)	▲ 1,167,827	▲ 1,167,827	▲ 1,175,867
建物附属設備	3,442,488,153	3,442,488,153	3,449,050,487
建物附属設備減価償却累計額(△)	▲ 2,464,354,845	▲ 2,691,031,253	▲ 2,918,029,215
建物附属設備減損損失累計額(△)	0	0	0
構築物	373,600,897	373,600,897	373,600,897
構築物減価償却累計額(△)	▲ 186,662,415	▲ 192,684,550	▲ 197,483,316
構築物減損損失累計額(△)	▲ 658,721	▲ 658,721	▲ 658,721
医療用器械備品	2,286,284,967	2,327,815,972	2,488,451,674
医療用器械減価償却累計額(△)	▲ 2,058,319,507	▲ 2,117,711,501	▲ 2,114,265,864
医療用器械減損損失累計額(△)	▲ 5,658,123	▲ 5,475,236	▲ 5,475,236
その他器械備品	365,164,279	371,225,279	409,642,719
その他器械減価償却累計額(△)	▲ 222,188,082	▲ 274,553,348	▲ 325,982,094
その他器械減損損失累計額(△)	0	0	0
その他器械備品(ﾘｰｽ)	0	0	0
その他器械(ﾘｰｽ)減価償却累計額(△)	0	0	0
その他器械(ﾘｰｽ)減損損失累計額(△)	0	0	0
車両	10,433,344	10,433,344	10,433,344
車両減価償却累計額(△)	▲ 10,021,850	▲ 10,277,267	▲ 10,433,337
土地	2,826,431,786	2,826,431,786	2,826,431,786
無形固定資産	169,305,807	105,979,603	59,783,253
ソフトウェア	168,289,807	104,963,603	58,767,253
ソフトウェア(ﾘｰｽ)	0	0	0
電話加入権	1,016,000	1,016,000	1,016,000
投資その他の資産	319,191,591	317,600,866	423,993,418
負債	7,167,825,113	6,737,462,362	6,983,151,208
流動負債	2,073,707,402	1,959,223,517	2,266,181,480
預り寄附金(臨床)	2,899,877	3,749,236	5,665,592
本部短期借入金	383,661,221	287,937,221	289,937,220
一年以内返済本部長期借入金	697,355,037	710,123,100	775,839,973
買掛金	391,623,590	413,913,511	469,179,509
未払金	318,402,550	271,844,219	454,215,714
一年以内支払リース債務	0	0	0
前受金	0	0	0
預り金	0	0	22,000
役職員等預り金	22,646,547	18,516,666	18,488,979
仮受金	0	0	0
賞与引当金	257,118,580	253,139,564	252,832,493
固定負債	5,094,117,711	4,778,238,845	4,716,969,728
資産見返負債	29,115,850	74,917,821	207,000,273
本部長期借入金	5,064,390,236	4,702,709,399	4,509,357,830
リース債務	0	0	0
資産除去債務	611,625	611,625	611,625
純資産	▲ 117,767,918	▲ 269,232,900	▲ 204,329,113
資本金	0	0	0
資本剰余金	1,805,325,000	1,805,325,000	1,805,325,000
資本剰余金	1,805,325,000	1,805,325,000	1,805,325,000
損益外減価償却累計額	0	0	
損益外減損損失累計額	0	0	
利益剰余金	▲ 1,923,092,918	▲ 2,074,557,900	▲ 2,009,654,113
本支店勘定	▲ 2,453,739,951	▲ 2,440,075,125	▲ 2,413,438,310
当期純損益	▲ 151,464,982	64,903,787	330,001,714

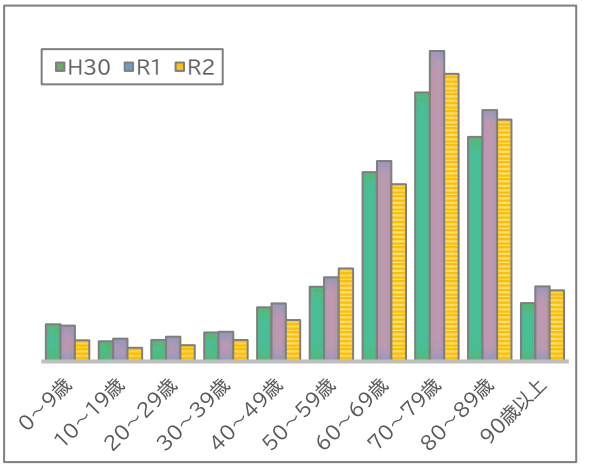
○キャッシュ・フロー計算書(直接法)　　(円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー			
診療業務活動によるキャッシュ・フロー			
医業収入	8,460,882,805	8,839,875,300	8,654,225,033
運営費交付金収入	0	0	0
補助金等収入	23,686,000	33,656,000	377,134,811
寄附金収入	0	0	4,780,000
その他の収入	57,841,382	62,741,003	54,826,143
人件費支出	▲ 4,316,646,178	▲ 4,348,271,372	▲ 4,371,394,386
材料の購入による支出	▲ 2,408,381,473	▲ 2,611,035,917	▲ 2,631,482,474
その他の業務支出	▲ 1,125,849,191	▲ 1,182,321,961	▲ 1,279,220,956
小計	691,533,345	794,643,053	808,868,171
教育研修業務活動によるキャッシュ・フロー			
研修による収入	194,400	0	0
小計	194,400	0	0
臨床研究業務活動によるキャッシュ・フロー			
研究による収入	12,325,929	6,265,780	8,288,774
運営費交付金収入	20,852,582	18,921,590	13,769,000
寄附金収入	3,550,000	1,900,000	2,400,000
その他の収入	191,700	1,625,750	8,651,200
人件費支出	▲ 40,865,673	▲ 40,913,783	▲ 38,970,706
材料の購入による支出	▲ 568,217	▲ 663,223	▲ 25,300
その他の業務支出	▲ 20,468,841	▲ 18,133,913	▲ 14,070,540
小計	▲ 24,982,520	▲ 30,997,799	▲ 19,957,572
その他の業務活動によるキャッシュ・フロー			
運営費交付金収入	1,811,843	6,274,340	865,048
その他の収入	23,781,823	15,290,655	14,329,506
その他の業務支出	▲ 14,655,128	▲ 15,416,542	▲ 21,599,713
小計	10,938,538	6,148,453	▲ 6,405,159
利息の受取額	0	0	0
利息の支払額	▲ 73,519,884	▲ 37,423,224	▲ 13,965,050
業務活動によるキャッシュ・フロー	604,163,879	732,370,483	768,540,390
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	▲ 34,602,120	▲ 40,150,404	▲ 113,628,282
無形固定資産の取得による支出	0	0	▲ 14,630,022
貸付金による収入	▲ 102,972,000	5,040,000	▲ 106,956,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 137,574,120	▲ 35,110,404	▲ 235,214,304
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	783,000,000	812,000,000	809,000,000
短期借入金の返済による支出	▲ 783,000,000	▲ 907,724,000	▲ 807,000,001
長期借入れによる収入	31,050,000	34,448,004	77,922,900
長期借入金の返済による支出	▲ 370,471,005	▲ 383,360,778	▲ 205,557,596
リース債務償還による支出	0	0	
その他の財務活動による収入	1,378,822,922	1,425,630,253	1,189,168,947
その他の財務活動による支出	▲ 1,532,498,369	▲ 1,608,788,963	▲ 1,376,579,020
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 493,096,452	▲ 627,795,484	▲ 313,044,770
Ⅳ　資金増加額(又は減少額)	▲ 26,506,693	69,464,595	220,281,316
Ⅴ　資金期首残高	460,234,933	433,728,240	503,192,835
Ⅵ　資金期末残高	433,728,240	503,192,835	723,474,151

「病院情報の公表」

年齢階級別退院患者数

年齢階級	平成30年度	令和元年度	令和2年度
0～9歳	208	200	118
10～19歳	113	127	77
20～29歳	121	139	90
30～39歳	162	165	120
40～49歳	302	324	231
50～59歳	417	470	519
60～69歳	1,058	1,119	990
70～79歳	1,502	1,734	1,607
80～89歳	1,254	1,405	1,351
90歳以上	326	420	397



診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

※患者数10件未満を除く

○糖尿病・血液内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	130060xx97x40x	骨髄異形成症候群 手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	29	11.00	21.33	0.0%	75.34
	130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2-4あり	29	10.28	10.62	0.0%	78.21
	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	26	31.27	16.17	0.0%	70.15
	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	20	32.20	20.92	35.0%	85.50
	100070xx99x100	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)(末梢循環不全なし。) 手術なし 手術・処置等2-1あり 定義副傷病なし	19	26.11	13.90	66.4%	0.05
R元年度	130060xx97x40x	骨髄異形成症候群 手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	37	21.32	20.30	2.7%	77.92
	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	29	45.24	15.79	6.9%	72.48
	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	22	26.50	20.84	40.9%	84.45
	100070xx99x100	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)(末梢循環不全なし。) 手術なし 手術・処置等2-1あり 定義副傷病-なし	15	20.33	13.72	0.0%	60.93
	100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	13	23.15	13.41	15.4%	59.08
R2年度	130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり	27	19.52	11.14	0.0%	77.04
	130060xx97x40x	骨髄異形成症候群 手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	25	20.24	18.98	4.0%	76.92
	10007xxxxxx1xx	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。) 手術・処置等2-1あり	25	17.80	14.60	12.0%	70.40
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	15	15.53	13.00	20.0%	80.60
	130030xx97x50x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等2-5あり 定義副傷病-なし	14	43.86	31.90	0.0%	72.71

○総合診療

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	49	20.37	20.92	34.7%	83.90
	110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 定義副傷病なし	13	13.69	12.58	15.4%	80.92
	080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1-なし	－	－	12.51	－	－
	100380xxxxxxxx	体液量減少症	－	－	9.12	－	－
	0400801499x002	肺炎等(市中肺炎かつ75歳以上) 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	－	－	15.17	－	－
R元年度	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	40	20.78	20.84	40.0%	85.00
	110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 定義副傷病-なし	22	15.50	12.58	22.7%	78.55
	0400801499x002	肺炎等(市中肺炎かつ75歳以上) 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	15.17	－	－
	161070xxxxx00x	薬物中毒(その他の中毒) 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	3.52	－	－
	180010x0xxx0xx	敗血症(1歳以上) 手術・処置等2-なし	－	－	19.29	－	－
R2年度	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	35	21.74	20.51	54.3%	83.46
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	19	17.42	13.00	21.1%	86.47
	161070xxxxx00x	薬物中毒(その他の中毒) 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	3.81	－	－
	080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1-なし	－	－	12.87	－	－
	010260xxxxxxxx	ウェルニッケ脳症	－	－	23.10	－	－

○脳神経内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	010155xxxxx20x	運動ニューロン疾患等 手術・処置等2-2あり 定義副傷病なし	54	13.72	16.35	3.7%	72.63
	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	28	19.39	16.18	50.0%	72.36
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	18	14.56	7.28	27.8%	59.33
	010110xxxxx40x	免疫介在性・炎症性ニューロパチー 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	14	25.36	16.16	7.1%	57.07
	010160xx99x00x	パーキンソン病 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	13	36.38	17.67	38.5%	79.31
R元年度	010155xxxxx20x	運動ニューロン疾患等 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	39	12.23	16.39	2.6%	73.21
	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	33	20.15	16.13	45.5%	68.00
	010160xx99x00x	パーキンソン病 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	17	29.59	17.72	52.9%	76.59
	010061xxxxx0xx	一過性脳虚血発作 手術・処置等2-なし	17	10.41	6.22	0.0%	79.71
	010130xx99x4xx	重症筋無力症 手術なし 手術・処置等2-4あり	15	24.67	17.16	6.7%	64.07

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R2年度	010155xxxxx2xx	運動ニューロン疾患等 手術・処置等2-2あり	37	13.78	16.14	0.0%	72.51
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	18	8.67	7.48	27.8%	58.11
	010060x2990301	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病-なし	18	13.78	17.78	16.7%	67.11
	010160xx99x00x	パーキンソン病 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	16	20.25	18.20	18.8%	69.81
	010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	15	13.53	15.54	33.3%	72.93

○消化器内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 定義副傷病なし	181	3.00	2.67	0.0%	69.47
	060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等2-なし	39	18.41	8.52	2.6%	73.97
	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	22	11.95	10.08	0.0%	77.50
	060050xx97x00x	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。) その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	16	18.81	10.42	6.3%	73.81
	060300xx97100x	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。) その他の手術あり 手術・処置等1-あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	15	16.07	13.07	0.0%	64.07
R元年度	060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 定義副傷病-なし	260	2.75	2.63	0.0%	69.18
	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	40	10.68	9.79	7.5%	77.50
	060190xx99x0xx	虚血性腸炎 手術なし 手術・処置等2-なし	32	10.63	8.86	6.3%	69.97
	060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等2-なし	32	14.09	8.27	0.0%	77.03
	060140xx97x00x	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの) その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	28	15.11	10.49	14.3%	71.54
R2年度	060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	105	3.66	2.66	0.0%	70.02
	060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	41	13.76	8.11	4.9%	74.07
	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	34	13.44	9.53	2.9%	76.26
	060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。) その他の手術あり 手術・処置等2-なし	26	17.19	10.70	0.0%	76.31
	060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの) その他の手術あり 手術・処置等2-なし	24	12.63	10.83	16.7%	77.50

○循環器内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	47	26.85	17.66	51.1%	85.21
	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	12	15.17	11.01	25.0%	78.25
	050130xx99020x	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病なし	10	32.90	24.68	40.0%	82.20
	050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1-1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	－	－	3.01	－	－
	050030xx97030x	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-3あり 定義副傷病なし	－	－	15.94	－	－
R元年度	050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	66	24.35	17.71	24.2%	84.56
	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	18	14.50	10.80	22.2%	81.22
	050130xx9901xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-1あり	11	22.91	19.44	18.2%	79.18
	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	10	27.90	20.84	20.0%	91.00
	050130xx97000x	心不全 その他の手術あり 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	23.67	－	－
R2年度	050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	50	25.20	17.23	36.0%	83.24
	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	10.56	－	－
	050130xx9902xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり	－	－	24.18	－	－
	050130xx97000x	心不全 その他の手術あり 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	22.43	－	－
	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	－	－	20.51	－	－

○小児科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし	39	3.46	5.42	0.0%	3.54
	040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	19	3.79	6.62	0.0%	4.32
	040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) 定義副傷病なし	16	3.75	6.19	0.0%	1.31
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	11	3.64	7.28	0.0%	10.45
	030270xxxxxxxx	上気道炎	11	3.82	4.96	0.0%	3.00

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R元年度	040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) 定義副傷病-なし	29	3.93	6.19	0.0%	2.10
	060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし	27	3.22	5.39	0.0%	4.70
	040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	19	4.00	6.64	0.0%	5.05
	040070xxxxx0xx	インフルエンザ、ウイルス性肺炎 手術・処置等2-なし	18	3.44	5.73	0.0%	5.28
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	7.34	－	－
R2年度	040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	18	3.67	6.46	0.0%	4.94
	060380xxxxx00x	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	15	2.67	5.86	0.0%	2.13
	140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(出生時体重2500g以上) 手術なし 手術・処置等2-なし	10	8.00	6.13	0.0%	0.00
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	－	－	13.00	－	－
	040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) 定義副傷病-なし	－	－	6.47	－	－

○外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	060035xx99x60x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 定義副傷病なし	90	3.01	4.41	0.0%	75.24
	090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等2-なし	68	13.91	10.59	2.9%	64.06
	060040xx99x60x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 定義副傷病なし	50	2.94	4.33	0.0%	61.98
	060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	43	15.16	15.30	2.3%	75.56
	090010xx02x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 手術・処置等2-なし	42	8.50	6.23	0.0%	57.83
R元年度	060035xx99x60x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 定義副傷病-なし	78	3.08	4.40	0.0%	71.62
	090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等2-なし	44	11.70	10.34	4.6%	58.48
	090010xx02x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 手術・処置等2-なし	44	5.77	6.10	0.0%	62.89
	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	41	5.24	4.85	4.9%	65.44
	060010xx99x40x	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。) 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	40	8.63	9.34	2.5%	72.30
R2年度	060035xx99x6xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり	91	4.53	4.51	0.0%	73.57
	060010xx99x40x	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。) 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	58	6.90	9.31	1.7%	67.60
	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	51	5.71	4.86	3.9%	69.37
	090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等1-なし	45	11.93	10.30	0.0%	67.78
	060035xx010x0x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1-なし 定義副傷病-なし	45	16.91	16.19	2.2%	74.80

○心臓血管外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R元年度	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	45	2.20	2.78	0.0%	73.11
	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	5.34	－	－
	050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 ステントグラフト内挿術 手術・処置等2-なし	－	－	11.75	－	－
	050170xx03011x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-あり 定義副傷病-あり	－	－	27.82	－	－
	050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-あり	－	－	10.24	－	－
R2年度	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	14	2.29	2.74	0.0%	64.07
	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	－	－	5.43	－	－
	050161xx9900xx	解離性大動脈瘤 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	－	－	17.53	－	－
	050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 ステントグラフト内挿術 手術・処置等2-なし	－	－	11.56	－	－
	050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-あり	－	－	10.03	－	－

○整形外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	152	29.99	26.30	84.9%	82.80
	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	68	39.96	24.26	4.4%	74.03
	160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 定義副傷病なし	54	23.43	19.61	70.4%	77.91
	160760xx97xxxx	前腕の骨折 手術あり	35	23.63	5.68	5.7%	66.74
	160620xx01xxxx	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 腱縫合術等	27	35.78	14.27	3.7%	40.37
R元年度	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	184	28.70	25.94	87.5%	83.73
	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	85	43.93	23.56	23.5%	75.73
	160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 定義副傷病-なし	57	28.33	19.40	73.7%	79.02
	160760xx97xxxx	前腕の骨折 手術あり	44	24.70	5.54	2.3%	57.05
	160620xx01xxxx	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 腱縫合術等	27	43.56	14.10	0.0%	31.19
R2年度	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	183	25.37	25.09	88.5%	84.57
	160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし	65	23.92	18.81	66.2%	80.57
	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	50	44.34	23.36	20.0%	76.68
	160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 定義副傷病-なし	41	12.76	5.18	0.0%	56.29
	070343xx99x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 手術・処置等2-1あり	31	2.00	2.68	0.0%	76.68

○脳神経外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	21	14.62	9.69	9.5%	77.57
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	18	15.67	7.35	50.0%	80.22
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	12	19.58	18.72	83.3%	76.83
	010310xx99x0xx	脳の障害(その他) 手術なし 手術・処置等2-なし	10	19.00	10.58	5630.0%	0.00
	010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	－	－	11.80	－	－
R元年度	010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	26	20.38	16.16	69.2%	74.73
	010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	21	19.00	11.86	66.7%	80.62
	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	14	13.07	9.67	21.4%	74.07
	010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	13	20.08	20.96	92.3%	73.62
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	12	15.33	18.81	91.7%	71.75
R2年度	010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	25	16.68	12.04	32.0%	78.20
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	23	16.00	8.18	30.4%	69.30
	010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	19	21.26	15.54	52.6%	74.79
	010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 手術なし 手術・処置等2-なし	13	24.54	22.35	84.6%	79.00
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	13	24.23	18.86	76.9%	71.15

○泌尿器科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり 定義副傷病なし	54	2.24	2.53	0.0%	73.09
	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	33	9.09	7.20	0.0%	76.52
	110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病なし	26	8.38	10.97	0.0%	78.00
	110420xx02xx0x	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等 定義副傷病なし	24	3.08	4.29	16.7%	82.83
	11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病なし	15	2.40	7.13	26.7%	79.13

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R元年度	110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり 定義副傷病-なし	89	2.31	2.49	0.0%	73.01
	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	34	9.12	7.07	0.0%	78.76
	11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病-なし	31	2.65	7.38	41.9%	84.45
	110420xx02xx0x	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等 定義副傷病-なし	23	3.39	4.22	8.7%	80.26
	110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	20	4.75	10.65	0.0%	69.80
R2年度	110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり	68	2.28	2.54	0.0%	72.68
	110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等2-なし	36	13.36	7.13	11.1%	78.89
	11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病-なし	35	2.60	7.26	48.6%	84.91
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	20	15.05	13.00	10.0%	78.95
	110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	19	7.32	9.96	0.0%	77.84

○産婦人科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病なし	12	4.00	4.61	0.0%	64.00
	12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	10	13.30	4.85	0.0%	73.60
	12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腟部)切除術等 手術・処置等2-なし	10	5.80	3.20	0.0%	41.50
	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	－	－	9.87	－	－
	120010xx99x51x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病あり	－	－	10.79	－	－
R元年度	12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腟部)切除術等 手術・処置等2-なし	20	5.45	3.13	0.0%	44.60
	120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病-なし	11	21.27	4.39	0.0%	80.73
	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	－	－	9.71	－	－
	120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	－	－	9.66	－	－
	120010xx97x40x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	－	－	13.10	－	－
R2年度	12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	25	5.04	4.44	0.0%	62.08
	120010xx97x7xx	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2-7あり	17	11.12	13.70	0.0%	76.35
	120010xx99x70x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-7あり 定義副傷病-なし	14	7.64	4.24	0.0%	71.36
	12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腟部)切除術等 手術・処置等2-なし	10	5.00	3.11	0.0%	40.60
	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	－	－	9.57	－	－

○眼科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり	33	6.61	9.75	0.0%	60.48
	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり	18	3.00	2.84	0.0%	76.28
	020200xx99x2xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2-2あり	15	2.00	2.47	0.0%	80.13
	020220xx97xxx0	緑内障 手術あり	13	7.15	8.00	0.0%	76.62
	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2-なし	10	2.00	3.15	0.0%	70.80
R元年度	020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり	19	6.63	9.33	0.0%	62.26
	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2-なし	15	2.00	3.10	0.0%	79.60
	020200xx99x2xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2-2あり	－	－	2.49	－	－
	020220xx97xxx0	緑内障 手術あり	－	－	7.53	－	－
	020240xx97xxx0	硝子体疾患 手術あり	－	－	5.95	－	－
R2年度	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2-なし	15	2.00	3.07	0.0%	71.47
	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり	－	－	2.76	－	－
	020200xx99x2xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2-2あり	－	－	2.52	－	－
	020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり	－	－	8.97	－	－
	020220xx01xxx0	緑内障 緑内障手術　濾過手術	－	－	9.79	－	－

※上記は一般病棟のみの集計であり、白内障手術の多くは地域包括ケア病棟にて実施。

○耳鼻咽喉科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
H30年度	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	19	6.63	5.10	0.0%	67.37
	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	17	6.29	5.43	0.0%	35.18
	030270xxxxxxxx	上気道炎	15	5.93	4.96	0.0%	29.20
	030428xxxxxxxx	突発性難聴	13	11.77	9.02	0.0%	59.23
	030390xx99xxxx	顔面神経障害 手術なし	12	11.00	9.26	8.3%	56.25
R元年度	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	37	4.92	5.01	0.0%	72.19
	030428xxxxxxxx	突発性難聴	27	13.33	8.93	0.0%	59.70
	030270xxxxxxxx	上気道炎	21	6.19	4.94	0.0%	31.57
	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	20	7.05	5.45	0.0%	42.35
	030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	14	10.14	7.80	0.0%	23.00
R2年度	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	22	5.86	4.94	0.0%	70.86
	030428xxxxxxxx	突発性難聴	11	10.64	8.81	0.0%	65.73
	030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	－	－	7.94	－	－
	030270xxxxxxxx	上気道炎	－	－	4.85	－	－
	030390xx99xxxx	顔面神経障害 手術なし	－	－	9.17	－	－

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

○平成30年度（UICC TNM分類第7版または第8版による）

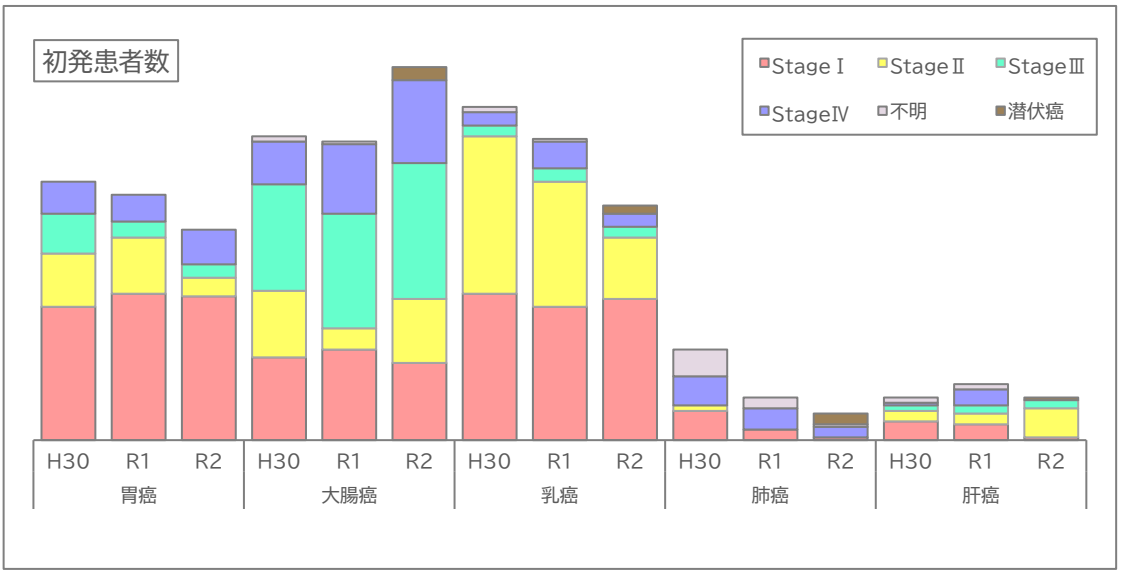
	初発					再発
	Stage Ⅰ	Stage Ⅱ	Stage Ⅲ	Stage Ⅳ	不明	
胃癌	50	20	15	12	−	140
大腸癌	31	25	40	16	−	240
乳癌	55	59	−	−	−	98
肺癌	11	−	−	11	10	31
肝癌	−	−	−	−	−	42

○令和元年度（UICC TNM分類第8版による）

	初発					再発
	Stage Ⅰ	Stage Ⅱ	Stage Ⅲ	Stage Ⅳ	不明	
胃癌	55	21	−	10	−	140
大腸癌	34	−	43	26	−	311
乳癌	50	47	−	10	−	76
肺癌	−	−	−	−	−	18
肝癌	−	−	−	−	−	42

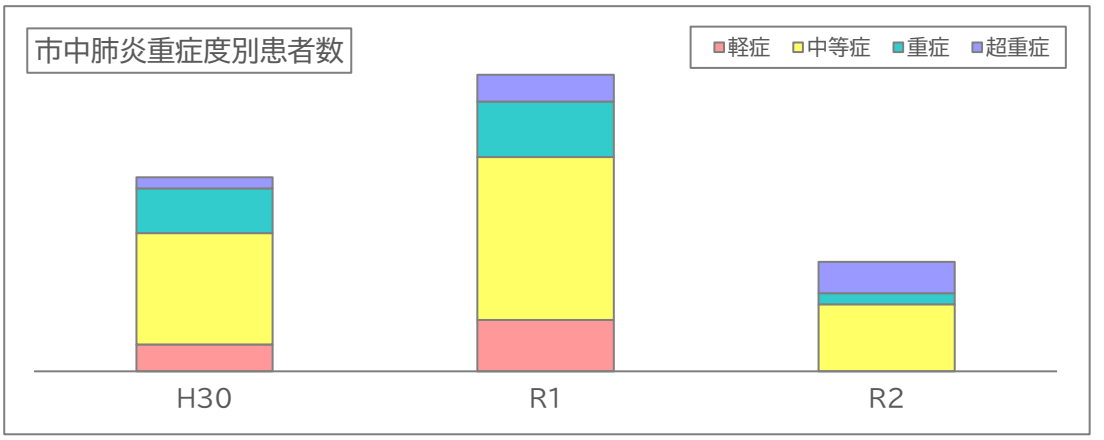
○令和2年度（UICC TNM分類第8版による）

	初発						再発
	Stage Ⅰ	Stage Ⅱ	Stage Ⅲ	Stage Ⅳ	潜伏癌	不明	
胃癌	54	−	−	13	−	−	129
大腸癌	29	24	51	31	−	−	295
乳癌	53	23	−	−	−	−	70
肺癌	−	−	−	−	−	−	17
肝癌	−	11	−	−	−	−	38



成人市中肺炎の重症度別患者数等

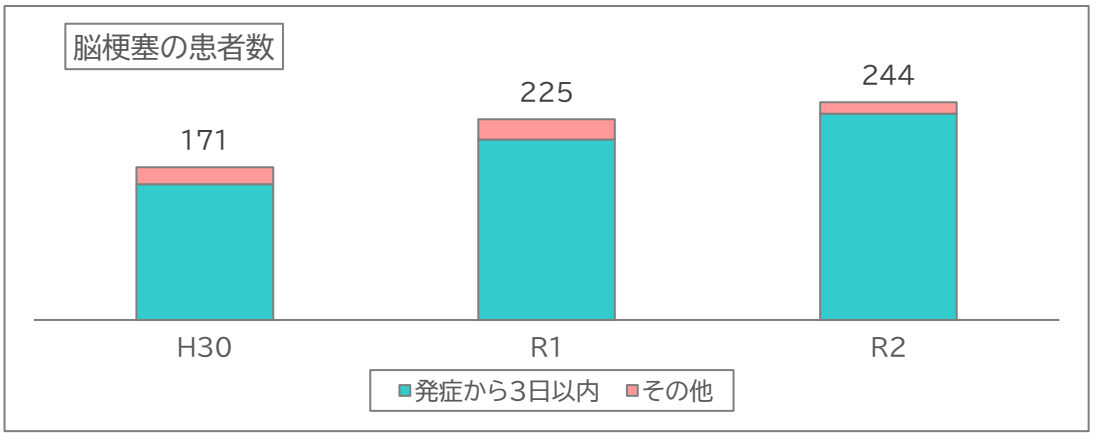
	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	件数	平均在院日数	平均年齢	件数	平均在院日数	平均年齢	件数	平均在院日数	平均年齢
軽症	12	10.42	61.58	23	10.52	57.26	－	－	－
中等症	50	16.32	76.92	73	18.79	77.48	30	23.1	76.33
重症	20	25.9	81.55	25	20.68	80.36	－	－	－
超重症	－	－	－	12	22.92	81.83	14	23.14	84.86



○市中肺炎の定義：入院契機病名、および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、
急性細気管支炎（DPC 040080相当）でさらにその中でもICD-10コードがJ13～J18で始まるもの
※インフルエンザ等、ウイルス性肺炎（DPC 040070相当）、誤嚥性肺炎（DPC 040081）は除外
また、市中肺炎であるので入院後発症の肺炎、一般病棟外からの転入、他院からの転院も除外

脳梗塞の患者数

	発症から3日以内				その他			
	件数	平均在院日数	平均年齢	転院率	件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
平成30年度	152	23.84	75.48	54.4%	19	22.16	71.58	4.7%
令和元年度	202	24.23	75.84	52.0%	23	17.83	77.61	5.8%
令和2年度	231	25.6	76.93	55.7%	13	16.23	73.23	2.0%



※最も医療資源を投入した病名が脳梗塞（ICD-10の上3桁）で集計

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○消化器内科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	174	0.86	2.37	0.6%	69.87
	K6532	内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍粘膜下層)	41	2.2	15.24	4.9%	73.93
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	31	0.77	3.61	0.0%	66.65
	K6152	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	22	3.5	19.18	9.1%	76.05
	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	21	4.24	18.19	23.8%	75.81
R元年度	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	235	0.31	1.46	0.4%	69.89
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	37	0.81	3.68	0.0%	67.41
	K6532	内視鏡的胃・十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍粘膜下層)	33	1.94	11.12	0.0%	77.48
	K654	内視鏡的消化管止血術	33	1.55	13.48	3.0%	70.27
	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	33	3.64	15.52	21.2%	78.58
R2年度	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	92	1.36	3.28	1.1%	70.52
	K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	42	1.5	11.17	4.8%	74.07
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	42	0.69	5.02	0.0%	70.45
	K654	内視鏡的消化管止血術	30	1.2	12.2	13.3%	76.27
	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	28	3.57	11.43	10.7%	73.07

○循環器内科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R元年度	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	10	4.8	8.4	0.0%	68.3
	K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	－	－	－	－	－
	K597-2	ペースメーカー交換術	－	－	－	－	－
	K5492	経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症に対するもの)	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－

○外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	49	1.92	6.29	4.1%	66.37
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	47	3.66	14.89	6.4%	75.91
	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	45	2.67	7.42	2.2%	64.31
	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	43	0.95	5.4	0.0%	58
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	41	0.8	4.59	4.9%	68.88

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R元年度	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	63	1.9	7.76	4.8%	64.78
	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	44	1	3.77	0.0%	62.89
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈・動脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	44	0.77	5.41	4.6%	65.77
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	39	0.64	3.97	5.1%	64.33
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	37	4.57	13.76	0.0%	72.19
R2年度	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	74	2.26	6.07	4.1%	63.15
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	56	4.11	15.18	3.6%	74.14
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈・動脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	47	4.02	5.72	0.0%	67.77
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	46	0.78	3.76	2.2%	68.04
	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	33	1	3.58	0.0%	62.67

○心臓血管外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R元年度	K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	45	0	1.2	0.0%	73.11
	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	13	5.38	20.15	30.8%	81
	K5612□	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	－	－	－	－	－
	K6093	動脈血栓内膜摘出術(その他のもの)	－	－	－	－	－
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	－	－	－	－	－
R2年度	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	19	10.68	29.16	10.5%	74.63
	K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	14	0.21	1.07	0.0%	64.07
	K5612□	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	－	－	－	－	－
	K084	四肢切断術(大腿・下腿)	－	－	－	－	－
	K5606	大動脈瘤切除術(吻合又は移植を含む。)(腹部大動脈(分枝血管の再建を伴うもの))	－	－	－	－	－

○整形外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K0461	骨折観血的手術(上腕・大腿)	113	2.98	27.27	75.2%	77.73
	K0821	人工関節置換術(股・膝)	87	4.09	37.11	6.9%	73.54
	K0811	人工骨頭挿入術(股)	53	3.15	22.36	90.6%	81.66
	K0462	骨折観血的手術(下腿・手舟状骨・前腕)	45	2.22	29.98	8.9%	60.36
	K0731	関節内骨折観血的手術(股・肘)	32	2.41	33.78	37.5%	70.41

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R元年度	K0461	骨折観血的手術(上腕・大腿)	132	2.48	26.32	76.5%	82.5
	K0821	人工関節置換術(股・膝)	106	3.5	41.04	21.7%	74.79
	K0811	人工骨頭挿入術(股)	65	2.98	24.72	83.1%	83.37
	K0462	骨折観血的手術(下腿・前腕)	45	1.73	30.78	4.4%	54.87
	K0731	関節内骨折観血的手術(股・膝・肘)	30	1.77	30.83	53.3%	65.97
R2年度	K0461	骨折観血的手術(肩甲骨・上腕・大腿)	116	2.47	23.7	75.9%	83.12
	K0821	人工関節置換術(股・膝)	76	4.36	42.08	21.1%	72.57
	K0811	人工骨頭挿入術(股)	73	3.34	20.26	90.4%	84.15
	K0462	骨折観血的手術(下腿・手舟状骨・前腕)	48	1.71	21.25	4.2%	59.1
	K0731	関節内骨折観血的手術(肩・股・膝)	33	3.03	27.88	63.6%	77.73

○脳神経外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	23	1.52	10.96	17.4%	77.83
	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(椎弓形成)	－	－	－	－	－
	K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	－	－	－	－	－
	K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	－	－	－	－	－
	K1812	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)(両側の場合)	－	－	－	－	－
R元年度	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	33	2.33	15.15	54.6%	80.55
	K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	11	16.27	13.45	18.2%	75
	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	－	－	－	－	－
	K1643	頭蓋内血腫除去術(開頭して行うもの)(脳内のもの)	－	－	－	－	－
	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	－	－	－	－	－
R2年度	K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭による)	26	0.73	15.38	30.8%	78.62
	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	－	－	－	－	－
	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	－	－	－	－	－
	K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	－	－	－	－	－
	K1642	頭蓋内血腫除去術(開頭して行うもの)(硬膜下のもの)	－	－	－	－	－

○泌尿器科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	53	1.43	5.43	18.9%	82.45
	K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	46	1.17	6.76	0.0%	76.46
	K773-2	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	16	2.13	16.94	0.0%	72.31
	K8412	経尿道的前立腺手術(その他のもの)	13	3.92	10.54	0.0%	74.54
	K610-3	内シャント設置術	11	2.55	12.36	18.2%	69.64
R元年度	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	66	1.68	3.65	28.8%	80.56
	K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	55	2.27	7.47	3.6%	77.82
	K8412	経尿道的前立腺手術(その他のもの)	18	1.56	9.89	0.0%	71.67
	K843	前立腺悪性腫瘍手術	15	2	18.93	0.0%	70.47
	K610-3	内シャント設置術	15	2.53	6.47	6.7%	74.27
R2年度	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	59	0.15	5.32	32.2%	84.07
	K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	52	2.17	8.65	7.7%	79.4
	K6121イ	末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	24	3.88	11.42	8.3%	71.58
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	22	4.36	22.05	9.1%	79.86
	K8412	経尿道的前立腺手術(その他のもの)	17	1.12	9.35	0.0%	76.71

○産婦人科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K877	子宮全摘術	10	2.2	13.1	0.0%	45.6
	K867	子宮頸部(腟部)切除術	10	1	3.8	0.0%	41.5
	K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	－	－	－	－	－
	K8654	子宮脱手術(腟壁形成手術及び子宮全摘術(腟式、腹式))	－	－	－	－	－
	K8881	子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(開腹によるもの)	－	－	－	－	－
R元年度	K867	子宮頸部(腟部)切除術	20	1	3.45	0.0%	44.6
	K877	子宮全摘出術	－	－	－	－	－
	K635	胸水・腹水濾過濃縮再静注法	－	－	－	－	－
	K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	－	－	－	－	－
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	－	－	－	－	－
R2年度	K635	胸水・腹水濾過濃縮再静注法	18	6.72	4.89	0.0%	75.78
	K867	子宮頸部(腟部)切除術	10	1	3	0.0%	40.6
	K877	子宮全摘術	－	－	－	－	－
	K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	－	－	－	－	－
	K8654	子宮脱手術(腟壁形成手術及び子宮全摘術(腟式、腹式))	－	－	－	－	－

○眼科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K2801	硝子体茎頸微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	32	1.06	4.38	0.0%	64.94
	K284	硝子体置換術	30	0.5	4.1	0.0%	64.07
	K2821□	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	18	1	1.78	0.0%	76.22
	K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	10	0	1	0.0%	70.8
	K220	結膜縫合術	－	－	－	－	－
R元年度	K284	硝子体置換術	25	0.36	4.16	0.0%	60.84
	K2801	硝子体茎頸微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	15	0.87	5.13	0.0%	66.33
	K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	12	0	1	0.0%	79.58
	K2821□	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	－	－	－	－	－
	K2683	緑内障手術(濾過手術)	－	－	－	－	－
R2年度	K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	14	0	1	0.0%	71.29
	K2821□	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	－	－	－	－	－
	K284	硝子体置換術	－	－	－	－	－
	K2683	緑内障手術(濾過手術)	－	－	－	－	－
	K2801	硝子体茎頸微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	－	－	－	－	－

○耳鼻咽喉科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
H30年度	K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	19	1.26	8.16	0.0%	13.42
	K331	鼻腔粘膜焼灼術	－	－	－	－	－
	K4611	甲状腺腫摘出術(片葉のみの場合)	－	－	－	－	－
	K3892	声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡によるもの)	－	－	－	－	－
	K386	気管切開術	－	－	－	－	－
R元年度	K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	21	1	8.52	0.0%	16.14
	K368	扁桃周囲膿瘍切開術	－	－	－	－	－
	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術(切除)	－	－	－	－	－
	K3892	声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡によるもの)	－	－	－	－	－
	K300	鼓膜切開術	－	－	－	－	－
R2年度	K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	12	1	8.33	0.0%	15.25
	K4611	甲状腺腫摘出・部分切除術(片葉のみの場合)	－	－	－	－	－
	K368	扁桃周囲膿瘍切開術	－	－	－	－	－
	K6261	リンパ節摘出術(長径3センチメートル未満)	－	－	－	－	－
	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	－	－	－	－	－

その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			症例数	発症率	症例数	発症率	症例数	発症率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	－	－	－	－	－	－
		異なる	－	－	－	－	－	－
180010	敗血症	同一	24	0.35%	30	0.58%	29	0.53%
		異なる	12	0.17%	19	0.37%	11	0.20%
180035	その他の真菌感染症	同一	－	－	－	－	－	－
		異なる	－	－	－	－	－	－
180040	手術・処置等の合併症	同一	36	0.52%	25	0.49%	25	0.45%
		異なる	－	－	－	－	－	－
		（内訳）	・術後吻合部狭窄 ・人工股関節のゆるみ、脱臼、感染 ・透析シャント狭窄、閉塞 ・ポリープ切除後出血 ・予防接種後発熱		・術後吻合部狭窄 ・人工股関節のゆるみ、脱臼、感染 ・透析シャント狭窄、閉塞 ・薬剤性アナフィラキシーショック ・ペースメーカ電池消耗		・術後吻合部狭窄 ・人工股関節のゆるみ、脱臼、感染 ・透析シャント狭窄、閉塞 ・薬剤性アナフィラキシーショック ・ペースメーカ電池消耗	

※発症率＝患者数/全ての退院患者数

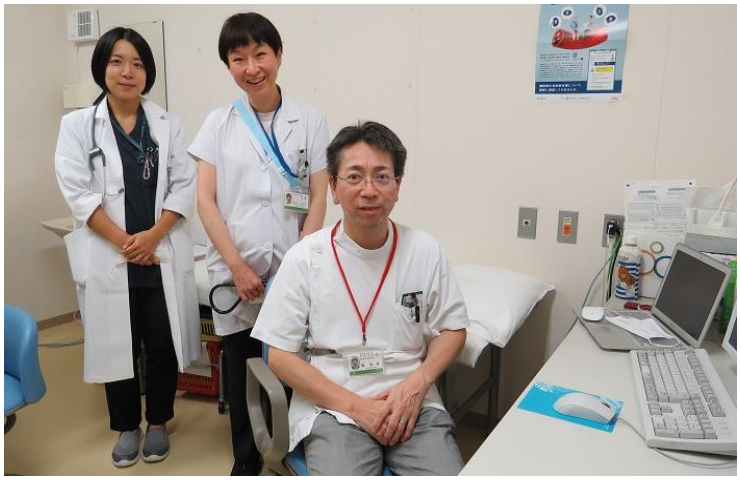
Section 3

部門紹介

糖尿病・血液内科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学	専門医 認定医
糖尿病・血液内科医長 鶴　政俊 （ツル マサトシ）	山口大学卒（平成4年）	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医
糖尿病・血液内科医師 松井　久未子 （マツイ クミコ）	山口大学卒（平成15年）	日本糖尿病学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医師 徳永　舞子 （トクナガ マイコ）	山口大学卒（平成24年）	



実績（退院患者統計）

DPC6桁分類		2018年度	2019年度	2020年度
130030	非ホジキンリンパ腫	68	70	111
10007x	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	70	50	52
130060	骨髄異形成症候群	67	52	43
040080	肺炎等	37	29	17
040081	誤嚥性肺炎	24	22	20
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	16	16	28
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	17	20	20
110310	腎臓又は尿路の感染症	11	18	18
130010	急性白血病	6	7	25
130110	出血性疾患（その他）	7	12	6
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	9	9	0
130090	貧血（その他）	9	4	4
080010	膿皮症	6	6	2
060380	ウイルス性腸炎	4	5	4
050130	心不全	4	5	3
10006x	1型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	4	5	3
180010	敗血症	4	4	4
100380	体液量減少症	2	3	6
170020	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	6	2	3
130080	再生不良性貧血	2	1	6
130020	ホジキン病	0	3	5
－	その他	92	72	56
合計		465	415	436

MEMO

総合診療

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
副院長 佐藤　穣 （サトウ　ユタカ）	山口大学大学院修（昭和62年） ／感染症、血液、内科診断学	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本血液学会専門医 日本医療マネジメント学会評議委員 ICLSディレクター
内科医師 田﨑　彩子 （タサキ　アヤコ）	山口大学卒（平成19年） ／脳神経内科	

概要

総合診療科は、臓器別専門科だけでは対応できない患者さんをトータルに診療していく部門として、平成16年に県内に先駆けて開設されました。高齢化社会になってひとりひとりの患者さんが複数の慢性疾患を抱え、診療科が特定できない様々な症状を訴えて病院を受診されます。総合診療外来では、「ドクターG」として丁寧な医療面接と身体診察を行うことにより鑑別診断を行っていきます。そして病態の「緊急性」、「重要性」、「問題解決性」を考慮して治療を計画していきます。また総合診療科は研修医に「総合診療マインド」を習得させる役割を担っております。日々の外来、入院診療が研修医の修行の場となっています。

●対象疾患

総合外来には、発熱などの内科救急の患者さんや、どこの病院でも原因不明と言われて藁をもつかむ気持ちで受診される方もおられます。診断推論の技法を駆使することにより、このような患者さんの多くにおいて、その原因を突き止めることができました。そのような積み重ねが評価され、最近では不明熱や原因不明の不定愁訴の患者さんの精査目的で、地域の先生方から紹介される件数が増えてきました。

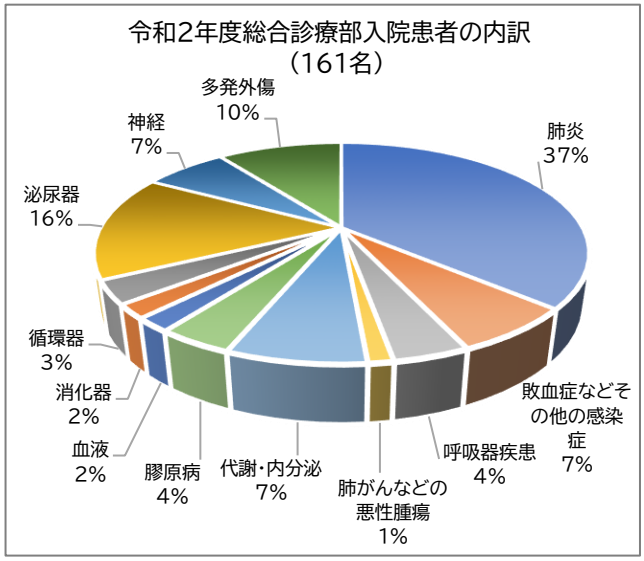
また当院はや山口県のエイズ診療中核拠点病院に指定されており、診療科長の佐藤とHIV診療チームが外来および入院診療にあたっています。また2000年末から国内で流行し始めた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者の外来診療および入院診療も総合診療科が担当しています。

診療実績

総合外来には週あたり平均45.4名、年間2,369名の患者さんが受診されました（令和2年度）。午前午後フル回転で、研修医とともに診療に当たっております。地域の先生方からの紹介も多く、その期待に応える責任を感じています。

また入院部門は総合外来からの入院に加えて、救命救急センターからの内科系救急疾患の患者さんの入院を担当しています。令和2年度は計161名の患者さんの入院診療に当たってきました。図からもわかるように、疾患ジャンルは感染症を中心に多岐にわたっており、総合診療科をローテートする研修医は自らの臨床能力をフルに発揮させ、さらに関連する専門医とのコミュニケーション能力も求められます。総合診療科が卒後臨床研修の中心的役割を担っている理由がここにあります。

傷病名	人数
肺炎	54
敗血症などその他の感染症	10
呼吸器疾患	6
肺がんなどの悪性腫瘍	2
代謝・内分泌	11
膠原病	6
血液	3
消化器	3
循環器	5
泌尿器	23
神経	10
多発外傷	15
その他	13
合計	161



（佐藤　穣）

精神科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
精神科医長 若林　祐介 (ワカバヤシ ユウスケ)	山口大学卒(平成14年) 山口大学大学院 単位取得退学(平成20年)	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会　精神科専門医/指導医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者

概要

精神科では、うつ病、ストレス関連障害、パニック障害、不眠症、統合失調症、認知症などを診療対象としています。精神科を標榜する医療機関には、「大学病院の精神科」「精神科病院」「精神科クリニック」の他に、当科のような「総合病院精神科」があります。さまざまな精神疾患の診療をおこなうのは他の精神科医療機関と同じですが、総合病院精神科では体の病気を抱えた方の精神的不調に対して、内科・外科など他の診療科と密に連携しながら治療を受けやすいというメリットがあります。当科でも通常の外来診療、救急外来での急患対応と並んで、リエゾン精神医学と呼ばれる他科入院中の患者さんに対する関わりが診療の大きな柱となっています。

・リエゾン精神医学とは
「リエゾン(liaison)」とはフランス語で「連携」や「連絡」を意味する言葉です。「リエゾン精神医学」は、身体疾患に伴うさまざまな精神疾患や課題にチーム医療で取り組もうとする包括的な治療・ケアのことです。当院では精神科医と身体科の担当医だけでなく、臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種で密接な連携をとりながら患者さんの精神的不調・課題に対応しています。

実績

○外来

ICD-10分類		2018年度	2019年度	2020年度
F0	認知症、せん妄など	12	19	13
F1	アルコール依存症など	3	3	4
F2	統合失調症など	11	16	5
F3	うつ病、躁うつ病など	12	8	9
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	76	58	53
F5	摂食障害、不眠症など	7	10	14
F6	パーソナリティ障害など	2	0	1
F7	知的障害など	3	7	6
F8	広汎性発達障害など	3	5	6
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	1	0	0
その他	診断なし、てんかんなど	6	4	12
	合計(人)	136	130	123
	平均年齢(才)	50.4	55.8	54.2

○リエゾン(他科入院中の患者さんの精神科への紹介件数)

ICD-10分類		2018年度	2019年度	2020年度
F0	認知症、せん妄など	92	123	153
F1	アルコール依存症など	4	10	10
F2	統合失調症など	14	17	20
F3	うつ病、躁うつ病など	7	14	16
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	22	19	25
F5	摂食障害、不眠症など	14	18	11
F6	パーソナリティ障害など	5	2	1
F7	知的障害など	1	1	2
F8	広汎性発達障害など	0	0	0
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	0	0	1
その他	診断なし、てんかんなど	6	4	13
	合計(人)	165	208	252
	平均年齢(才)	73.4	74.2	77.9

(若林 祐介)

脳神経内科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経内科医長 田中　信一郎 （タナカ　シンイチロウ）	山口大学大学院修（平成11年） ／脳神経内科疾患全般、脳血管障害、末梢神経障害、パーキンソン病	日本神経学会神経内科専門
脳神経内科医師 尾本　雅俊 （オモト　マサトシ）	山口大学（平成10年） ／脳神経内科	日本神経学会神経内科専門医 日本内科学会総合内科専門医

概要

内科の一部門で、循環器内科が心臓や血管を、消化器内科が胃腸や肝臓を、それぞれ主に診療の対象とするように脳と神経を診療の対象とします。脳神経外科と扱う疾患が重なりますが、薬物を使った治療が主体です。
多い病気としては脳梗塞、頭痛、パーキンソン病、てんかん、認知症、末梢神経障害などがあります。
稀ですが、重要な病気として筋萎縮性側索硬化症、脳炎・髄膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、重症筋無力症、多発禁煙などがあります。自己免疫疾患、遺伝子疾患等、以前は限られた治療しかなかった病気も近年次々と新しい治療法が登場している分野でもあります。

実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		2018年度	2019年度	2020年度
010060	脳梗塞	157	164	189
010155	運動ニューロン疾患等	73	49	45
010160	パーキンソン病	36	47	32
010230	てんかん	27	20	25
010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	19	21	16
040081	誤嚥性肺炎	20	20	11
010061	一過性脳虚血発作	13	18	14
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	16	12	15
010130	重症筋無力症	9	18	14
040080	肺炎等	13	18	5
070560	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	11	11	13
010040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	10	10	13
010140	筋疾患(その他)	10	11	11
010090	多発性硬化症	9	10	7
010170	基底核等の変性疾患	8	9	7
110310	腎臓又は尿路の感染症	8	8	6
010310	脳の障害(その他)	8	6	4
180010	敗血症	2	8	4
010070	脳血管障害	8	2	3
070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 頸部	7	3	3
－	その他	123	110	70
総計		587	575	507

(田中 信一郎)

消化器内科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
臨床研究部長 柳井　秀雄 （ヤナイ　ヒデオ）	山口大学大学院修（昭和62年） ／消化器内視鏡	日本消化器内視鏡学会 指導医・社団評議員 日本消化器病学会 専門医・学会評議員
消化器内科医長 戒能　聖治 （カイノウ　セイジ）	山口大学卒（平成6年） 山口大学大学院修（平成12年） ／胆道・膵臓	日本内科学会 総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・指導医・学会評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・学術評議員 日本膵臓学会 認定指導医　日本胆道学会 認定指導医
消化器内科医長 坂口　栄樹 （サカグチ　エイキ）	山口大学卒（平成8年） 山口大学大学院修（平成14年） ／肝臓	日本消化器病学会　専門医 日本肝臓学会　専門医 日本消化器内視鏡学会　専門医
消化器内科医師 原野　恵 （ハラノ　メグミ）	山口大学卒（平成14年） ／胆道・膵臓	日本内科学会　認定医 日本消化器病学会　専門医 日本消化器内視鏡学会　指導医 日本胆道病医学会　認定指導医
消化器内科医師 千原　大典 （チハラ　ダイスケ）	福岡大学卒（平成22年） ／消化器全般	日本救急医学会認定ICLSコースディレクター
消化器内科医師 西山　夏子 （ニシヤマ　ナツコ）	山口大学卒（平成30年） ／消化器全般	
消化器内科医師 吉田　拓生 （ヨシダ　タクミ）	産業医科大学卒（平成30年） ／消化器全般	

概要

当科では消化管（食道・胃・小腸・大腸）、肝臓、膵臓、胆道（胆のう・胆管）の病気の診断や治療を主に行っています。消化管では食道、胃、大腸の腫瘍の診断や内視鏡的治療を積極的に行っています。特に食道癌や胃癌の内視鏡治療に際してはほぼ全例に治療前に超音波内視鏡検査を行い内視鏡的治療による根治性を評価した後治療を行っています。また出血性の消化管疾患に対する内視鏡的治療も随時行っています。

肝臓領域では肝機能障害の診断や治療、B型・C型肝炎に対する抗ウイルス療法や肝癌に対する経皮的治療（ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法）、肝動脈塞栓療法、薬物療法また肝硬変による食道静脈瘤の治療も行っています。

膵臓、胆道領域についてはこれらの領域における癌の診断や癌により発生した閉塞性黄疸に対する減黄治療（ほとんどが内視鏡的治療）、また総胆管結石に対する内視鏡的治療等を主に行っています。膵臓癌の診断には超音波内視鏡やEUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引法）も実施しています。また手術にて切除することが困難な進行した膵臓癌、胆道癌の方に対する化学療法も行っています。

上記に加え進行性の癌により消化管が閉塞した方へのステント留置もおこなっています。

実績

	H30年	R1年
上部消化管内視鏡検査	2,318例	2,433例
大腸内視鏡検査	920例	944例
内視鏡的止血術	52例	91例
胃ESD	47例	42例
食道ESD	3例	8例
大腸内視鏡的粘膜切除術	360例	414例
内視鏡的乳頭切開術	29例	58例
内視鏡的胆道ステント留置術	44例	44例
EUS－FNA	7例	12例
内視鏡的消化管ステント留置術	5例	3例
内視鏡的食道静脈瘤治療	26例	12例
肝動脈塞栓療法	30例	23例
経皮的ラジオ波焼灼療法	1例	3例

（坂口　栄樹）

循環器内科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学	専門医 認定医
循環器内科医長・ 地域支援病棟統括医 古谷　雄司 （フルタニ　ユウジ）	山口大学大学院修（昭和61年）	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医
循環器内科医長・ 外来部長 大谷　望 （オオタニ　ノゾム）	山口大学大学院修（平成元年）	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医
循環器内科医長 早野　智子 （ハヤノ　トモコ）	山口大学大学院修　（平成11年）	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医 女性総合診療　兼任

概要

当科では高血圧、狭心症、心筋梗塞、心筋症、肺塞栓症、深部静脈血栓症、心臓弁膜症、心房細動等の不整脈を診療しています。

【診療活動】

過去3年間の診療実績は表1のとおりです。

令和2年の1日平均外来患者数は29人、1日平均入院患者数は12人でした。

表1【診療実績】

	心エコー	心臓カテーテル検査	冠動脈インターベンション	ペースメーカー
H30	2997	25	12	25
H31(R1)	3233	16	16	30
R2	2945	12	3	19

【外来】

外来は2名体制で行っております。待ち時間をなくすように予約制になっております。

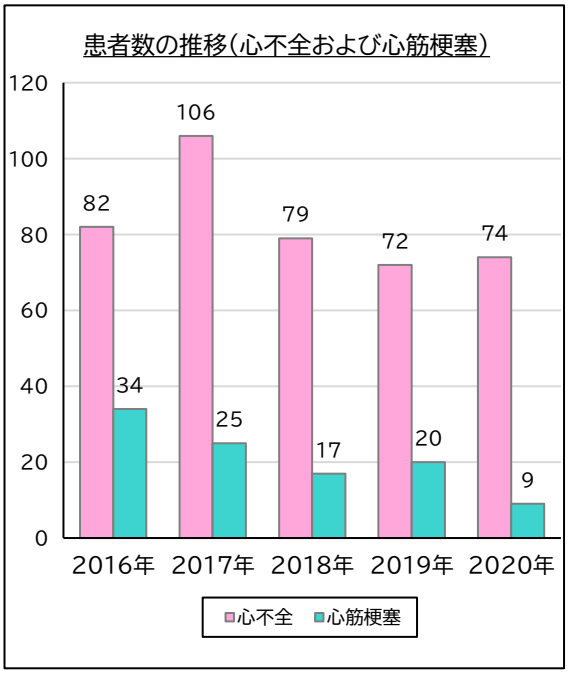
患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

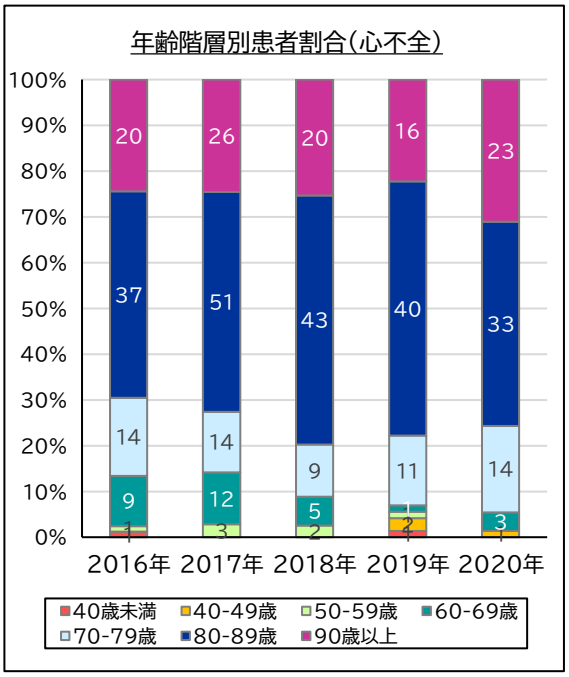
【主な検査】
・心電図
・動脈硬化の検査：脈波検査
・24時間心電図
・心エコー
・血管エコー：頸動脈、腎動脈、下肢の静脈
・経食道心エコー
・心臓CT：冠動脈造影CT
・心臓MRI・心臓核医学検査
・心臓カテーテル検査・冠動脈エコー
狭心症の疑いで冠動脈CTの実施数と、深部静脈血栓症が増加し下肢静脈エコー検査数が増加しています。

【入院】
超高齢化社会を背景に、ご高齢の方の心不全が数年前から著増しています。心不全の治療薬も進歩・増加しつつあり、個々人の全身状態（腎機能や心房細動の有無など）に応じて、投薬治療・調整が必要です。

【心臓リハビリテーション】
ご高齢の患者さまが、元の環境に安全に戻れるよう、多職種で対応し、リハビリを行っています。

実績





（早野　智子）

小児科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学	専門医 認定医
小児科医長 牧　隆司 （マキ　タカシ）	愛媛大学卒（昭和62年） ／新生児・小児科	日本小児科学会専門医

概要

少子化の波の中で、次の世代を担う子供のために、国の医療機関の使命として成育医療という胎児・未熟児・新生児から乳幼児、学童、思春期までの一連の過程に関する診療をしています。

また、予防も小児科で大切な分野なので、乳幼児検診、予防接種、生活習慣病健診も積極的に行っています。

診療実績（退院患者統計）

DPC6桁分類		2018年度	2019年度	2020年度
060380	ウイルス性腸炎	46	32	19
040100	喘息	22	27	25
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	22	39	9
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	10	20	7
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	14	10	12
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	12	11	7
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	10	19	0
110310	腎臓又は尿路の感染症	9	5	14
030270	上気道炎	11	8	8
010230	てんかん	13	9	1
150070	川崎病	10	4	8
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	9	4	8
150040	熱性けいれん	6	8	7
040080	肺炎等	9	7	3
180010	敗血症	4	10	5
100210	低血糖症	8	6	1
080270	食物アレルギー	4	4	3
010240	片頭痛、頭痛症候群（その他）	2	1	4
060390	細菌性腸炎	0	2	5
080010	膿皮症	2	3	0
130111	アレルギー性紫斑病	2	2	1
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	1	3	1
－	その他	13	26	30
総計		239	260	178

MEMO

外 科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
院長 林 弘人 (ハヤシ ヒロト)	山口大学卒(昭和58年) 山口大学大学院修(昭和62年) ／消化器外科、食道外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本内視鏡外科学会 評議員 日本外科感染症学会 評議員
研修部長・外科医長 吉野 茂文 (ヨシノ シゲフミ)	山口大学卒(昭和61年) 山口大学大学院修(平成3) ／上部消化管外科・内視鏡外科	日本消化器外科学会 専門医・指導医・評議員 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)・評議員 日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
外科医長・集中治療室長 矢原 昇 (ヤハラ ノボル)	山口大学卒(平成5年) 山口大学大学院修(平成15年) ／消化器外科・胆膵外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 検診マンモグラフィー読影 認定医
外科医長・乳腺センター長 長島 由紀子 (ナガシマ ユキコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成30年) ／乳腺外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医・評議員 日本乳癌検診学会 評議員 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長 坂本 和彦 (サカモト カズヒコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成19年) ／消化器外科・肝胆膵外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医
外科医師 近藤 潤也 (コンドウ ジュンヤ)	長崎大学卒(平成13年) ／消化器外科	日本外科学会 専門医・指導医 消化器外科学会 専門医・指導医 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃) 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 北原 正博 (キタハラ マサヒロ)	浜松医科大学卒(平成17年) 山口大学大学院修(平成29年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医 日本食道学会　食道科認定医・食道外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 濵﨑 太郎 (ハマサキ タロウ)	山口大学卒(平成29年) ／消化器外科	
外科医師 堤 甲輔 (ツツミ コウスケ)	山口大学卒(平成29年) ／消化器外科	

概要

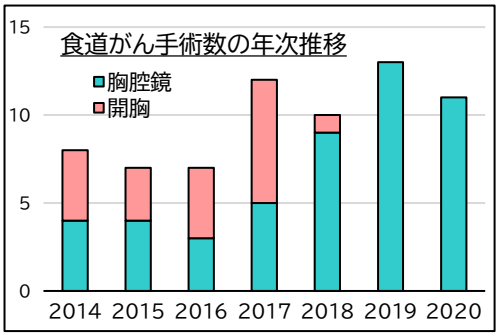
当科では消化器癌や消化器の良性疾患、乳癌を中心とした外科治療を行うとともに、これらの領域の癌の薬物療法も行っています。当院は、日本外科学会外科専門医制度修練指定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本食道学会食道外科専門医準認定施設、腹腔鏡下肝切除術学会関連施設、日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設、日本乳癌学会関連施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設に認定されており、また8名の外科学会専門医、7名の消化器外科学会専門医、2名の食道外科専門医、2名の内視鏡外科学会技術認定医、1名の肝胆膵外科学会高度技能専門医、1名の乳癌学会乳腺専門医、1名のがん薬物療法専門医を擁しており、患者さんへ質の高い外科治療やがん薬物療法を提供しています。また豊富な症例数と万全の指導体制で、将来を担う外科医の育成を行っています。

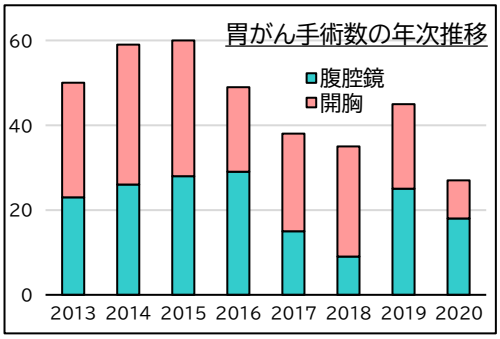
特筆すべきは、年間10例を超える食道癌手術を全例胸腔鏡下で行っており、胃癌、大腸癌の手術もほとんどの症例を腹腔鏡下で行っています。また肝切除術や膵切除術の高難度手術も増えてきており、年間30例近くの症例数があります。さらには年間約100例の乳癌手術も行っています。

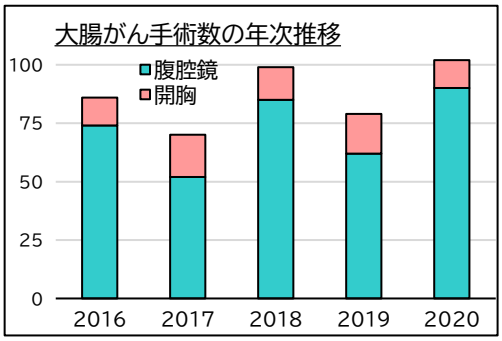
実績

〇手術件数

術式	2019年	2020年
胸腔鏡下食道切除術	13	11
胃切除術	51	27
開腹幽門側胃切除	13	4
開腹胃全摘	13	6
腹腔鏡下幽門側胃切除	22	12
腹腔鏡下胃全摘	3	5
大腸切除術	103	102
開腹大腸切除	76	90
腹腔鏡下大腸切除	26	11
経肛門切除	1	1
肝切除術	17	16
膵切除術	10	13
乳腺切除術	117	88
胆嚢摘出術	66	81
ヘルニア修復術	64	61
虫垂切除術	23	30
腸閉塞解除術	28	25
人工肛門造設術	12	20
人工肛門閉鎖術	13	6
消化管バイパス術	6	7
肺切除術	14	9
その他	37	42
合計	574	538







（吉野 茂文）

心臓血管外科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
心臓血管外科医長 村上雅憲 （ムラカミマサノリ）	大分医科大学卒（平成12年） 山口大学大学院修（平成19年）	日本外科学会専門医・指導医 日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者 腹部ステントグラフト実施医・指導医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医・指導医

概要

当科では頭頚部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療を行っています。従来からの外科治療に加えて低侵襲の血管内治療（カテーテル治療）を積極的に取り入れ患者さんに適切な治療を提供し、地域医療施設との連携構築に努めてまいります。

治療については必ずしも手術をおすすめするわけではありません。できるだけ低侵襲な検査で診断し、運動療法や薬物療法、カテーテル治療、手術療法を選択肢に入れた適切な治療が実施されるように心がけます。

当院は関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設、四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施施設の認定を取得しています。

実績

○手術件数

	2019年	2020年
手術件数	65例	101例
動脈瘤	2例	11例
（ステントグラフト内挿術）	（2例）	（10例）
（瘤切除人工血管置換術）	−	（1例）
末梢動脈疾患	16例 PAD、急性動脈閉塞など	32例 PAD、急性動脈閉塞など
下肢静脈瘤	43例	40例
その他	4例 CVポートなど	18例 CVポート、切断など

（村上　雅憲）

MEMO

整形外科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
特命副院長(地域医療連携) 統括診療部長 伊原　公一郎 (イハラ　コウイチロウ)	山口大学卒(昭和56年) 山口大学大学院修(平成2年) ／骨・軟部腫瘍、手外科、股関節外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本リハビリテーション医学会専門医・臨床認定医
整形外科医長 峯　孝友 (ミネ　タカトモ)	山口大学卒(昭和60年) 山口大学大学院修(平成2年) ／膝関節外科、関節リウマチ、スポーツ医学	日本リウマチ学会指導医、評議員 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　評議員 中部日本整形外科・災害外科学会　評議員
リハビリテーション科医長 河村　洋行 (カワムラ　ヒロユキ)	大分医科大学卒(平成2年) ／整形外科	日本整形外科学会専門医
整形外科医長 篠原　道雄 (シノハラ　ミチオ)	久留米大学卒(平成7年) ／脊椎外科	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医
整形外科医長 栗山　龍太郎 (クリヤマ　リュウタロウ)	山口大学卒(平成8年) ／外傷、手外科	日本整形外科学会専門医
整形外科医師 富永　康弘 (トミナガ　ヤスヒロ)	山口大学卒(平成14年) ／整形外科(手外科)	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医 日本体育協会認定スポーツドクター

概要

社会の超高齢化に伴い、国民の健康寿命も飛躍的に伸びており、運動器疾患を対象とする整形外科医に求められるニーズは増加の一途を辿っています。2020年4月から脊椎外科を専門分野とする6人目のスタッフが加わり、さらに幅広い対応が可能となりました。

地域の急性期医療を担う当院の役割は、様々な外傷や変性疾患に対する手術と急性期のリハビリテーションが主体になります。当院整形外科の得意分野としては、外傷一般に加えて、膝関節・リウマチ疾患、手、骨・軟部腫瘍、脊椎などで、手術件数は年々増加しており、2017年からは1000件を上回るようになりました。昨年からは脊椎疾患も加わり、コロナ禍の影響が見受けられるものの、1100件前後で推移しています。別表に最近2年間の手術件数と、その主な内訳をお示しします。

今後も地域の中核病院として、微力ながら貢献していきたいと考えています。

実績

〇手術件数

	総数	外傷	人工関節置換術	骨・軟部腫瘍	脊椎疾患
2019年	1,106	506	118	81	4
2020年	1,075	485	96	85	60

（伊原　公一郎）

脳神経外科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経外科医長・ 生活習慣病センター長 山下　勝弘 （ヤマシタ　カツヒロ）	山口大学卒（昭和57年） ／脳卒中の外科	日本脳神経外科学会　専門医・認定医 日本脳卒中学会　専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会　技術指導医
脳神経外科医長 副島　慶輝 （ソエジマ　ヨシテル）	産業医科大学卒（平成12年） ／脳卒中の外科・機能的脳神経外科	日本脳神経外科学会　専門医・認定医 日本脳卒中学会　専門医・指導医

診療・研究内容

脳神経外科では脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、機能的脳神経外科などの領域の疾患を対象とし、主に手術療法で治療しています。脳腫瘍には髄膜腫などの良性腫瘍と神経膠芽腫などの悪性腫瘍があり、良性腫瘍では開頭腫瘍摘出術を行い、悪性腫瘍では手術に加えて放射線治療や化学療法を併用します。脳卒中の中で外科治療の対象となる疾患は、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血、高血圧性脳出血、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症です。脳動脈瘤破裂の治療法には開頭クリッピング術と血管内治療による動脈瘤コイル塞栓術があり、症例ごとに治療法を選択しています。頸動脈狭窄症の治療法には直達手術の頸動脈血栓内膜剥離術と血管内治療によるステント留置術があります。直達手術を優先しますが、全身麻酔が困難な症例などではステント留置術を行います。頭部外傷の頭蓋内出血は急性硬膜下血腫などの急性出血と慢性硬膜下血腫に分類され、前者では開頭血種除去術を、後者では穿頭血種除去術を行います。機能的脳神経外科の対象となる症状は、三叉神経痛、顔面けいれん、脳卒中後の筋痙縮、パーキンソン病の振戦などです。三叉神経痛と顔面けいれんでは後頭下開頭による微小血管減圧術で治療します。筋痙縮では腹部にポンプを埋め込み、バクロフェンを脊髄腔に投与します。

脳神経外科では診療のみでなく、臨床研究にも力を入れています。新薬の臨床試験では、複数の第2相試験（＊）が進行しています。

＊経口FXIa阻害薬BMS-986177による虚血性脳卒中の再発抑制効果を検討する国際共同第2相試験

＊中枢神経系病変におけるMRI造影剤BAY 1747846単回静脈内投与の多施設共同試験

実績

○手術件数

		2018年	2019年	2020年
脳腫瘍		5	8	16
脳血管障害	出血性病変	10	24	30
	虚血性病変	12	13	14
頭部外傷		39	42	42
機能的脳神経外科		20	5	1
その他		17	6	2
合計		103	98	105

高齢化に伴い頭部外傷の中で慢性硬膜下血腫の手術件数が増加しています。

○脳卒中症例数（脳神経内科と合同）

		2018年	2019年	2020年
くも膜下出血		5	12	9
脳内出血		37	36	59
脳梗塞	アテローム血栓症	106	123	137
	心原性梗塞	31	28	33
	ラクナ梗塞など	28	45	53
合計		207	244	291

アテローム血栓性脳梗塞の比率が突出して高い傾向が見られます。

（山下 勝弘）

泌尿器科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
泌尿器科医長 鄭　泰秀 （テイ　ヤスヒデ）	山口大学卒（平成3年） 山口大学大学院修（平成8年）	日本泌尿器科学会　専門医・指導医
泌尿器科医師 徳永　貴範 （トクナガ　タカノリ）	山口大学卒（平成26年）	日本泌尿器科学会　専門医

概要

当院泌尿器科では尿路（腎臓・尿管・膀胱・尿道）・男性性器（前立腺・精巣・精巣上体・陰茎）および内分泌臓器である副腎を対象とし、泌尿器科一般（尿路性器腫瘍・尿路感染症・尿路結石症・排尿障害・尿失禁など）の診療を行っています。

また、末期腎不全患者に対しては血液透析による治療を行っています。

腎臓癌・膀胱癌・前立腺癌などの尿路性器腫瘍に対しては内視鏡手術（経尿道的手術）・腹腔鏡手術・回復術を行っています。

また、腎臓癌や膀胱癌に対しては血管新生阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤、前立腺癌に対しては新規ホルモン剤等いろいろな抗癌剤が使用できるようになりました。診療ガイドラインにもとづいて推奨度の高い治療を行うように心がけています。新規の抗癌剤では副作用もいろいろな臓器に及ぶため、他科の先生や薬剤師さんと連携して合併症対策・管理に努めています。

実績

○手術件数

	2019年	2020年
副腎	3例	－
腎腫瘍	5例	3例
腎臓部分切除術	2例	3例
尿管腫瘍・腎盂腫瘍	5例	9例
経尿道的膀胱腫瘍切除術	61例	59例
膀胱全摘	1例	3例
前立腺全摘	12例	10例
経尿道的前立腺切除術	14例	20例
内シャント増設術	19例	24例

（鄭　泰秀）

MEMO

産婦人科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
産婦人科医長 林　公一 （ハヤシ　キミカズ）	山口大学大学院修（昭和62年）	日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 母体保護法指定医
非常勤医師 齋藤　剛 （サイトウ　ツヨシ）	山口大学大学院修（平成元年）	日本産科婦人科学会専門医

概要

ほぼ常勤医一人での対応となるため多症例の診療には限度がありますが、他科の先生方の協力を得て、産科領域（エイズ感染も含む）、婦人科良性疾患、癌、不妊症、感染症とすべてに渡り安心・安全を信条として対応させていただいています。研修医の先生方へは1ヶ月ごとのローテイトとなりますが、産婦人科診療に興味を持っていただけるような研修を心掛けています。また、診療での医学的視野が狭まらないように臨床研究や地域活動にも積極的に参加して最新医学情報の収集や地域貢献にも努めています。

臨床実績（令和2年度）

＊分娩件数：20件　（うち帝王切開：4件）

＊婦人科手術：37件

- 腹式子宮全摘　9件
- 膣式子宮全摘　4件
- 付属器悪性腫瘍手術　1件
- 子宮頸部円錐切除　件12
- 採卵　5件（胚移植　4件）
- 外陰部腫瘍　1件
- 流産手術　2件
- 子宮内膜試験掻爬　2件（子宮鏡検査　2件）
- 子宮動脈塞栓術　1件

＊抗癌剤により化学療法：7例

- 子宮内膜癌　3例
- 卵巣癌　3例
- 腹膜癌　1例

臨床研究

＊厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業(2020～2022):研究協力

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホート的調査研究と情報の普及及び啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均霑化に関する研究」

＊文部科学研究費補助金精神神経科学関連事業(2020～2024):研究協力

「周産期メンタルヘルス調査とパートナーへの介入方法に関する研究」

＊NHOエイズ共同研究(2021～2023):研究協力

「抗HIV療法中のプロウヒルスにおける薬剤耐性微小集団に関する研究観察」

＊NHO成育共同研究:研究協力

1.「人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発」(2019～2021)

2.「日本人妊婦糖尿病既往女性の産褥5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子および予防因子の解明」(2020～2022)

＊NHO・EBM共同研究(2017～);分担研究

「免疫抑制患者における13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験(CPI STUDY)」

地域活動

1. 下関東ロータリークラブ:青少年育成プログラム支援

「中・高生における性教育講座」(2010～)

2. 世界エイズデーイベント開催(2013～)

(林 公一)

眼科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
眼科医長 小林　博 （コバヤシ　ヒロシ）	京都大学卒（昭和56年） 京都大学大学院修（平成元年）	日本眼科学会専門医
眼科医長 小林　かおり （コバヤシ　カオリ）	三重大学卒（平成元年） 京都大学大学院修（平成8年）	日本眼科学会専門医
眼科非常勤医師 杉本　琢二 （スギモト　タクジ）	京都大学卒（平成3年）	日本眼科学会専門医
視能訓練士 山下　栄太郎 （ヤマシタ　エイタロウ）		
視能訓練士 吉永　眞由美 （ヨシナガ　マユミ）		

概要

黄斑疾患：近年、高齢化に伴い急増している加齢黄斑変性では、光干渉断層撮影、蛍光眼底造影等を用いて他覚的に診断することに努めています。従来のレーザー治療では、視機能の回復は困難でしたが、抗血管内皮増殖因子療法で視力の改善・維持が可能になりました。糖尿病や網膜静脈閉塞による黄斑浮腫に対して抗血管内皮増殖因子療法で良好な成績が得られています。

緑内障：最近の大規模疫学調査で40歳以上の17人に1人の割合でみられることが判明した緑内障、特に正常眼圧緑内障の診断については、緑内障専門医による診断ばかりでなくレーザーテクノロジーを用いた視神経乳頭および網膜神経線維層厚の画像診断を取り入れて精密な構造的変化の測定を行っています。また、治療では、最近開発された薬剤を取り入れています。

白内障：超音波水晶体乳化術や眼内レンズの改良によって、切開創が小さくなり早期の視機能回復が図れる様になりました。さらに最新の手技を導入して、より早い視力の改善を心がけています。

眼形成：形成外科を長年経験している眼形成の専門科が診療に当たっており、眼瞼腫瘍・眼瞼下垂症、眼瞼内反症、眼瞼外反症等を広く手がけています。そのため、眼形成の専門外来を開設しております。

実績

○手術件数

	2018年	2019年	2020年
白内障手術	384	420	193
超音波水晶体乳化術	384	420	192
嚢外摘出術	0	0	1
眼内レンズ二次移植	4	0	0
緑内障手術	9	12	11
線維柱帯切開術	1	0	0
線維柱帯切除術	8	12	11
網膜硝子体手術	493	429	286
硝子体手術	70	70	0
硝子体注入術	423	428	286
外眼手術	25	26	19
眼瞼下垂手術	12	12	16
眼瞼内反手術	5	5	1
霰粒腫摘出	1	1	2
翼状片手術	7	8	0
レーザー			
虹彩切開術	37	31	15
後発白内障手術	62	64	43
網膜光凝固術	172	182	110

（小林 博）

耳鼻咽喉科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
耳鼻咽喉科医長 村上　直子 （ムラカミ　ナオコ）	山口大学卒（平成9年）	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 補聴器相談医
耳鼻咽喉科医師 田原　晋作 （タハラ　シンサク）	山口大学卒（平成20年） 山口大学大学院修（平成28年）	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

概要

当科では耳鼻咽喉科領域の疾患の外来診療、入院治療に対応しています。
入院治療を行う疾患としては突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺などの神経疾患、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎、急性副鼻腔炎などの感染症、手術治療を行う疾患、頭頚部癌の放射線治療や化学療法などがあります。また、睡眠時呼吸障害の検査として1泊入院での終夜睡眠ポリソムノグラフ検査を行っています。
また耳鼻咽喉科専門医制度の山口大学附属病院の専門研修連携施設となっています。

診療活動

聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚などの感覚器や、摂食嚥下、音声言語、呼吸に必要な口腔、咽頭、喉頭、鼻腔の診察を行っています。
手術は、慢性扁桃炎や小児睡眠時無呼吸に対する口蓋扁桃摘出術、内視鏡下副鼻腔手術、鼻中隔矯正術、鼻茸切除術などの鼻の手術、気管切開術、甲状腺腫瘍、唾液腺良性腫瘍などの手術を行っております。
専門性の高い手術を要する症例に関しては、山口大学付属病院などへ紹介し、必要な術前検査、術後のリハビリ、検査、追加治療などを連携して行っています。
頭頸部癌については主に放射線治療、化学療法を行っております。週に1回頭頸部カンファレンスを開き、放射線治療科、口腔外科と連携して治療方針や副作用への対応を検討しています。
近年、脳梗塞後や加齢などで誤嚥を繰り返す入院患者が増え、嚥下内視鏡検査の件数が増加しています。

2020年度　終夜睡眠ポリソムノグラフ　20件
2020年度　嚥下内視鏡検査　128件

実績

○手術件数

	2018年度	2019年度	2020年度
口蓋扁桃摘出術(成人)	7	9	6
口蓋扁桃摘出術(小児)	12	11	6
内視鏡下副鼻腔手術	6	6	4
ラリンゴマイクロサージャリー	5	7	1
気管切開術	11	18	26
リンパ節生検	4	4	6
甲状腺手術	7	7	7
鼓膜チューブ留置術	2	3	5
その他	8	6	4

(村上 直子)

放射線診断科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線診断科医長 岡田　宗正 （オカダ ムネマサ）	山口大学卒（平成7年） 山口大学大学院修（平成14年） ／放射線診断・IVR（血管内治療）	日本医学放射線学会　診断専門医 日本IVR学会　専門医

概要

当院には、単純X線撮影から、CT、MR、核医学検査（SPECT及びPET）、血管造影装置があり、これらの画像の読影を行っている。一般診療時に撮影された画像から、検診時の画像も一括して迅速に読影を行い、日常診療に貢献しています。当院の病院群輪番制病院担当日には、読影担当として急患に対応している。

出血や外傷などの緊急止血術としての塞栓術や血管内治療が適応と思われる疾患に対する各種血管内治療を適切に施行している。このため、血管造影室には各種塞栓物質やステント（グラフト）を常備しており、複雑な症例にも対応できる準備が整っている。組織診が必要な症例や深部膿瘍例に対し、CTガイド下に生検やドレナージを行うことで、低侵襲的に対応している。

2021年から、週1回放射線診断・画像下治療（IVR）の外来を行い、画像診断や血管内治療について患者さんにも分かりやすく説明している。

実績

		2018年度	2019年度	2020年度
読影	CT	13,863	14,103	13,863
	MR	4,861	4,841	4,743
	核医学（SPECT）	1,025	1,025	907
	核医学（PET）	560	454	415
	CR（検診を含む）	2,053	2,097	1,971
	DR（検診を含む）	538	616	549
	院外フイルム	11	20	21
手技	生検	13	6	6
	ドレナージ	5	8	10
	血管造影	23	21	26

（岡田　宗正）

MEMO

放射線治療科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線治療科医長 河村　光俊 （カワムラ　ミツトシ）	山口大学卒（平成1年） 山口大学大学院修（平成7年） ／放射線治療	日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会　共同認定専門医 日本医学放射線学会　指導医
放射線科医長 佃　利信 （ツクダ　トシノブ）	山口大学卒（平成9年） ／放射線診療	日本医学放射線学会　診断専門医 日本医学放射線学会　指導医

概要

がん治療を主体に放射線治療を行っています。頭部、頭頚部から胸腹、骨盤、さらには四肢骨まで範囲は広範に及びます。他科との共同で抗がん剤と組み合わせた化学放射線療法も積極的に行っています。前立腺癌に対する強度変調放射線治療（IMRT）は休止中ですが、近い将来、最新機器へ更新の際に下関地域で再開できるよう準備中です。放射線同位元素を利用した内用療法に対しての実績があり、特に難治性低悪性度B細胞性リンパ腫に対するゼヴァリン・イットリウム療法は血液内科と共同で県内唯一の実施施設となっています。

実績

	2018年 (1月1日~12月31日)	2019年 (1月1日~12月31日)	2020年 (1月1日~12月31日)
放射線治療新患数	130	99	123
放射線治療実人数(新患＋再診)	144	113	137
治療計画件数	161	122	145
原発巣別新患数			
脳・脊髄	3	2	3
頭頚部	12	5	4
食道	14	10	9
肺・気管・縦隔	11	2	9
乳腺	59	43	52
肝・胆・膵	3	5	2
胃・小腸・結腸・直腸	12	13	19
婦人科系	1	2	1
泌尿器系	8	7	11
造血リンパ系	6	7	11
皮膚・骨・軟部	0	2	1
その他(悪性腫瘍)	1	1	1
放射線同位元素			
ストロンチウム	0	0	0
イットリウム	4	1	0
ラジウム	6	0	0

(河村　光俊)

病理診断科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
内科医長 村田　建一郎 （ムラタ　ケンイチロウ）	長崎大学卒（昭和61年） 長崎大学大学院修（平成2年） ／病理診断	病理専門医 病理専門医研修指導医 細胞診専門医

概要

病理診断科は、病理専門医1人、臨床検査技師3人（内細胞診検査技師2人）とメディカルクラーク1名の体制で業務を行っています。病理組織検査の標本作製は、HE染色と特殊染色のみ、院内で行っており、免疫染色およびコンパニオン診断等は外部検査機関に委嘱しています。臨床検査技師の交代勤務のため、外部検査機関との間の標本や結果の受け渡し等で、メディカルクラークの存在が重要になっています。

実績

	2018年度	2019年度	2020年度
病理組織診断（受け付け標本数）	2,933	3,118	2,809
内術中迅速	118	111	100
細胞診断（総数）	3,189	3,170	3,151
婦人科	1,541	1,634	1,542
それ以外	1,648	1,536	1,609
病理解剖	4	8	7
CPC	6	5	3

（村田　健一郎）

MEMO

救急科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
救命救急センター長 松本　泰幸 （マツモト ヒロユキ）	産業医科大学卒(平成21年) /救急科、集中治療室	日本救急医学会　救急科専門医 日本集中治療医学会　集中治療専門医 日本内科学会　内科認定医 日本DMAT隊員

概要

当科では非常に多岐に渡る疾患を扱っており、心肺停止、多発外傷、中毒、特殊感染症、ショック、熱中症、低体温症、熱傷など救急科に専門性が求められる領域も複数担っております。下関・長門医療圏で唯一、救急科専門医、集中治療専門医が専従で救急部門に従事する病院として高度な重症疾患の治療を行っております。

ICUにおける重篤な患者においても、主治医の医師と連携して全身管理、呼吸/気道管理、循環管理、術後管理などを行う事で、救命するだけでなく元の生活に戻れるまで回復させるといった全人的医療が提供できるようサポートを行っております。

また、消防局と連携した地域救急医療体制の整備や、初期臨床研修医・大学生・コメディカルスタッフの教育活動や看護師特定行為研修の実践など、教育活動も精力的に行っております。

実績

○救急車受入件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	205	250	215	307	261	215	279	259	238	260	240	259	2,988
2019	225	281	250	260	311	260	280	251	320	283	231	237	3,189
2020	219	219	194	274	242	247	247	255	276	274	245	237	2,929

○ドクターヘリ等件数（防災ヘリ、海上保安庁を含む。）

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	搬入	1	1	3	0	1	0	2	0	1	1	0	0	10
	転送	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	1	2	3	0	1	0	2	0	1	1	0	0	11
2019	搬入	1	3	2	3	2	1	0	1	0	1	0	0	14
	転送	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	計	2	3	2	4	2	2	0	1	0	1	0	0	17
2020	搬入	0	1	1	0	1	0	5	2	5	1	2	1	19
	転送	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	計	0	1	2	0	1	0	6	2	6	1	2	1	22

（松本　泰幸）

MEMO

麻酔科・ペインクリニック

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
手術部長 内本　亮吾 （ウチモト　リョウゴ）	山口大学卒（昭和56年）	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構　専門医
麻酔科医長 藤田　文彦 （フジタ　フミヒコ）	山口大学卒（平成5年）	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構　専門医
麻酔科医長 田和　聖子 （タワ　ショウコ）	山口大学卒（平成元年） 山口大学大学院修（平成5年）	日本麻酔科学会専門医・指導医
内科医師 北　仁志 （キタ　ヒトシ）	京都府立医科大学卒（平成10年）	日本麻酔科学会認定医

概要

私は麻酔科医師ではあるが手術部長の立場もありそれを踏まえてのご紹介とさせていただきたい。当院ホームページにあるが、2008年の麻酔科預かりの手術件数1500件を4名で実施、というところからさらに手術件数は増え約1700件に届きそうなところで、山口大学麻酔科からの応援で週4回若手麻酔医が加わり各種手術に対応している。この数年で変わったのは血管外科が血管撮影室での全身麻酔手術を要請、脊椎専門の整形外科医師がこられ、100件/年程度の増加があった。またCOVID-19の影響で基幹病院の一つが手術件数の抑制を余儀なくされたなどで2021年1月の全身麻酔だけで30件の増加。今後の患者数の変動、病院挙げてのパンデミック対応など手術室看護師含めスタッフのハードワークには感謝の一言しか出てこない。これに加え主に部長と藤田医師は毎年約40例のペインクリニック新患に対応、手術部長を除く3名は日当直もこなし、北医師は当直中に入院患者を受け持つこともある。田和医師は学会発表、論文執筆にも貢献。一方、急に必要になった気管内挿管に対しては、麻酔中の急な要請で困っていたが、かつて当院研修医であった救急専門医の常勤が実現し、助かっている。月交代で回ってくる研修医の麻酔科研修では十分な指導ができてはいないが、麻酔科志望の研修医もおり、麻酔、救急部門への興味を持っていただければと願っている次第である。

実績

○麻酔件数(2020年)

麻酔別	件数
全身麻酔	1,145 件
TIVA	56 件
全身麻酔+硬膜外麻酔	323 件
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	1 件
硬膜外麻酔	7 件
脊椎麻酔	128 件
静脈麻酔	15 件
計	1,675 件

手術部位別	主たる科または病変部位等	件数
開頭	脳神経外科	67 件
開胸	肺	12 件
血管	腹部大動脈、抹消動脈	16 件
開胸+開腹	食道	9 件
腹部	腹腔鏡+開腹	513 件
帝王切開		5 件
頭頸部・咽頭・喉頭		68 件
胸壁・腹壁・会陰	乳腺・鼠経ヘルニア等	156 件
脊椎		99 件
四肢	骨接合術	714 件
他	静脈麻酔対応疾患	16 件
計		1,675 件

（内本 亮吾）

歯科口腔外科

スタッフ

役　職 氏　名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
歯科口腔外科長 板敷　康隆 （イタシキ　ヤスタカ）	徳島大学卒（平成19年）	日本口腔外科学会認定医 日本口腔科学会認定医 日本有病者歯科医療学会認定医・専門医 歯科医師臨床研修指導医

非常勤	歯科衛生士　2名 メディカルクラーク　1名

概要

当科では歯・顎骨の硬組織と歯肉・頬粘膜・舌・口底・口唇の粘膜および顎下腺・舌下腺・耳下腺（腫瘍を除く）の大唾液腺組織を中心に歯科・口腔外科的領域の疾患について診断・加療を行っています。
下関医療圏の歯科医院からの紹介は以下の5つの多いです。①有病者の抜歯（抗血小板薬・抗凝固薬・BP製剤の内服中や内服既往）、②智歯抜歯や難抜歯、③口腔粘膜疾患、④骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（BRONJ・ARONJなど）や顎骨骨髄炎、⑤頬部膿瘍や下顎骨周囲膿瘍などの重篤な歯性感染症
また、医科からの院内紹介は以下の5つが多いです。①周術期等口腔機能管理、②義歯調整、③口腔ケア、④口腔粘膜疾患、⑤補綴部の脱離

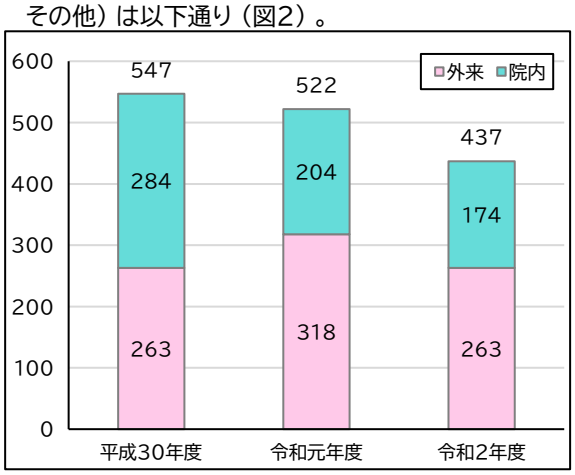
【専門領域】
- ・有病者患者の観血的処置（抜歯や切開・排膿・ドレナージなど）
- ・口腔外科処置（智歯抜歯や嚢胞摘出など小～中手術：全身麻酔下、局所麻酔下での手術）
- ・周術期等口腔機能管理

【診療内容】
- ・山口県歯科医師会および下関歯科医師会の先生と連携を取りながら、歯科・口腔外科診療を行っています。
- ・周術期等口腔機能管理として、全身麻酔下での頭頸部・呼吸器・消化器・乳腺領域の悪性腫瘍手術、脳外科領域や人工股関節置換術等の整形外科領域の手術に対する手術前後（入院前・入院中・退院後を含む）の口腔ケアを行っています。さらに、がん等に係る放射線治療・化学療法を実施している患者様（予定している患者様を含む）・緩和ケアの患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。
- ・骨吸収抑制薬関連顎骨壊死や顎骨骨髄炎に対し、外科的手術前後に、高気圧酸素療法＋抗菌薬の投与を積極的に行っています（症例によっては山口大学歯科口腔外科へ紹介する場合があります）。
- ・全身麻酔下での顎骨嚢胞摘出や智歯抜歯等も行っています。

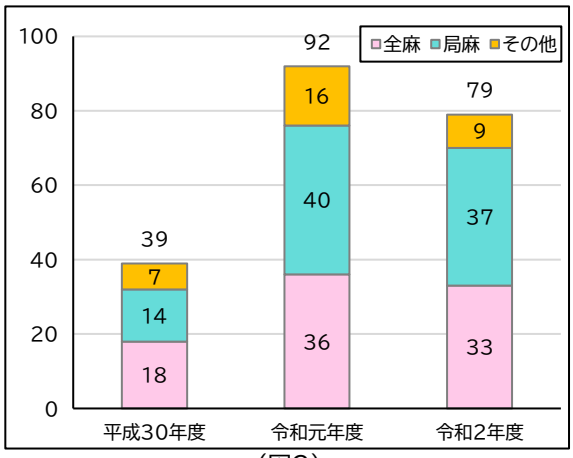
【平成30年度～令和2年度の各年度の当科のべ受診患者数】

①平成30年度～令和2年度の当科のべ受診患者数（外来･院内）は以下通り（図1）。

②平成30年度～令和2年度の各年度の当科入院患者数(全身麻酔下手術:全麻、局所麻酔下手術:局麻、その他）は以下通り（図2）。



（図1）



（図2）

【感染予防対策】

･歯科診療時の感染予防対策として、新型コロナ感染症（COVID-19）蔓延前から、入室時、すべての患者様にアルコールでの手指消毒をお願いしています（アルコール消毒に問題のある患者様を除く）。また、スタンダードプリコーションとして、患者様ごとに滅菌器具やディポーザブル器具等を使用しております。
さらに、歯科診療台等は患者様ごとに、清拭クロス等で消毒を行っています。加えて、歯科用タービン等を使用する際には診療室内の唾液･血液等の飛沫軽減として、口腔外バキューム（1台目を2017年11月から）使用しています。

･新型コロナ感染症（COVID-19）蔓延後からは上記の対策に加え、診療室にHEPAフィルター＋紫外線殺菌装置を搭載した空気清浄器を2台設置し（2020年10月から）、診療中は常時使用しています。
さらに、夜間はオゾン発生装置を使用し(2021年2月から）、診療室内全体の消毒を毎日行っています。また、口腔ケアが必要な新型コロナ感染症患者様に対して、コロナ病棟で口腔外バキュームを使用しています（エアソゾルの飛沫軽減･担当看護師の2 次感染予防対策の一環として:2台目を2021年2月から）。

歯科用滅菌器具

口腔外
バキューム

空気清浄器

オゾン発生装置

【学会発表】

日本口腔外科学会･日本口腔科学会･日本有病者医療学会･国立病院総合医学会などでの発表を行っており、今後も積極的に行う予定です。

（板敷　康隆）

女性総合外来

スタッフ

役　職 氏　名	分担	専 門 医 認 定 医
医長 早野　智子 （ハヤノ　トモコ）	担当医師	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医 日本女性医学会・日本性差医学/医療学会会員
副看護師長 大石　麻莉 （オオイシ　マリ）	事前の電話問診・予約対応	看護師
心理療法士 臼井　麻子 （ウスイ　アサコ）	カウンセリング・心理テスト等担当	公認心理師 臨床心理士

概要

私どもの女性総合診療外来は、女性の一生を心と身体の両方から支えることを目標に、平成14年9月30日に開設されました。女性が自分の心と体の健康について理解し、社会の中、家庭の中で、自ら納得のゆく健康管理をしながら充実した人生を過ごせることが私たちの願いです。主婦、母、妻、キャリアウーマン、OL、シングル・レディ、etc…. 女性の立場・呼び名は様々ですが、ひとりの女性の健康を守ることは、そのひとと関わる社会、家族の健康を守ることへとつながります。

診療活動

過去2年半の診療実績は下記のようです。
令和2年度の1日平均外来患者数は0.4人でした。

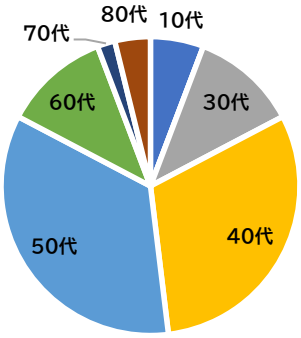
女性外来の診療実績(平成31年4月1日～令和3年11月30日診療分)

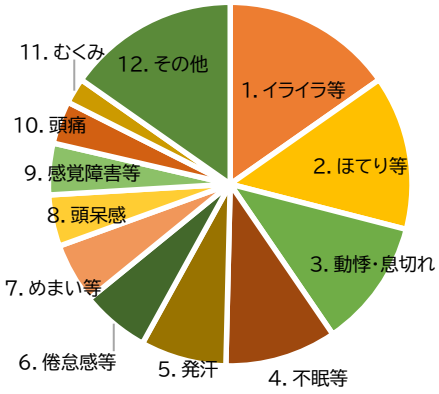
★女性外来受診の主な症状(主訴)★

1	イライラ・不安感・情緒不安定・抑うつ・気分の落ち	20
2	ほてり・ホットフラッシュ・のぼせ	18
3	動悸・息切れ	15
4	不眠・睡眠障害・中途覚醒・悪夢	13
5	発汗	10
6	倦怠感・疲労感	8
7	めまい・立ちくらみ	7
8	頭呆感	6
9	感覚障害・感覚過敏・しびれ・ムズムズ足・舌ビリビリ	6
10	頭痛	5
11	むくみ	3
12	その他 冷え症、ふらつき、肥満、季肋部痛・心窩部痛、喉のつかえ・つまり、月経不順、食思不振、口渇、過呼吸、徐脈疑い、発達障害、低体重、体重減少、吐き気、肩こり、尿失禁、物忘れ、脱毛、寝汗、高コレステロール血症	20

★年齢分布★

10代	3人
20代	0人
30代	6人
40代	16人
50代	18人
60代	6人
70代	1人
80代	2人
合計	52人





外来

外来は週に1回、月曜日の午後1時半より、おひとり30分間(初回は1時間)。待ち時間をなくすように完全予約制で行っております。

症状について、受診以前からの経過を詳しく伺い、その内容を鍵に検査・治療・他科専門医師への橋渡しに努めています。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

＜例＞「胸の痛み」の問診票

①症状の具体的な性状は？(皮膚の表面を針で刺すよう　なチクチクした痛み、みぞおちからのど元にかけて引き絞られるような鈍い痛み、深く息を吸ったときに生じる痛み、など)、
②症状が初めて生じた時期とその持続時間(期間)は？
③現在までの発症頻度は？(週または月に何回、徐々に頻度が増えているか)、
④症状が出やすい季節・時間帯は？(深夜・明け方、昼間の作業中、食後・飲酒後、など)、
⑤症状が起こる引き金となる動作の内容は？(階段を登る、夜布団に入った後、冷たいシャワーを浴びる、など)
⑥症状が現れる具体的な体の部位と範囲は？
⑦症状によるつらさの程度(生活への支障度)は？
⑧その方の住まれる社会環境や職種は？
⑨味の好みや生活習慣は？(脂ものや塩分の量、喫煙、運動不足、飲酒ほか)、
⑩家族歴とご本人の合併疾患は？(高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、心筋梗塞、不整脈、大動脈瘤、脳卒中、気胸、膵炎、逆流性食道炎、十二指腸潰瘍、過換気症候群など)、
⑪これまで使用した治療薬の種類とその効果

※診療は、完全予約制となっております。畏れ入りますが、事前のご連絡をよろしくお願いいたします。

(早野　智子)

薬剤部

スタッフ

役 職・氏 名	
薬剤部長	藤田　秀樹
副薬剤部長	小山　朋子
主任薬剤師	3名
薬剤師	12名
薬剤助手	5名
治験看護師	1名
治験事務助手	1名

専門・認定資格	
日本病院薬剤師会　日本病院薬学認定薬剤師	小山　朋子
日本薬剤師研修センター　認定実務実習指導薬剤師	藤田　秀樹、小山　朋子、林　俊吾、綾田　翔、安達　俊江
日本薬剤師研修センター　研修認定薬剤師	藤田　秀樹、小山　朋子、林　俊吾、中村　良子、槇山　翔太、濱砂　恵理香
日本臨床栄養代謝学会　栄養サポートチーム（NST）専門療法士	小山　朋子
栄養サポートチーム加算に係る40時間以上の研修	小山　朋子、中村　良子
日本老年薬学会 認定薬剤師	小山　朋子
日本臨床救急医学会　救急認定薬剤師	槇山　翔太
日本糖尿病療養指導士認定機構　日本糖尿病療養指導士（CDEJ）	小山　朋子
日本くすりと糖尿病学会　糖尿病薬物療法准認定薬剤師	小山　朋子
日本アンチドーピング機構　スポーツファーマシスト	綾田　翔

概要

◆薬剤部について◆

薬剤部では、治療の一分野である薬物治療に使用する「お薬」に関わるお仕事を主な業務としています。患者さんの治療に際し、処方せんに基づき正確に調剤することは当然ですが、「お薬」は単なる物ではなく、その背景には数多くの情報（有効な疾患、副作用、相互作用＝飲み合わせ等）を持っています。当センターに入院されました患者さんには医師の治療計画に従って、薬剤師が病棟に赴きベッドサイドにて患者さんに処方されたお薬について説明させていただいております。また、有害な副作用の発見にも努めており、薬剤師が薬のスペシャリストとして医療の質と患者さんのQOLの向上に貢献し、真の医療人として社会から信頼されるよう薬剤部一同研鑽を重ねております。

また、薬剤師はチーム医療推進（ICT、NST　等）のため様々なチームに参加しており、薬剤師としての職能を生かした薬学的支援を行っています。

薬剤部は医薬品の購入・供給・薬品管理、医薬情報の収集・提供、一般製剤・特殊製剤、入院・外来患者の調剤、化学療法注射剤の混合調製、病棟活動等、それぞれにおいてお薬に関する重要な役割を担っています。

◆調剤業務◆

治療のために、医師が処方したお薬を素早く取りそろえ、患者さんに手渡すだけでは十分とはいえません。取りそろえただけのお薬はそのままでは単なる物ですが、そのものがお薬として適切に服用や使用されるために、我々スタッフが患者さんごとにお薬の使い方や使用量、併用しているお薬や食べ物との飲み合わせ、アレルギーや副作用などについて確認したうえでお薬をお渡ししています。

◆製剤業務◆

製薬会社が作っていない医薬品や、まだ開発段階にあるもの、病院独自の薬剤を医師の依頼に基づいて調製することが主な仕事です。

◆注射薬調剤業務◆

注射薬は、一般に効果が強く血管内に直接投与されます。特に注射薬は急性期に使用されるので、病状に応じて処方内容が細かく変化します。

薬剤部では、注射薬についてもその都度処方せんによって調剤を行い、配合変化や相互作用、薬剤の分量、用法、投与速度、投与ルート、投与間隔などを確認し、特に翌日分の注射薬はアンプルピッカーを使用して1施用毎（1回分）の注射薬セットを行っています。

◆抗がん剤無菌調製◆

抗がん剤は、がん細胞の増殖を阻止する作用を持つ薬物で、増殖に必要な核酸やタンパク質の合成を直接阻害することで作用を発揮する薬剤です。その一方で、抗がん剤は旺盛に増殖する正常細胞（骨髄・消化管上皮・毛根など）にも影響を及ぼす薬剤でもあり、細胞毒性、変異原性（遺伝子に変異を与える可能性がる）あるいは発がん性を有するものが多く、抗がん剤を取り扱う医療従事者は薬剤の曝露（被爆）による健康上の危険性がついてまわります。医療従事者の曝露を回避するため、注射用抗がん剤は、薬剤部にて無菌的に調製を行ったあとで、病棟あるいは外来化学療法センターへ薬剤を供給しています。

抗がん剤の投与（薬物療法）は、効果や副作用など、いろいろな不安や疑問点があると思います。患者さんが安全に安心して治療を受けていただけるように、医師・看護師とともに薬剤師も尽力いたします。

◆医薬品情報◆

お薬に関する最新の情報を収集したり整理したりして、医師や患者さん、医療スタッフにその情報を提供することも重要な仕事の1つです。特に医薬品に関する重要な情報はその都度お知らせし、院内で決まった医薬品や薬の副作用情報などは定期的に医療スタッフに提供しています。

◆入院患者さんへの服薬指導◆

医師・看護師等と連携を取りながら、入院中の患者さんのベッドサイドで薬の説明を行い、質問や相談に応じています。薬の効き目や、飲み合わせ、副作用についてもチェックをし、患者さんが安心して服薬してもらえるよう取り組んでいます。

治験業務

GCPに基づき治験を実施するチームの一員として、プロトコルに従い、治験責任医師・分担医師の業務を支援し、治験薬を適正に保管・管理しながら治験薬が適正に投与されているかを確認する業務を担っています。

実績

		2018年度	2019年度	2020年度
薬剤管理指導料	届出病床数	400.0	400.0	400.0
	対象患者数	752.0	791.3	749.0
	年度計画上の指導件数	650.0	800.0	575.0
	実施患者数	491.5	429.3	416.9
	請求患者数	485.5	425.7	415.5
	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	114.1	100.5	166.1
	請求件数内訳2. 1以外	558.8	461.3	418.8
	*請求件数(上記内訳の合計)	672.8	561.8	584.8
	(麻薬加算件数)	11.5	6.7	8.8
	実施薬剤師数	14.6	15.0	12.2
	*薬剤師1人当請求数	46.1	37.5	48.1
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1算定病棟数	5.0	5.0	5.0
	病棟薬剤業務実施加算2算定病床数	16.0	16.0	16.0
	一週間当たりの平均病棟薬剤業務時間(算定病棟)	23.6	22.3	20.5
	病棟薬剤業務実施加算1件数	1,331.2	1,335.3	1,225.6
	病棟薬剤業務実施加算2件数	289.4	269.5	234.6
	持参薬確認数(算定病棟)	311.3	307.3	293.6
	持参薬確認に要する業務時間(算定病棟)	155.7	153.6	97.9
	処方支援・診療支援数(算定病棟)	70.0	56.2	58.0
	薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数(算定病棟)	4.3	3.2	0.9
	一週間当たりの平均病棟薬剤業務時間(非算定病棟)	2.5	0.3	3.9
	持参薬確認数(非算定病棟)	14.8	13.3	13.4
	持参薬確認に要する業務時間(非算定病棟)	7.5	6.6	4.5
無菌製剤処理料	**無菌製剤処理料1** 総実施件数	295.7	331.2	346.8
	イ 閉鎖式接続器具を使用した場合 請求件数	23.1	24.3	24.8
	ロ イ以外の場合 請求件数	270.8	306.9	321.9
	無菌製剤処理料1にかかる時間(時間数)	70.1	82.3	85.8
	無菌製剤処理料2 総実施件数	9.8	10.4	43.0
	無菌製剤処理料2 請求件数	9.8	10.4	43.0
	無菌製剤処理料2にかかる時間(時間数)	3.2	3.3	11.1
	薬剤師が行った提供件数	303.9	301.1	0.0
	請求件数	302.3	297.7	0.0
外来化学療法加算	外来化学療法加算1 **A:15歳以上** 請求件数	140.4	174.3	166.7
	外来化学療法加算1 **B:15歳以上** 請求件数	3.4	2.8	5.1

(藤田 秀樹)

放射線科

スタッフ

役 職・氏 名	
放射線科医師(治療・診断)	3名
診療放射線技師	16名
診療放射線技師長	1名
副診療放射線技師長	1名
主任診療放射線技師	4名
診療放射線技師	10名
放射線科助手	1名

施設認定
医療被ばく低減施設
マンモグラフィ検診施設画像認定
→ 装置更新(昨年度3月)にて(デジタル)ソフトコピー臨床画像評価受検申請中

診療放射線技師資格・認定取得者	
国家資格	
第1種放射線取扱主任者	1名
認定機構資格	
放射線治療専門技師	1名
放射線治療品質管理士	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	3名
PET研修セミナー	6名
塩化ストロンチウム治療安全取扱	2名
I-131による残存甲状腺破壊の外来治療	1名
塩化ラジウム(Ra-232)注射液を用いた RI内用療法における適正使用	3名
放射線医薬品取扱ガイドライン	7名
放射線技師会資格	
放射線機器管理士	5名
放射線管理士	2名
医療情報技師	2名
シニア技師	1名
アドバンスド技師	1名

保有機器	
一般撮影 4台	歯科撮影装置 2台
ポータブル撮影装置 6台	CT 2台
透視撮影装置 2台	MRI 1台
骨密度測定装置 1台	ガンマカメラ 1台
乳房撮影装置 1台	PET-CT 1台
血管撮影装置(汎用型) 1台	リニアック 1台
外科用イメージ 3台	治療計画装置 1台

主な検査・治療	
一般撮影	MRI検査
マンモグラフィ	RI検査
骨塩定量測定	PET−CT検査
透視撮影	血管造影
CT検査	放射線治療

放射線科について

放射線科の業務には、画像診断、核医学検査、放射治療があります。

画像診断領域では、一般撮影・X線透視装置・CT装置・MRI装置などがあります。また、血管造影装置を用いた診断・治療なども行っています。核医学検査では、脳血流検査・心機能検査など行っています。また、2010年4月にはPET−CTを導入しました。

放射線治療領域では、リニアック治療装置を使用し、頭頸部、食道、乳腺、前立腺がん等の放射線治療を行っています。また、放射性同位元素内用療法として、ゼヴァリンによるRI標識抗体療法、塩化ラジウムの去勢対抗性前立腺がんの骨転移治療なども行っています。当センターでは、「安心できる放射線診療」を提供することを目的として、平成24年1月より全国で32番目に「医療被ばく低減施設」として認定されています。これは、医療被ばくの低減・管理を適正に行っている施設に対し与えられる施設認定で、第三者機関より客観性のある適正な評価を受け、目に見えるかたちで放射線検査の安全性を証明するものです。2021年6月1日現在、全国で128施設が認定されていますが、山口県では当センターのみ認定を取得しております。

また、乳房撮影装置の更新に伴い、現在(デジタル)ソフトコピー臨床画像評価受検申請中です。

実績

	2018年度	2019年度	2020年度
単純撮影	25,897	26,187	23,920
（マンモ）	663	750	593
（ポータブル）	4,198	4,476	4,777
（造影検査）	1,604	1,821	1,920
（骨塩定量）	1,097	1,103	973
（時間外撮影人数）	6,329	6,966	5,554
血管造影	145	158	162
RI	1,026	1,025	905
PET-CT	560	454	416
CT	13,859	14,102	13,857
（CT紹介）	661	573	513
MRI	4,858	4,835	4,737
（MRI紹介）	512	334	359
3次元画像解析	617	545	583
放射線治療	3,270	2,863	2,740
放射線度同位元素内用療法	0	1	0

＊（ ）は再掲

（豊川 浩）

臨床検査科

スタッフ

役 職･氏 名	
臨床検査科長	長島　由紀子
臨床検査技師長	内田　享
副臨床検査技師長	長藤　宏士
主任臨床検査師士	5名(1名育休中)
臨床検査技師	13名
臨床検査助手	1名

資格･認定取得者

【国家資格】

検体採取並びに味覚検査及び臭覚検査の実施に必要な知識及び技能取得講習会修了者　15名(受講必要なし2名)

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者講習修了　4名

有機溶剤作業主任者技能講習修了　4名

日本乳がん検診精度管理中央機構主催　乳房超音波試験A判定　1名

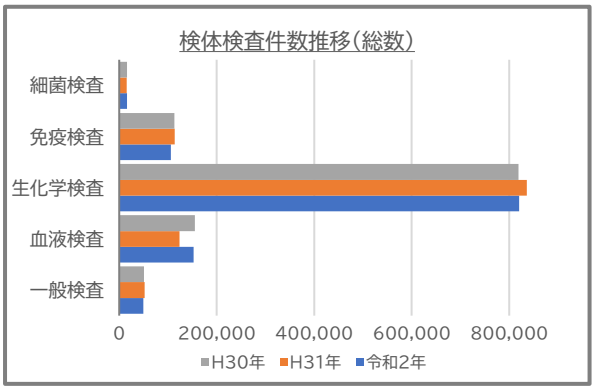
【認定資格】

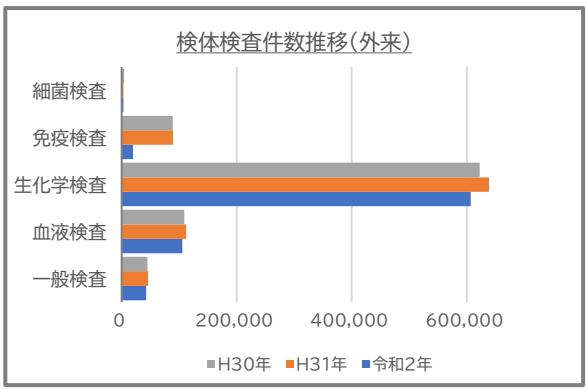
認定輸血検査技師	1名	緊急検査士	4名
細胞検査士(国内)	3名	フローサイトメトリー認定技術者	2名
細胞検査士(国際)	1名	2級臨床検査士(血液)	2名
超音波検査士(消化器)	1名	糖尿病療養指導士	1名
超音波検査士(循環器)	3名	JHRS認定心電専門士	1名
超音波検査士(体表臓器)	1名	日本睡眠学会認定検査技師	1名
超音波検査士(泌尿器)	1名	血管診療技師	2名

診療活動

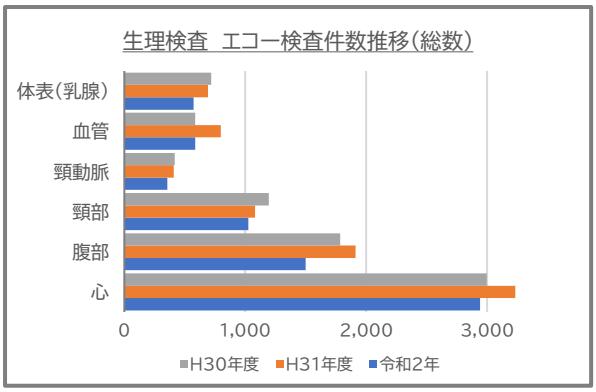
臨床検査業務には大きく分けて患者様から採取された検体を用いて実施する検体検査と患者様に直接検査機器等を装着するなどして検査する生理検査があります。

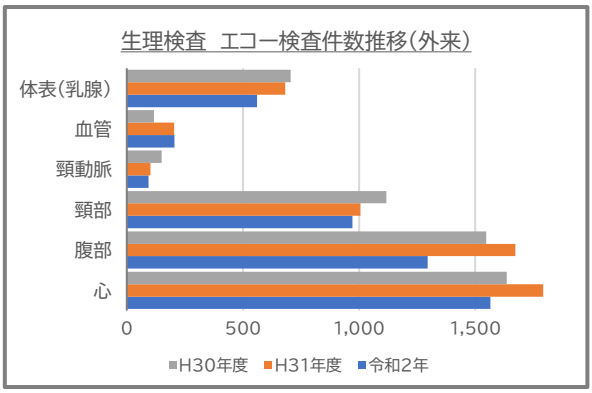
検体検査部門には血液、尿、体腔液等を採取し分析する生化学、免疫検査。細胞分類等を実施する血液、一般検査。各種検体の培養等により感染症の原因を見つける微生物検査。生体から採取した細胞を検査する細胞診検査、生検や手術材料を組織学的に検査する病理検査などがあります。また輸血関連検査及び血液製剤管理を実施する輸血管理室があります。





生体検査には心電図検査をはじめ呼吸機能検査、脳波や誘発筋電図などの神経学的検査、超音波検査などがあります。昨年より足病外来が始まったことにより下肢エコー関連検査、血圧脈波、体組成分析検査等が増えてくる状況です。





当院は救急受け入れ病院であるため検査科も緊急検査項目、輸血関連検査、心電図に関しては時間外も対応できる体制をとっています。

（内田　享）

栄養管理室

スタッフ

役 職･氏 名	
栄養管理室担当医	鶴 政俊
栄養管理室長	白野 容子
管理栄養士	東久保 良美
	滝澤 栞
	東 なつみ(産休育休)
	西田 千尋
	伊藤 愛理(産休代替)
調理師	坂田 修
	松本 歩
委託会社職員34名	

専門･認定資格
管理栄養士 6名
栄養サポートチーム(NST)専門療法士 3名
日本糖尿病療養指導士 3名
栄養管理に関する40時間研修終了 1名
病態栄養専門認定管理栄養士 1名
糖尿病病態栄養専門管理栄養士 1名
NSTコーディネーター 1名
静脈経腸栄養(TNT－D)管理栄養士 1名
人間ドック検診情報管理指導士 1名
NR･サプリメントアドバイザー 1名
糖尿病療養指導カードトレーナー 1名
糖尿病カンバセーション･マップファシリテーター 1名

概要

◆栄養管理業務◆

①栄養管理計画書:栄養管理計画書は、主治医が入院診療計画書で『特別な栄養管理の必要性が有り』とした患者について、多職種が協同して作成します。入院時や再評価時にスクリーニングとアセスメントを実施し、栄養状態に課題がある、または栄養不良に陥るリスクが高い患者について、提供栄養量の検討や食事内容の変更提案をするようになっています。しかし入院時には栄養状態良好でも、入院中に体重減少や食事摂取量が減少する患者が少なくないことから、現在はすべての入院患者に対して栄養管理計画書を作成し、入院中一週間ごとに再評価をするようにしています。管理栄養士は、病室を訪問し、患者と話したり、食事の様子を観察したり、担当看護師と情報共有をしながら、個々の患者に最適な食事をプランニングし、実施することに努めています。

②個人栄養食事指導:入院患者および外来患者に対して個人栄養食事指導を行っています。患者の日ごろの食生活などを丁寧に聞き取ることで、患者が「それならやってみよう」と思うことができるカスタムメイドの提案にすることで、QOLやADLの向上に繋がることを目標にしています。(グラフ1)(写真1)

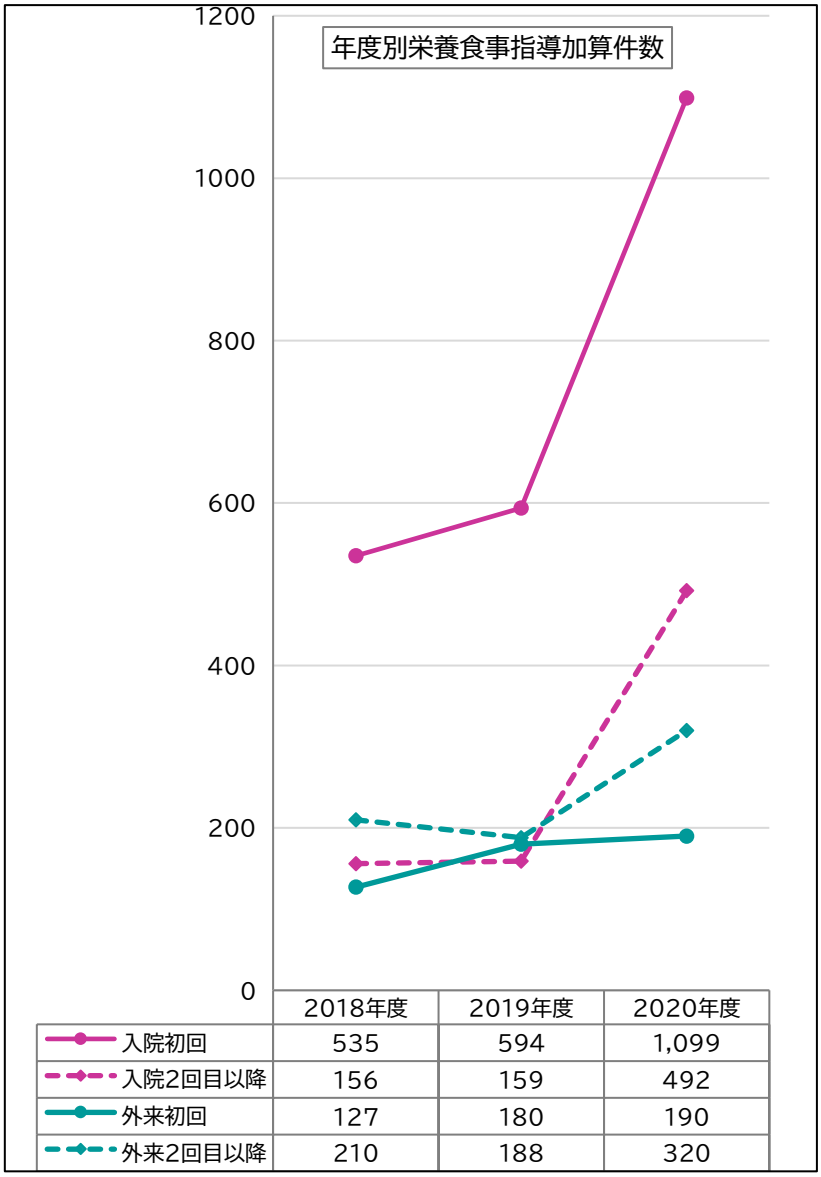
③集団栄養食事指導:入院患者を中心に、毎月2回の糖尿病教室と毎月1回の減塩教室を開催しています。担当スタッフからの知識の啓蒙と患者同士の会話に重点をおいた運営を心がけています。

④チーム医療:栄養サポートチーム(NST)をはじめ、褥瘡、緩和ケアのラウンドや委員会に参加しています。また令和元年からは、ICUのカンファレンスに出席し、入室後早期の経腸栄養開始に他職種と連携して取り組みを開始しました。

◆給食管理(通常の患者食調理は、すべて委託)◆

①特別メニュー:2007年(平成19年)から開始している特別メニューは、現在1ヶ月に10回前後実施しています。自宅では好んで食べるけれど病院では提供しにくいメニューや、調理が少し面倒で自宅ではなかなか調理しないメニューなどを取り入れるようにしています。(写真2、3)

②献立作成:献立作成は、365日のサイクルメニューになっていますが、定期的に新メニューを取り入れる、四季を感じてもらえるような食材を取り入れる、そして行事食にはカードを添えるなど、入院中であっても移り行く季節を感じてもらえる食事提供を目指しています。(写真4、5)



	2018年度	2019年度	2020年度
入院初回	535	594	1,099
入院2回目以降	156	159	492
外来初回	127	180	190
外来2回目以降	210	188	320

（グラフ1）

（写真1：個人栄養指導）

（写真2：特別メニュー　てまり寿司）

（写真3：特別メニュー　瓦そば風）

（写真4：新メニュー　えびグラタン）

（写真5：行事食　七夕）

（白野　容子）

リハビリテーション科

スタッフ

役 職･氏 名	
理学療法士長	河野　明彦
作業療法主任	石丸　眞
理学療法主任	瀬分　慎二
理学療法主任	山内　菜緒
理学療法士	13名
作業療法士	10名
言語聴覚士	3名
診療業務助手	3名

専門･認定資格
3学会合同呼吸療法認定士
呼吸ケア指導士
心臓リハビリテーション指導士
糖尿病療養指導士
福祉住環境コーディネーター2級
JPTECプロバイダー
日本DMAT隊員
臨床実習指導者研修

概要

◆診療活動◆

救急医療に対応したリハビリテーションを特徴とし、発症後早期より積極的に患者様の心身機能や生活能力回復に取り組んできました。平成21年5月より、新たに心臓リハビリテーションを開設し、また、集中治療室に専任のスタッフを配置し、重症例の患者様に対して早期から積極的なリハビリテーションができるように体制を強化しました。さらに、平成26年10月から地域包括ケア病棟の開設に伴い、在宅復帰を目指した回復期のリハビリテーションを本格的に始めました。

急性期から在宅復帰まで一貫して関わる事によって、患者様のニーズに寄り添ったリハビリテーションサービスの提供に努めています。

◆チームアプローチ◆

毎週各診療科事に医師･看護師･ソーシャルワーカーなど多職種合同でカンファレンスを実施しております。多職種で情報を共有して患者様それぞれに最適なゴール設定を行う事によって、最適なリハビリテーションを実施できるように日々努力しております。

下関市は年々高齢化が進んでおり、在宅での介護が困難になるケースも増えていますが、患者様の希望にできるだけ添えるように多職種で協議しています。

◆教育体制◆

臨床教育にも力を入れており、毎年7～8校、10名程度の臨床実習生の受け入れを行っています。また、教育の一環として、積極的に学会発表を推奨しております。研究活動や症例報告を通して、科学的根拠をもって診療にあたるように努力しています。

実績

疾患別(件数)	職種	2018年度	2019年度	2020年度
脳血管疾患リハビリテーションⅠ	PT	6,952	4,562	5,319
	OT	6,460	5,454	7,120
	ST	3,325	2,473	3,646
	合計	16,737	12,489	16,085
運動器疾患リハビリテーションⅠ	PT	18,918	16,643	16,659
	OT	7,097	7,317	6,783
	合計	26,015	23,960	23,442
廃用症候群リハビリテーションⅠ	PT	3,872	2,783	3,360
	OT	4,052	3,292	3,163
	ST	258	186	196
	合計	8,182	6,261	6,719
呼吸器リハビリテーションⅠ	PT	2,451	2,783	1,751
	OT	332	469	405
	ST			8
	合計	2,783	3,252	2,164
心大血管リハビリテーションⅠ	PT	1,220	831	679
	OT	61	0	0
	合計	1,281	831	679
がんのリハビリテーション	PT	1,216	988	1,160
	OT	1,444	1,196	1,512
	ST	0	0	66
	合計	2,660	2,184	2,738
リハビリテーション総合実施計画書		2,400	1,998	1,909
退院時指導		17	2	1

（河野　明彦）

医療機器管理室

スタッフ

役 職･氏 名	
臨床工学技士長	三代 英紀
主任臨床工学技士	村田 聡樹
	石田 朋行
臨床工学技士	4名

専門･認定資格
3学会合同呼吸療法認定士 2名
高気圧酸素治療専門技師 2名
第2種ME技術者 5名
日本DMAT隊員 1名

概要

◆医療機器管理業務◆

医療機器管理業務では病院内で使用している人工呼吸器や輸液ポンプなど約20機種･700台の医療機器を中央管理として安全に使用できるように保守点検業務を行っています。
保守点検業務では、使用が終了した機器の終了時点検や定期的に行われる点検の年間計画を策定し実施しています。
また、教育業務にも力を入れており、看護スタッフに向けて人工呼吸器や新しく入ってきた機器の取り扱い等の勉強会を行っています。

◆集中治療室業務･心臓カテーテル業務◆

集中治療室では、人工呼吸器の使用時に起こったトラブルの対応やCHDF(緩徐血液透析濾過法)、IABP(大動脈内バルーンパンピング)、PCPS(経皮的心肺補助装置)などの多種多様な生命維持管理装置に対する技術支援を行っています。
心臓カテーテル業務では、心臓カテーテル検査や冠動脈インターベーション(PCI)中の心電図･血圧等をポリグラフにより記録し、生体情報のモニタリングやデータ管理を行っています。また、必要に応じて血管内超音波装置(IVUS)等の機器の操作、管理を行います。

◆透析センター業務◆

透析センターでは腎臓の働きの代わりをする血液透析(HD)や血液透析濾過(HDF)を行っており、臨床工学技士はそれらの治療を行う装置の操作、保守点検を行っています。
また、透析を行うにあたって必要となる透析液の水質検査やダイアライザーの管理も行っています。

◆高気圧酸素治療室業務◆

高気圧酸素治療は、酸素カプセルに入り高い気圧の中で酸素を吸入することで血液中の酸素を増やすことのできる治療で、様々な疾患に対して治療を行っています。

実績

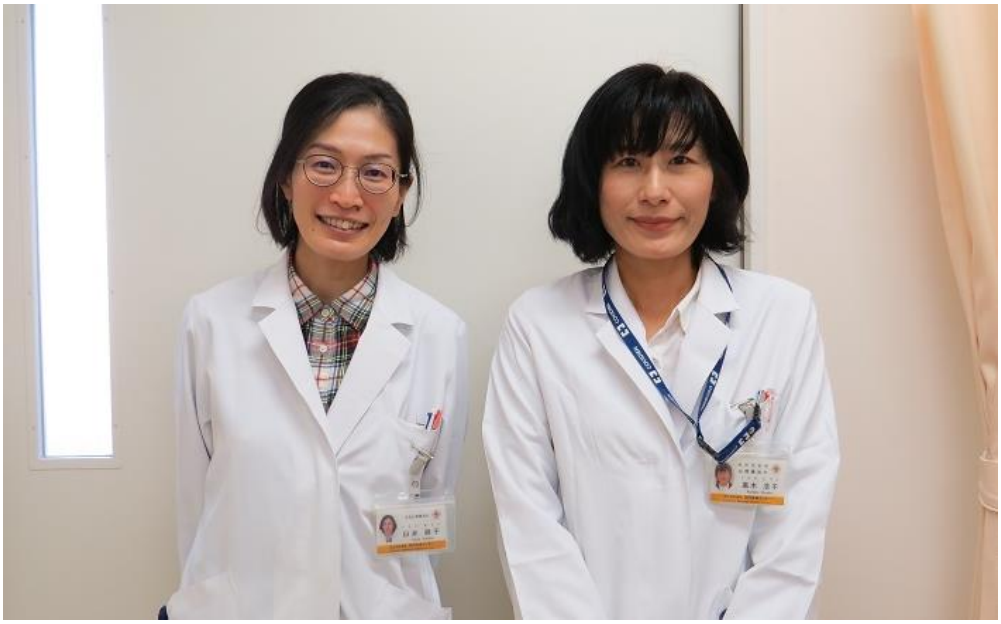
業務領域		症例内容	2018年度	2019年度	2020年度
血液浄化	透析センター	血液透析(回数)	6,037	5,977	5,630
		血症交換療法(件数)	22	2	2
		血漿吸着(件数)	0	1	3
	集中治療室	持続血液濾過透析療法(件数)	14	16	21
		エンドトキシン吸着療法(件数)	3	8	3
		血症交換療法(件数)	0	1	1
	ME室	腹水濾過濃縮再静注療法	45	74	66
高気圧酸素治療		高気圧酸素治療(新規患者数)	39	62	82
		高気圧酸素治療(治療回数)	687	1,056	1,550
臨床業務立ち合い	脳神経外科	手術ナビゲーション(脳外科)立ち合い(件数)	8	11	11
		DBS(脳深部刺激療法)立ち合い(件数)	3	0	0
		INVOSセッティング(件数)	7	11	8
	消化器内科	RFA(ラジオ波焼灼療法)立ち合い(件数)	2	2	2
	神経内科	新規導入 NPPV (件数)	4	3	1
		新規導入 TPPV (件数)	2	0	1
	整形外科	術中神経モニタリング(MEP)	−	−	61
	心臓血管外科	下肢EVT(ALI)+ 麻酔器	0	11	16
		下肢EVT(CLI)	0	22	25
		下肢静脈瘤血管内焼灼術	0	53	25
	麻酔科	全科共通 麻酔器準備 (件数)	6	6	6
循環器部門		心臓カテーテル検査	29	30	10
		心臓カテーテル治療	12	16	4
		体外式ペースメーカ(単独)	7	3	5
		ペースメーカ 他科OP立ち合い (件数)	5	1	6
		ペースメーカ MRI撮影立ち合い (件数)	12	14	16

(三代 英紀)

心理療法士

スタッフ

役 職・氏 名・専門資格		
主任心理療法士	臼井 麻子	（公認心理師・臨床心理士）
心理療法士	黒木 浩子	（公認心理師）



概要

◆心理的援助◆

カウンセリングや心理療法といった心理面接を通しての心理的援助を実施しています。対象となるのは当院に通院されている外来患者・入院患者であり、またご本人のみではなく、ご家族のご相談もお受けしています。
様々な科から面接依頼を頂き内容に応じて主治医・看護師など多職種と連携しながら心理的支援を実施しています。
それぞれの相談内容に合わせて、健康な側面の成長促進を目的とした援助や問題に対する解決方法を一緒に考えていくという援助等、様々な心理的援助アプローチを行っています。ご家族に対しては2番目の患者さんという視点に立ち、積極的に支援できるようスタッフと連携しながら様々な工夫をしています。

◆心理検査◆

心理学的援助を実践するにあたっては心理アセスメントが重要になります。
そのアセスメントの方法の1つに心理検査があります。
言語・視覚認知・記憶・注意・実行機能などの認知機能の諸機能を測定する神経心理学的検査や知的機能を測定し知能指数（IQ）という数値で表す知能検査、パーソナリティ傾向や抑うつや不安を測定する自己記入式の質問紙検査などを実施しています。

◆チーム活動・カンファレンス参加◆

心理療法士もチームの一員として多職種チームやカンファレンスに参加しています。
・緩和ケアチーム
・認知症ケアサポートチーム
・HIV診療チーム　等

◆治験◆

治験において治験責任医師からの依頼で治験薬の効果判定における補助検査を実施しています。

実績

	2018年度	2019年度	2020年度
〈心理面接〉	1,258	1,085	1,001
外来	919	810	707
入院	339	275	294
〈心理検査〉			
MMSE	113	194	169
HDS-R	360	521	433
ADAS-cog	332	511	419
時計描画	114	184	155
FAB	11	16	17
WMS-R	1	0	1
WAIS-Ⅲ＆WAIS-Ⅳ	13	16	13
WISC-Ⅲ	2	2	12
その他の心理検査	23	0	4

（臼井　麻子）

地域医療連携室

スタッフ

役 職･氏 名		専門･認定資格
医療社会事業専門職	沖本　慎一郎	社会福祉士･介護支援専門員
医療社会事業専門員	古永　智子	社会福祉士･介護支援専門員
医療社会事業専門員	大羽　智也	社会福祉士･介護支援専門員
医療社会事業専門員	河本　香織	社会福祉士･介護支援専門員
医療社会事業専門員	内田　恵梨	社会福祉士

概要

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的･心理的･社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。主な業務内容は

1. 療養中の心理的･社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診･受療援助
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動　などを中心に活動しています。

実績

○相談活動内容　　件数

		H30年度	R1年度	R2年度
診療科別	内科	1,220	845	871
	消化器科	528	495	575
	循環器科	435	343	317
	脳神経外科	295	344	439
	整形外科	1,834	1,676	1,835
	脳神経内科	1,685	1,270	1,303
	外科	1,021	834	1,004
	救急科	26	23	40
	精神科	31	29	40
	産婦人科	10	14	4
	耳鼻咽喉科	91	52	61
	皮膚科	2	3	4
	泌尿器科	292	237	301
	小児科	9	2	10
	その他	55	65	50
病棟別	外来	1,472	1,147	1,161
	救命救急	212	209	116
	ICU	22	15	25
	4C	424	299	538
	5B	983	791	1,019
	5C	1,051	771	565
	6B	939	918	1,018
	6C	749	643	812
	7B	993	900	1,222
	7C	690	363	367
新規別	新規	2,146	1,995	2,111
	継続	5,367	4,146	4,712
相談内容	経済的問題	681	623	613
	心理社会的問題	588	530	523
	受診・受療問題	3,805	2,965	3,117
	退院援助	5,292	4,075	4,601
	社会復帰	30	37	35
	地域活動	1	1	0

○入退院支援加算算定状況

		H30年度	R1年度	R2年度
件数		1,042件	1,074件	1,120件
スクリーニング実績		1.2日	1.2日	1.1日
カンファレンス実績		5.5日	5.5日	6.0日
計画書作成実績		5.5日	5.6日	6.0日
退院先	自宅	116件	81件	122件
	施設	99件	116件	102件
	老健	14件	22件	13件
	転院	813件	855件	883件
地連パス	脳卒中	121件	144件	153件
	大腿骨	125件	139件	156件
男女別	男性	429人	451人	463人
	女性	613人	623人	657人
平均年齢	男性	78.1才	79.1才	78.1才
	女性	83.3才	83.8才	83.6才

（沖本　慎一郎）

看護部

スタッフ

役 職･氏 名	
看護部長	上柿　博美
副看護部長	川添　由紀子・平畠　真希
看護師長	14名
副看護師長	23名
看護師	385名

専門･認定資格	
感染管理認定看護師	2 名
救急看護認定看護師	3 名
がん化学療法認定看護師	1 名
集中ケア認定看護師	1 名
皮膚排泄ケア認定看護師	1 名
緩和ケア認定看護師	1 名
認知症看護認定看護師	1 名
（うち特定行為看護師	：2 名）

概要

関門医療センターは、関門海峡を挟んで北九州も医療圏に取り込み、患者さん中心の「健康応援病院」として、「先駆け」「地域」「教育」をキーワードに「救命救急」「がん治療」等、最新最良の医療の提供し、「生活習慣病センター」や「健康応援図書館」などを整備し地域の方々の健康を守る活動に努めています。 看護部では「日本一のおもてなしの心で看護サービス」を目指すため、挨拶、笑顔、迅速な対応、思いやりのある優しさ・責任ある行動を心がけています。

「おもてなし」とは相手や物を思いやり、慈しむ心であり、対象者を「おもんばかる」ことだと思います。一人ひとりの患者さん、家族の皆様に関心をよせ、気持ちに寄り添い、共に歩む看護を提供してまいります。そのためにも、患者さんのニーズを的確に把握するとともに、看護実践能力を向上させ、きめ細やかな心温まる看護が提供できる人材育成を実践していきます。自分で感じ、考え、行動し、提案できる看護師の育成はもとより、共に働く仲間がやりがいと誇りを持てる職場つくりも併せてめざします。

研修の実績（2020年度）

○ラダーレベル研修

内容		参加人数
ラダーレベルⅡ	フィジカルアセスメント	26名
	看護倫理Ⅱ	25名
	ケーススタディ	25名
ラダーレベルⅢ	リーダーシップ研修	18名
	後輩支援研修　3ヶ月フォローアップ	26名
	後輩支援研修　6ヶ月フォローアップ	26名
	看護倫理Ⅲ	25名
	キャリア開発	28名
	後輩支援研修　12ヶ月フォローアップ	25名
ラダーレベルⅣ	経営参画Ⅰ	25名
	看護倫理Ⅳ	16名
	看護を語るⅠ（ナラティブ研修）	16名
ラダーレベルⅤ	経営参画Ⅱ	3名
	看護語るⅡ	3名
	看護倫理Ⅴ	3名

○新人看護師研修

内容		参加人数
新人看護師研修	新採用者研修	34名
	新採用者技術研修	24名
	メンバーシップ研修	24名
	フィジカルアセスメントⅠ	24名
	多重課題研修	22名
	看護倫理Ⅰ	22名
	6ヶ月の振り返り	22名
	リフレクション研修	22名

内容		参加人数
全体研修	重症度、医療・看護必要度評価強化研修	319名
	退院支援	25名
	人工呼吸器装着中の看護	33名
	看護を語る会	38名
	院内留学	8名
	臨床倫理・コミュニケーション（e-ラーニング）	322名
看護研究	看護研究導入講義	18名
	看護研究計画書	41名
	分析・統計（e-ラーニング）	38名
	看護研究まとめ	17名
	看護研究発表会	42名
役割別研修	固定チームリーダー研修	19名
	固定チーム取り組み発表会	106名
	次年度チューター導入研修	30名
	次年度実地指導者導入研修	22名
看護補助者研修	看護部の方針・接遇・倫理	17名
	守秘義務・個人情報の保護	19名
	日常生活援助　環境整備・患者移送	19名

○院内認定専門領域看護師育成研修

内容		参加人数
院内認定専門領域看護師育成研修	がん化学療法看護	16名
	褥瘡ケア	14名

○看護研究発表

テーマ		所属
院内看護研究発表	化学療法を受ける悪性リンパ腫患者のサルコペニア予防に関する一考察 ～運動・食事療法を実施して～	4C病棟
	がん看護に対する看護師の困難感に関する属性比較	6C病棟
	救命救急センターを擁する地域支援病院で勤務する看護師の救命スキルおよび知識に関する調査	5B病棟
	音楽が局所麻酔手術に対する不安・恐怖軽減の効果 ～患者が好みの音楽を取り入れて～	手術室

○院外看護研究発表

テーマ		所属
第74回 国立病院総合医学会	内視鏡下手術器材の点検方法の検討 ～内視鏡下器材点検表の導入に向けて～	手術室
	外来患者が外来看護師に求める接遇 ～外来看護者と外来患者の接遇に対する評価を比較して～	外来
日本集中治療医学会 第5回中国・四国学術集会	救命救急センター病棟に入院する患者のICDSCスケールを用いたせん妄評価と改善の取り組み	E1病棟

（平畠　真希）

看護部長室

看護部長　　上柿　博美
副看護部長　　川添　由紀子・平畠　真希
ほか　看護師 1名、事務助手 1名、看護助手 1名

E1【救命救急センター】

看護師長　　神田　典子
副看護師長　　酒見　大輔・井伊　正子
ほか　看護師 32名

4C病棟

看護師長　　岡田　愛
副看護師長　　藤田　智美・前村　友美
ほか　助産師 4名、看護師 25名、看護助手 2名

E2【ICU】

看護師長　　神田　典子
副看護師長　　石田　幹人・渡邉　めぐみ
ほか　看護師 19名

5B病棟

看護師長　　西田　茂雄
副看護師長　　磯本　早苗・上村　倫子
ほか　看護師 34名、看護助手 2名

5C病棟

看護師長　　小林　陽子
副看護師長　　中野　早苗
ほか　看護師 18名、准看護師 1名

6B病棟

看護師長　　越智　希
副看護師長　　河村　真江・山口　智弘
ほか　看護師 32名、看護助手 1名

6C病棟

看護師長　　福田　美代子
副看護師長　　蔵橋　智洋・田邊　文香
ほか　看護師 30名、看護助手 2名

7B病棟

看護師長　藤本　みどり
副看護師長　安部　恭子・住田　麻季
ほか　看護師 30名、看護助手2名

7C病棟

看護師長　山下　千里
副看護師長　三村　由佳
ほか　看護師18名、准看護師 1名

手術・中央材料室

看護師長　曽根　真弓
副看護師長　浅原　葉子
ほか　看護師 23名

外来

看護師長　藤津　京子
副看護師長　内海　恵子・大石　麻莉
ほか　看護師 55名、看護助手 10名

地域医療連携室

地域医療連携係長　橋本　史香
ほか　看護師 4名

ビーンズ訪問看護ステーション

看護師長　中島　美恵
ほか　看護師 4名、事務助手 1名

特定看護師・認定看護師

教育担当師長　岡　美樹
副看護師長　岡本　広美(化学療法)・
高山　佳代子(感染管理)

医療安全管理室

医療安全管理係長　加藤　かおり
ほか　事務助手 1名

特定看護師　髙橋 依子・石田 幹人　　認定看護師【感染】高山 佳代子・三村 由佳【がん化学療法】岡本 広美【集中ケア】石田 幹人
認定看護師【救急】福本 知子・髙橋 依子・瀧本 泰介【皮膚・排泄ケア】宮城 陽水【緩和ケア】木島 政代【認知症】原田 聖三

事務部(企画課・管理課)

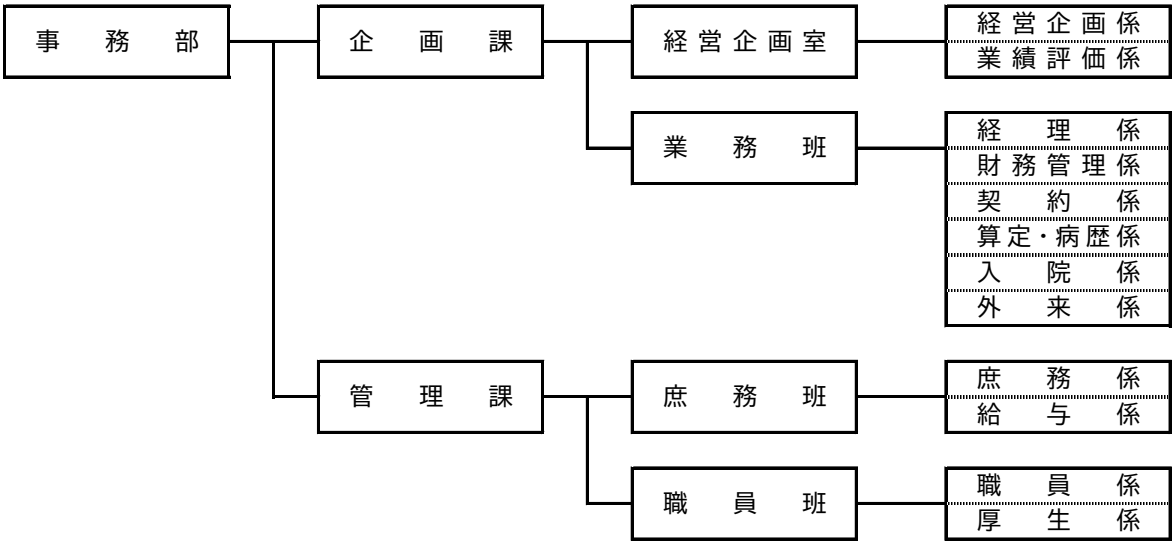
1. 事務部職員数(各年4月1日現在)

職 群	定 数	現 員		
		平成30年度	令和元年度	令和02年度
部長	1	1	1	1
課長・室長	3	3	2	2
班長・専門職	4	3	3	3
係長	8	5	5	5
主任				
一般職員	6	9	8	9
計	22	21	19	20

※現員は休職者を含む

※欠員は経営面を考慮し、固定費削減方策として補充していない。

2. 組織



3. トピックス

2019年(令和元年)12月に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対し、物資の調達、職員へのワクチン接種、発熱外来の設置、来院者の熱発・行動確認、医療ひっ迫地域やワクチン集団接種会場への職員派遣、入院受入病床の整備及び関連補助金の確保等、事務部においても新型コロナウイルス感染症対応に追われたが、これについては他部署の報告等を参照されたい。

以下は、事務部のトピックスとして報告する。

①地域医療構想調整会議(平成29年～)

下関市医療圏地域医療構想調整会議の中間報告(高度急性期・急性期機能編 Ver.1.0／平成29年6月30日公表)において、

・高度急性期・急性期に特化した病床数500床以上の規模の基幹病院が複数あること
・基幹病院は、専門医研修が可能な環境が整備されている等、医師を初めとする医療従事者にとって魅力的な病院であって、医師200名体制を目指すこと
・現在、二次救急医療を担っている4病院(NHO関門医療センター、下関市立市民病院、済生会下関総合病院、JCHO下関医療センター)は、基幹病院としては診療規模が小さいため、平成27年(2025年)までに段階的に再編を進めること
・各病院は連携し、分野や診療科別に役割分担を行い、効率的に医療を提供すること

とされた。

この中間報告の公表後、地域医療構想調整会議や高度急性期・急性期専門部会(部会長:林院長)等において議論が重ねられたが、具体的な結論に至らぬまま新型コロナウイルス感染症のまん延により議論が中断されている。

なお、下関市は、下関医療圏を重点支援区域として山口県への申請を予定している。

※重点支援区域・・・県から国(厚生労働省)へ申請
重点支援区域に対しては、国による技術的・財政的支援が行われる。

②特命経営戦略室の発足(平成31年～)

危機的な経営状況を受け、平成31年4月に院長のブレーンとして病院運営を補佐する「特命経営戦略室」を立ち上げた。主にDPCやレセプトデータを用いた経営分析と、自由な発想による経営戦略や改善方策のアイデアを検討する場となっている。

構成メンバーは、院長、事務部長、経営企画室長、石田副看護師長、診療情報管理士／太田、島の6名であり、月1回の室会議の場でディスカッションを重ねている。

特命経営戦略室の発案による改善方策等は幹部会議の了承を経て実行に移される。

③医療材料適正化事業への参加(平成31年3月～令和2年3月)

当センターのSPD契約の契約内容に整理すべき点があるとして、国立病院機構本部の平成31年度医療材料費適正化支援事業の対象病院として指定され、以降、本部、中国四国グループ、株式会社エム・アール・ピー及び当センター間で勉強会や仕様書の検討が行われた。

SPD契約については次回の入札(令和2年度)まで期間があることから、価格交渉における本部の支援があった。

結果として、削減目標額2,470万円に対して、達成率65%、1,600万円の削減となったが、依然としてベンチマーク上の平均価格以上の品目(C、D判定)が多い状況にあることが課題となっている。

④卒後臨床研修評価機構(JCEP)による臨床研修評価受審(令和3年3月)

国民に対する医療の質向上を目指して、臨床研修指定病院における研修プログラムや研修状況の評価を行い、よい医師養成に寄与することを目的としたJCEP(NPO法人卒後臨床研修評価機構)による卒後臨床研修評価を受審。

吉野研修部長を中心に、管理課長、庶務係長、給与係、研修部長付MCによるコアメンバー会議を立ち上げ、書面調査・訪問調査に向けて提出資料の作成や院内調整を行った。

令和3年3月3日に受審し、5月1日付で認定。NHO中国四国グループ内の病院としては初認定。山口県内では2番目の認定となっている。

(難波　和弘)

診療情報管理室

スタッフ

役 職･氏 名	
室長	佐藤　穣
診療情報管理士	太田　恭司
	島　且大
	宮添　夏生
	枝松　希
	ほか1名

専門･認定資格	
診療情報管理士	5名
医療情報技師	1名
がん登録実務初級者	2名

概要

◆診療情報管理業務◆

診療情報の適切な保管･管理を行っています。
また、診療記録に不整合がないかを点検し、診療情報管理システムの構築を行い、精度管理に努めています。

◆疾病統計、分析業務◆

入院患者について国際疾病分類（ICD）による疾病統計を行っています。
疾病統計の作成、臨床評価指標の作成等に役立てています。

◆DPC管理業務◆

退院前に、診療報酬の請求担当者とは別の視点で診療情報管理の一貫としてのDPCコーディングの適正化を行っています。

◆がん登録業務◆

がん登録等の推進に関する法律、および院内がん登録の実施に係る指針に基づき、がん登録を実施しています。

実績

◆疾病統計◆

大分類	ICD	性別	2018年度	2019年度	2020年度
01:感染症及び寄生虫症	(A00-B99)	男	103	97	78
		女	97	99	53
02:新生物	(C00-D48)	男	990	903	950
		女	782	747	747
03:血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	(D50-D89)	男	10	23	9
		女	14	18	15
04:内分泌、栄養および代謝疾患	(E00-E90)	男	43	27	23
		女	36	26	20
05:精神および行動の障害	(F00-F99)	男	14	23	9
		女	12	21	30
06:神経系の疾患	(G00-G99)	男	190	159	152
		女	186	197	137
07:眼および付属器の疾患	(H00-H59)	男	238	168	100
		女	288	304	168
08:耳および乳様突起の疾患	(H60-H95)	男	14	29	15
		女	25	34	26
09:循環器系の疾患	(I00-I99)	男	261	335	322
		女	229	274	256
10:呼吸器系の疾患	(J00-J99)	男	182	261	139
		女	106	149	81
11:消化器系の疾患	(K00-K93)	男	456	520	506
		女	345	447	354
12:皮膚および皮下組織の疾患	(L00-L99)	男	27	25	24
		女	21	14	22
13:筋骨格系および結合組織の疾患	(M00-M99)	男	114	104	111
		女	183	164	203
14:腎尿路生殖器系の疾患	(N00-N99)	男	137	145	143
		女	126	139	118
15:妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	(O00-O99)	男	1	0	0
		女	40	22	20
16:周産期に発生した病態	(P00-P96)	男	7	4	6
		女	6	5	4
17:先天奇形、変形および染色体異常	(Q00-Q99)	男	4	2	2
		女	4	5	2
18:症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	(R00-R99)	男	62	54	39
		女	62	59	37
19:損傷、中毒およびその他の外因の影響	(S00-T98)	男	340	374	366
		女	530	520	520
20:傷病および死亡の外因	(V01-Y98)	男	0	0	0
		女	0	0	0
21:健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	(Z00-Z99)	男	15	7	8
		女	27	22	14
22:特殊目的用コード	(U00-U89)	男	1	0	10
		女	0	0	18
???.分類不明	※NEC	男	3	7	3
		女	6	5	9
合計		男	3,212	3,267	3,015
		女	3,125	3,271	2,854

※NEC:国際疾病分類"not elsewhere classified"の略で、他のいずれの項目にも分類されないもの

◆がん登録統計◆

診断年	男	女	計
2018年	388	324	712
2019年	330	289	619
2020年	341	270	611
合計	1,082	898	1,980

(太田 恭司)

MEMO

Section 4

研究実績

原著論文、総説、著書(英文)

2018(H30)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月
1	A new prognostic model for hepatocellular carcinoma recurrence after curative hepatectomy.	ONCOLOGY LETTERS	15	4	4411 - 4422
	Tokumitsu, Y; Sakamoto, K; Tokuhisa, Y; Matsui, H; Matsukuma, S; Maeda, Y; Sakata, K; Wada, H; Eguchi, H; Ogihara, H; Fujita, Y; Hamamoto, Y; Iizuka, N; Ueno, T; Nagano, H.		2018年4月		
2	Tumor Spread Through Air Spaces Identifies a Distinct Subgroup With Poor Prognosis in Surgically Resected Lung Pleomorphic Carcinoma.	CHEST	154	4	838 -847
	Yokoyama, S; Murakami, T; Tao, H; Onoda, H; Hara, A; Miyazaki, R; Furukawa, M; Hayashi, M; Inokawa, H; Okabe, K; Akagi, Y.		2018年10月		
3	Identification of curable high-risk prostate cancer using radical prostatectomy alone: who are the good candidates for undergoing radical prostatectomy among patients with high-risk prostate cancer?	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY	23		757-764
	Nagao, K; Matsuyama, H; Matsumoto, H; Nasu, T; Yamamoto, M; Kamiryo, Y; Baba, Y; Suga, A; Tei, Y; Yoshihiro, S; Aoki, A; Shimabukuro, T; Joko, K; Sakano, S; Takai, K; Yamaguchi, S; Akao, J; Kitahara, S.		2018年4月		
4	High-intensity breastfeeding improves insulin sensitivity during early post-partum period in obese women with gestational diabetes..	Diabetes/metabolism research and reviews	35	4	e3127
	Yasuhi, Ichiro; Yamashita, Hiroshi; Maeda, Kazuhisa; Nomiyama, Makoto; Mizunoe, Tomoya; Tada, Katsuhiko; Yorozu, Moe; Ogawa, Masanobu; Kodama, Takashi; Yamaguchi, Ken; Okura, Naofumi; Kawakami, Kosuke; Maekawa, Yuka; Hayashi, Kimikazu.		2019年		
5	Impaired consciousness through a focal lesion under the left posteromedial cortex.	CLINICAL NEUROPHYSIOLOGY	129	8	1658-1659
	Fujioka, H; Urasaki, E; Yamashita, K.		2018年5月		
6	A Case of Localized Pleural Amyloidosis Multimodality Imaging Features.	JOURNAL OF THORACIC IMAGING	33	6	W54-W56
	Kunihiro, Y; Onoda, H; Aoe, K; Furukawa, M; Okabe, K; Murakami, T; Hoshii, Y; Tanaka, N; Matsumoto, T.		2018年11月		
7	Clinical Importance of Epstein-Barr Virus-Associated Gastric Cancer.	CANCERS	10	6	167
	Nishikawa, J; Iizasa, H; Yoshiyama, H; Shimokuri, K; Kobayashi, Y; Sasaki, S; Nakamura, M; Yanai, H; Sakai, K; Suehiro, Y; Yamasaki, T; Sakaida, I.		2018年5月		
8	Efficacy of perioperative immunonutrition in esophageal cancer patients undergoing esophagectomy	NUTRITION	59		96-102
	Shinsuke Kanekiyo Ph.D.,Shigeru Takeda Ph.D.,Michihisa Iida Ph.D.,Mitsuo Nishiyama M.D.,Masahiro Kitahara Ph.D.,Yoshitaro Shindo Ph.D.,Yukio Tokumitsu Ph.D.,Shinobu Tomochika Ph.D.,Ryoichi Tsunedomi Ph.D.,Nobuaki Suzuki Ph.D.,Toshihiro Abe Ph.D.,Shigefumi Yoshino Ph.D.,Shoichi Hazama Prof.,Tomio Ueno Prof.,Hiroaki Nagano Prof.		2019年3月		

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月
9	Epstein-Barr virus detection using gastric biopsy specimens after rapid urease test for Helicobacter pylori.	Endoscopy International Open	7	4	E431–E432
	Hideo Yanai, Hisashi Iizasa, Daisuke Chihara, Tomoyuki Murakami, Jun Nishikawa and Hironori Yoshiyama.		2019年		
10	Gait oscillation analysis during gait and stair-sepping in elder patients with knee osteoarthritis.	Journal of Orthopaedic Surgery and Research	14	21	
	Takatomo Mine,Masaya Kajino,Jun Sato,Seiichi Ito,Koichiro Ihara,Hiroyuki Kawamura,Ryutaro Kuriyama,Yasuhiro Tominaga.		2019年1月		
11	Non-union after correction of femoral deformity combined with total knee arthroplasty	International Journal of Case Reports	4	58	
	Takatomo Mine, M.D., Ryutaro Kozuma, M.D., Koichiro Ihara, M.D., Hiroyuki Kawamura, M.D., Ryutaro Kuriyama, M.D., Yasunari Tominaga, M.D.		2019年		
12	Chondral Injury After Inside-Out Meniscal Suture Repair Using Meniscal Sutures	The Open Orthopaedics Journal	13		72-75
	Takatomo Mine*, Riri Hayashi, Koichiro Ihara, Hiroyuki Kawamura, Ryutaro Kuriyama and Yasuhiro Tominaga		2019年1月		

2019(R1)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月
1	A Case of Pulmonary Langerhans Cell Histiocytosis With Acute Progressive Nodular Lesions Depicted on High-Resolution Computed Tomography	Journal of Thoracic Imaging	34	6	W144-W146
	Kunihiro, Y., Hara, A., Ikeda, E., Nakada, N., Murakami, T., Hayashi, M., Okabe, K., Yujiri, T., Kamei, H., Tanaka, N., Onoda, H., Matsumoto, T. and Ito, K.		2019年11月		
2	An unusual case of A beta 2M amyloid deposition in bladder cancer in a non-dialysis patient	Pathology International	69	4	224-228
	Ishii, A., Tei, Y., Murakami, T. and Notohara, K.		2019年4月		
3	Clinicopathologic Characteristics of Epstein-Barr Virus-Associated Gastric Cancer Over the Past Decade in Japan	Microorganisms	7	9	9
	Yanagi, A., Nishikawa, J., Shimokuri, K., Shuto, T., Takagi, T., Takagi, F., Kobayashi, Y., Yamamoto, M., Miura, O., Yanai, H., Suehiro, Y., Yamasaki, T., Yoshiyama, H. and Sakaida, I.		2019年9月		
4	Combination of extracorporeally-irradiated autograft and vascularized bone graft for reconstruction of malignant musculoskeletal tumor	ANTICANCER RESEARCH	40	3	1637-1643
	Atsushi Mihara,Keiichi Muramatsu,Takashi Hashimoto,Ryuta Iwanaga,Koichiro Ihara,Takasi Sakai		2020年3月		
5	Combining phone and postcard brief contact interventions for preventing suicide reattempts: A quasi-randomized controlled trial	Psychiatry research	279	0	395ー396
	Matsubara, T., Matsuo, K., Matsuda, A., Ogino, Y., Hobara, T., Wakabayashi, Y., Kawano, M., Tsuruta, R., Watanabe, Y. and Nakagawa, S.		2019年9月		
6	Cryptococcosis as a cause of organizing pneumonia	Respiratory Medicine Case Reports	27		5
	Chikumoto, A., Oishi, K., Hamada, K., Matsuda, K., Uehara, S., Suetake, R., Yamaji, Y., Asami-Noyama, M., Edakuni, N., Hirano, T., Murakami, T. and Matsunaga, K.		2019年5月		
7	Epstein-Barr virus detection using gastric biopsy specimens after rapid urease test for Helicobacter pylori	Endoscopy International Open	7	4	E431-E432
	Yanai, H., Iizasa, H., Chihara, D., Murakami, T., Nishikawa, J. and Yoshiyama, H.		2019年4月		
8	Epstein-Barr Virus-associated Early Gastric Cancer Treated with Endoscopic Submucosal Dissection: A Possible Candidate for Extended Criteria of Endoscopic Submucosal Dissection	Internal Medicine	58	22	3247-3250
	Yanai, H., Chihara, D., Harano, M., Sakaguchi, E., Murakami, T. and Nishikawa, J.		2019年11月		
9	Estimation of salt intake from spot urine may assist the risk assessment of gastric cancer	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	66	1	74-77
	Goto, A., Nishikawa, J., Ito, S., Hideura, E., Shirasawa, T., Hamabe, K., Hashimoto, S., Okamoto, T., Yanai, H. and Sakaida, I.		2020年1月		
10	Factors associated with short-term changes in physical function after gastrointenstinal surgery:A preliminary study of the effect of exercise therapy	THE HIROSAKI MEDICAL JOURNAL	70	2-4	119-129
	Masaya Kajino,Eiki Tsushima,Hideaki Somura		2020年3月		

No.	タイトル	雑誌名	巻	号	ページ
	著者		年月		
11	High-intensity breastfeeding improves insulin sensitivity during early post-partum period in obese women with gestational diabetes	Diabetes-Metabolism Research and Reviews	35	4	7
	Yasuhi, I., Yamashita, H., Maeda, K., Nomiyama, M., Mizunoe, T., Tada, K., Yorozu, M., Ogawa, M., Kodama, T., Yamaguchi, K., Okura, N., Kawakami, K., Maekawa, Y. and Hayashi, K.		2019年5月		
12	Off-period status dystonicus in Parkinson's disease treated with deep brain stimulation: A case report	Neurology and Clinical Neuroscience	8	2	72-73
	Fujioka, H., Uozumi, T., Miyagi, Y. and Urasaki, E.		2020年3月		
13	Possibility of Meniscal Repair for Degenerative and Horizontal Tears	The Open Orthopaedics Journal	2019	13	260-265
	Takatomo Mine,Takaaki Ueda,Koichiro Ihara,Hiroyuki Kawamura,Ryutaro Kuriyama,Yasunari Tominaga		2019年12月		
14	Subchonrdal Insufficiency Fracture of the Femoral Head Complicated after Total Knee Arthroplasty	The Open Orthopaedics Journal	2019	13	255-259
	Atomu Suzuki,Takatomo Mine,Koichiro Ihara,Hiroyuki Kawamura,Ryutaro Kuriyama,Yasunari Tominaga		2019年12月		

2020(R2)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月
1	Combination of Single- and Paired-Pulse Somatosensory Evoked Potentials in Ischemic Monitoring: Preliminary Investigation in Carotid Endarterectomy	Cureus	12	12	10
	H. Fujioka; E. Urasaki; Y. Soejima; H. Harada; K. Yamashita		2020年12月		
2	Application of Biopsy Samples Used for Helicobacter pylori Urease Test to Predict Epstein-Barr Virus-Associated Cancer	Microorganisms	8	6	9
	A. V. Kartika; H. Iizasa; D. Ding; Y. Kanehiro; Y. Tajima; S. Kaji; H. Yanai; H. Yoshiyama		2020年6月		
3	Intraoperative bronchial blood flow evaluation using indocyanine green fluorescence for bronchoplasty: A case report	International Journal of Surgery Case Reports	80		4
	N. Kawamoto; R. Okita; M. Hayashi; R. Suetake; T. Murakami; H. Inokawa		2021年		
4	Juvenile Neuropsychiatric Systemic Lupus Erythematosus With Magnetic Resonance Imaging Findings Similar to Acute Necrotizing Encephalopathy	J Clin Rheumatol	Publish Ahead of Print		
	Y. Korenaga; H. Wakiguchi; T. Matsushige; H. Inoue; M. Mizutani; T. Furuta; M. Kawamura; T. Nakamura; F. Okazaki; H. Yasudo; T. Maki; S. Hasegawa		2021年		
5	Estimation of salt intake from spot urine may assist the risk assessment of gastric cancer	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	66	1	74ー77
	A. Goto; J. Nishikawa; S. Ito; E. Hideura; T. Shirasawa; K. Hamabe; S. Hashimoto; T. Okamoto; H. Yanai; I. Sakaida		2020年1月		
6	Multilocular thymic cyst in a patient with preclinical rheumatoid arthritis: A case report	International Journal of Surgery Case Reports	74		136ー139
	N. Kawamoto; R. Okita; H. Inokawa; T. Murakami; K. Okabe		2020年		
7	A multicenter, randomized, double-blind, controlled study to evaluate the efficacy and safety of dantrolene on ventricular arrhythmia as well as mortality and morbidity in patients with chronic heart failure (SHO-IN trial): rationale and design	Journal of Cardiology	75	4	454ー461
	S. Kobayashi; T. Wakeyama; S. Ono; Y. Ikeda; M. Omura; T. Oda; Y. Hisamatsu; K. Seki; A. Satoh; M. Hiromoto; S. Akashi; K. Uchida; M. Harada; Y. Furutani; Y. Nakamura; M. Kohno; S. Kawamura; M. Obayashi; H. Michishige; M. Yano		2020年4月		
8	Combination of Extracorporeally-irradiated Autograft and Vascularized Bone Graft for Reconstruction of Malignant Musculoskeletal Tumor	Anticancer Research	40	3	1637ー1643
	A. Mihara; K. Muramatsu; T. Hashimoto; R. Iwanaga; K. Ihara; T. Sakai		2020年3月		
9	Pathological Characteristics of a Patient with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome (SFTS) Infected with SFTS Virus through a Sick Cat's Bite	Viruses-Basel	13	2	10
	M. Tsuru; T. Suzuki; T. Murakami; K. Matsui; Y. Maeda; T. Yoshikawa; T. Kurosu; M. Shimojima; T. Shimada; H. Hasegawa; K. Maeda; S. Morikawa; M. Saijo		2021年2月		
10	Prognostic value of pre-treatment risk stratification and post-treatment neutrophil/lymphocyte ratio change for pembrolizumab in patients with advanced urothelial carcinoma	International Journal of Clinical Oncology	26	1	169ー177
	Y. Yamamoto; J. Yatsuda; M. Shimokawa; N. Fuji; A. Aoki; S. Sakano; M. Yamamoto; A. Suga; Y. Tei; S. Yoshihiro; S. Kitahara; K. Nagao; K. Takai; Y. Kamiryo; J. Akao; S. Yamaguchi; K. Oba; T. Shimabukuro; H. Matsumoto; T. Kamba; H. Matsuyama		2021年1月		

原著論文、総説、著書(和文)

2018(H30)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月	備考
1	後骨間神経麻痺を合併した肘部筋肉内脂肪腫の治療経験	日手会誌(J Jpn Soc Surg Hansd)	34	4	49-51	
	伊原 公一郎、栗山 龍太郎				2018年	
2	加齢黄斑変性症、糖尿病および緑内障患者の受診率と手帳持参率の比較	臨床眼科	72	6	817-826	
	小林　博				2018年6月	
3	「術前化学放射線療法後切除術を施行した後に急激な転帰を認めた直腸Neuroendocrine Carcinomaの1例」	癌と化学療法	45	13	2006-2008	
	藤村 秀明、古谷 圭、北原 正博、近藤 潤也、前田 祥成、長島 由紀子、矢原 昇、安部 俊弘、林 弘人				2018年12月	
4	セボフルラン吸入全身麻酔時の術中夢－覚醒直後のアンケートから－	日臨麻会誌	38	5	600-605	
	田和 聖子、内本 亮吾、藤田 文彦、北 仁志				2018年9月	
5	大腸低分化腺癌の1剖検例	山口県医学会誌	53		9-11	
	千原大典・柳井秀雄・中鉢龍徳・坂口栄樹・林弘人・村上知之				2019年3月	
6	ITB療法による認知機能障害の改善効果について：長期フォローアップ.	機能的脳神経外科	57		18-24	
	藤岡裕士, 浦崎永一郎, 宮城靖, 松尾秀徳, 山下勝弘.				2018年	
7	術後イレウスを契機に診断し得た上行結腸癌の小腸転移の1例	癌と化学療法	45	13	2261-2263	
	古谷 圭、北原 正博、近藤 潤也、前田 祥成、藤村 秀明、長島 由紀子、矢原 昇、安部 俊弘、林 弘人				2018年12月	
8	早期胃癌がみえる！見落とさない！胃内視鏡検査・診断に自信がつく本	_			201-202・228-231	
	柳井秀雄、西川潤、帆足誠司ほか				2018年10月	
9	胃癌病巣の局所所見と光線力学療法(Photodynamic therapy)の局所治療効果の関連	山口県医学会誌	53		22-24	
	柳井秀雄・中村弘毅・岡本健志・西川潤・坂井田功				2019年3月	
10	慢性腎臓病を有する肝細胞癌患者の死亡原因	山口県医学会誌	53		6-8	
	中鉢龍徳・柳井秀雄・坂口栄樹・千原大典・原野恵				2019年	
11	潰瘍病変の瘢痕化後に内視鏡的バルーン拡張術を要したカンジダ食道炎の一例	山口県医学会誌	53		15-17	
	樽本俊介・柳井秀雄・佐藤穣・村上知之				2019年3月	
12	初回生検で診断困難であった未分化型進行胃癌の3例	山口県医学会誌	53		18-21	
	藤本拓也・柳井秀雄・村上知之				2019年3月	
13	脳血管内治療実施医非常勤施設における頸部内頚動脈狭窄症に対する脳神経外科治療の現状	脳卒中の外科	46		280-284	
	泉原昭文、藤岡裕士、副島慶輝、山下勝弘、大下昇				2018年	
14	血液透析を行いつつ内視鏡的胃粘膜下層剥離術を施行し術後第10日に遅発性の後出血を生じた慢性腎疾患合併早期胃癌の1例	山口県医学会誌	53		12-14	
	鈴木俊幸・柳井秀雄・中鉢龍徳・坂口栄樹・鄭泰秀・村上知之				2019年3月	

2019(R1)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月	備考
1	後頭蓋窩末梢動脈に発生した破裂嚢状動脈瘤の外科治療	脳卒中の外科	47	5	343-348	
	山下 勝弘, 泉原 昭文, 副島 慶輝, 藤岡 裕士, 高松 聖史郎		2019年9月			
2	ラタノプロスト・チモロール配合剤の角膜上皮障害の頻度 ラタノプロスト単剤との比較	臨床眼科	73	9	1191-1196	
	小林 博, 杉本 琢二		2019年9月			
3	【消化管感染症のすべて】胃 ウイルス感染症 EBウイルス関連胃癌	消化器内視鏡	31	増刊	118-122	
	柳井 秀雄, 村上 知之, 西川 潤		2019年10月			
4	肘関節近傍広範囲骨欠損に対する二つ折り血管柄付き腓骨移植術による再建術の経験	日本マイクロサージャリー学会会誌	32	4	193-198	
	伊原 公一郎, 峯 孝友, 河村 洋行, 栗山 龍太郎, 富永 康弘, 村上 知之		2019年12月			
5	TKA術後疼痛に対するデュロキセチン内服効果の検討	日本人工関節学会誌	49		647-648	
	深澤 和憲, 上妻 隆太郎, 峯 孝友		2019年12月			
6	筋萎縮性側索硬化症患者のニードの把握 ALS機能評価スケールとバーセルインデックスを使用して	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌	15		162-165	
	黒田 佳奈子, 中川 香織, 中元 花菜, 田村 愛, 松浦 美帆子, 於久 美智恵		2020年1月			
7	地域支援病棟を退院した独居高齢者のIADLを意識した退院支援の効果 生活実態調査より	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌	15		158-161	
	梅本 萌子, 濱崎 睦美, 山縣 由美子, 三村 由佳, 中村 愛子, 岡 美樹		2020年1月			
8	泌尿器科術後患者に対する嗜好を取り入れた飲水指導効果	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌	15		154-157	
	礒部 美鈴, 松崎 愛, 平方 芙実, 橋田 英理子, 林 純子, 岡田 愛		2020年1月			
9	EBウイルス関連胃癌の内視鏡診断	消化器内視鏡	32		121-128	
	西川潤、柳井秀雄、野柳彩華、首藤拓也、五嶋敦史、橋本真一、岡本健志、小賀厚徳、伊藤浩史、坂井田功		2020年1月			
10	早期食道癌の内視鏡的切除により胃管による再建が可能となった食道表在癌の一手術例	山口県医学会誌	54		14-16	
	柳井秀雄、村上知之、林弘人		2020年3月			
11	出血を繰り返した腎癌胃転移の一例	山口県医学会誌	54		17-19	
	柳井秀雄、岡部宏樹、鄭泰秀、原野恵、坂口栄樹、村上知之		2020年3月			
12	胃癌手術後状態での総胆管結石の内視鏡的治療時に発見し、内視鏡的に切除した早期十二指腸癌の一例	山口県医学会誌	54		24-26	
	秀浦栄三郎、柳井秀雄、千原大典、原野恵、坂口栄樹、村上知之		2020年3月			
13	内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection,ESD)にて加療した食道癌術後胃管縫縮線上の早期胃管癌の1例	山口県医学会誌	54		8-10	
	柳井秀雄、辻村良賢、矢原昇、林弘人、村上知之、帆足誠司		2020年3月			
14	腐食性食道炎・胃炎による下部食道狭窄・幽門狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を行った一例	山口県医学会誌	54		11-13	
	柳井秀雄、宮﨑健、千原大典、若林祐介		2020年3月			
15	粘膜下腫瘍様の形態を呈した食道扁平上皮癌の一例	山口県医学会誌	54		27-30	
	柳井秀雄、水町宗治、岩崎圭三、坂口栄樹、林弘人、村上知之		2020年3月			
16	内視鏡的胃粘膜下層剥離術(ESD)にて切除した胃脂肪腫の一例	山口県医学会誌	54		20-23	
	柳井秀雄、長谷川翔一、千原大典、原野恵、坂口栄樹、村上知之、小畑伸一郎、松田彰史		2020年3月			

No.	タイトル 著者	雑誌名	巻	号	ページ 年月	備考
17	歯性感染症に由来する頚動脈鞘膿瘍から血栓性内頸静脈炎を生じた1例	日本口腔外科学会雑誌	65	6	406-411	
	立石善久、野町晃彦、板敷康隆、原慎吾、立本行宏		2019年6月			
18	妊娠糖尿病治療の施設間格差と児の出生体重	糖尿病と妊娠	19	2	S70-S72	
	山下洋、安日一郎、前田和寿、野見山亮、水之江知哉、多田克彦、吉田瑞穂、小川昌宣、兒玉尚志、山口建、川崎薫、大藏尚文、川上浩介、前川有香、林公一		2019年8月			
19	国立病院機構前方視的多施設共同コホート研究「日本人妊娠糖尿病既往女性の産褥5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子及び予防的因子の解明」	糖尿病と妊娠	19	2	S65-S66	
	安日一郎、山下洋、前田和寿、野見山亮、水之江知哉、多田克彦、吉田瑞穂、小川昌宣、兒玉尚志、山口建、川崎薫、大藏尚文、川上浩介、前川有香、林公一		2019年8月			
20	国立病院機構前方視的多施設共同コホート研究「日本人妊娠糖尿病既往女性の産褥5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子及び予防的因子の解明」	糖尿病と妊娠	19	2	S39-S40	
	安日一郎、山下洋、前田和寿、野見山亮、水之江知哉、多田克彦、小川昌宣、兒玉尚志、山口建、大藏尚文、川上浩介、前川有香、林公一		2019年8月			
21	消化管出血で発見された同時多発性胃GISTに対して腹腔鏡下胃局所切除を施行した1例	癌と化学療法	46	13	2380-2382	
	古谷圭、北原正博、近藤潤也、前田祥成、藁村秀明、長島由紀子、矢原昇、安部俊弘、林弘人		2019年12月			

2020(R2)年度

No.	タイトル / 著者	雑誌名	巻	号	ページ / 年月	備考
1	嚢状腹部大動脈瘤の成長過程における血流変化に関する流体力学解析	脈管学	61	2	3-10	
	村上雅憲、蒋飛、景山信保、陳献		2021年2月			
2	細径光ファイバーを用いた下肢静脈瘤血管内焼灼術における静脈穿刺方法の工夫	静脈学	32	1	1-3	
	村上雅憲		2021年1月			
3	関門医療センターにおける髄液シャント術を要した水頭症の変遷	山口医学	69	3	135-140	
	泉原昭文、山下勝弘		2020年9月			
4	EBウィルス関連胃癌の内視鏡診断と治療	日本消化器内視鏡学会雑誌	63	3	255-263	
	西川潤、柳井秀雄、坂井田功		2021年3月			
5	乳癌術後7年経過後，再建手術3年経過後に乳房内局所再発を来した1例	癌と化学療法	47	13	2403-2405	
	鍋屋まり、前田訓子、佐藤陽子、鈴木伸明、武田茂、山本達人、久保秀文、長島由紀子、山本茂、永野浩昭		2020年12月			
6	ESDが生検として有用であった早期胃胎児消化管類似癌の一例	医療	74	5	205-209	
	田中完治、柳井秀雄、矢原昇、千原大典、原野恵、坂口英樹、村上知之、松田彰史		2020年5月			
7	舌癌の大胸筋皮弁全壊死に対し局所陰圧閉鎖療法を用いた1例	Hosp.Dent(Tokyo)	30	2	93-97	
	立石善久、板敷康隆、原慎吾、立本行宏		2021年2月			
8	冠動脈ステント留置後、抗血小板薬継続下にて顎部郭清術を施行した上顎歯肉癌後発リンパ節転移の1例	Hosp.Dent(Tokyo)	30	2	99-105	
	立石善久、板敷康隆、原慎吾、立本行宏		2021年2月			
9	上部消化管超音波内視鏡診断	消化器内視鏡	32	4	552-568	
	柳井秀雄、千原大典、和泉屋勇太		2020年4月			
10	胃十二指腸動脈の破綻を伴い外科的止血術を要した十二指腸潰瘍の一例	山口県医学会雑誌	55		1-2	
	柳井秀雄、稲益良紀、村上知之、林弘人		2021年3月			
11	十二指腸潰瘍出血を契機に診断された胃型粘液形質の早期胃癌の一例	山口県医学会雑誌	55		3-4	
	柳井秀雄、藤谷晃亮、坂口栄樹、村上知之		2021年3月			
12	内視鏡的切除後に追加手術を要した未分化型混在胃癌の一例	山口県医学会雑誌	55		5-7	
	柳井秀雄、永瀬正樹、坂口栄樹、村上知之、帆足誠司		2021年3月			
13	内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic submucosal dissection, ESD）にて加療できた食道 Gastrointestinal stromal tumor（GIST）の1例	山口県医学会雑誌	55		8-11	
	柳井秀雄、千原大典、原野恵、坂口栄樹、村上知之、小畑伸一郎、本多飛将		2021年3月			
14	超音波内視鏡所見が特徴的であった大腸MALTリンパ腫の一例	山口県医学会雑誌	55		12-15	
	柳井秀雄、村上知之、小畑伸一郎		2021年3月			
15	内視鏡的食道粘膜下層剥離術(ESD)にて加療したバレット食道癌の一例	山口県医学会雑誌	55		16-19	
	柳井秀雄、原野恵、坂口栄樹、村上知之、村石純一		2021年3月			

国際学会発表

2018(H30)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	H30.5.7	第14回ヨーロッパマイクロサージャリー学会	Folded vascularized fibula for periarticular bone defect of the elbow:A case report	統括診療部長	伊原　公一郎
2	H30.11.24	The 26th World Congress on Controversies in Obstetrics,Gynecology & Infertility(COGI2018)	A Policy of Vaginal Delivery about Mode of Delivvery among HIV-positive Pregnnt Women in Japan	産婦人科医長	林　公一
3	H30.9.24	International Conference on Orthopedics and Advanced Care	「Gait oscillation during gait and stair stepping in patients after TKA」	整形外科医長	峯　孝友

2019(R1)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R1.9.13	第20回国際患肢温存学会(ISOLS2019)	Restoration of hip joint using vascularized and recycled hybrid bone graft after resection of acetabular bone tumor	統括診療部長	伊原　公一郎
2	R1.11.6	17th EUROPEAN AIDS CONFERENCE(第17回欧州エイズ会議)	Geopolitical assessment and relevance for acceptance of vaginal delivery in good controlled HIV-infected pregnant women in Japan	産婦人科医長	林　公一

国内学会発表

2018(H30)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	H30.6.23	第150回山口県整形外科医会	腫瘍用人工膝関節再置換術の治療経験	臨床研修医	朝倉　俊介
2	H30.6.28	第72回日本食道学会学術集会	多発食道表在癌に対して、鏡視下手術の後、放射線療法を施行し喉頭温存を行った1例	外科医長	安部　俊弘
3	H30.9.6	第93回中国四国外科学会総会・第23回中国四国内視鏡外科研究会	多数のリンパ節転移と濾胞性リンパ腫を合併した早期胃癌の一例	外科医長	安部　俊弘
4	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	栄養管理計画書から見た当院入院患者の低栄養の現状と問題点について	栄養士	石田　みどり
5	H30.7.15	第21回日本臨床脳神経外科学会	関門医療センターにおける髄液シャント術を要した水頭症の変遷	脳神経外科医長	泉原　昭文
6	H30.5.13	第72回NPO法人日本口腔外科学会学術集会	90歳以上の超高齢患者の当科における診療の現状	歯科口腔外科医師	板敷　康隆
7	H30.11.23	第28回日本乳癌検診学会学術総会	当院における男性乳癌と女性化乳房の比較検討	生理学主任	井上　歩
8	H30.11.9	第72回国立病院総合医学会	前立腺癌精査中に偶然発見された同時性両側乳癌の1症例	生理学主任	井上　歩
9	H30.7.1	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	大腿骨骨肉腫術後14年で高度の緩みをきたした症例に対する全大腿骨置換術の治療経験	統括診療部長	伊原　公一郎
10	H30.9.7	第29回日本末梢神経学会学術集会	多発性神経鞘腫の治療経験	統括診療部長	伊原　公一郎
11	H30.12.8	第16回国立病院看護研究学会学術集会	地域包括支援病棟における自宅退院に影響を及ぼす要因	看護師	岩崎　光希
12	H30.11.9	第72回国立病院総合医学会	終末期における患者－家族関係の変化と心理的支援について	心理療法士	臼井　麻子
13	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	医療被ばく低減施設更新及び被ばく線量計算シート作成	診療放射線技師	大場　湧貴
14	H30.5.25	第32回日本腹部放射線学会	「腸重積、卵巣転移を呈した空腸癌の1例」	臨床研修医	岡　大雅
15	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	橈骨遠位端骨折術後セラピィのプロトコル導入と治療実績	作業療法士	笠原　誠介
16	H30.6.14	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	「人工膝関節全置換術施行例における歩行動揺の経時的変化」	理学療法主任	楫野　允也
17	H30.6.23	第150回山口県整形外科医会	当科で経験した骨脆弱性骨盤輪骨折	整形外科医長	栗山　龍太郎
18	H30.4.8	第18回西中国外傷治療研究会・第9回WCT骨接合ベーシック研修会	「開放損傷に対するNPWT」	整形外科医長	栗山　龍太郎
19	H30.5.12	第1回重度四肢開放骨折中四国peer review meeting	「下腿開放骨折GustiloⅢb」	整形外科医長	栗山　龍太郎
20	H30.7.6	第44回日本骨折治療学会	「下腿開放骨折Gustilo分類Type3Bの治療経験と問題点」	整形外科医長	栗山　龍太郎
21	H31.2.2	第8回厳流整形外科フォーラム	腫瘍用人工関節による再建を行った右再発性大腿骨腫瘍の治療経験.	臨床研修医	黒石　聖
22	H30.6.29	第19回九州高気圧環境学会	「リストバンドチェッカーを用いた安全環境作りの取り組み」	臨床工学技士	黒田　聡
23	H30.5.25	第59回日本神経学会学術大会	「Trousseau症候群 13例の治療検討」	臨床研修医	上妻　隆太郎
24	H31.1.12	第34回山陽骨・軟部腫瘍研究会	多発病巣を伴う胸壁巨大軟部腫瘍.	臨床研修医	上妻　隆太郎
25	H30.12.8	第16回国立病院看護研究学会学術集会	外科病棟における抑制実施減少へ向けた関わり～パーソン・センタード・ケアの実践および看護師の意識の変化に着目して～	看護師	小林　啓子

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
26	H30.4.20	第122回日本眼科学会総会	網膜静脈閉塞患者の脱落率と手帳の持参率：加齢黄斑変性、緑内障患者との比較	眼科医長	小林　博
27	H30.10.11	第72回日本臨床眼科学会	ラタノプロスト・チモロール配合剤の角膜上皮障害：単剤との比較	眼科医長	小林　博
28	H30.6.29	第72回日本食道学会学術集会	「食道癌化学療法中に十二指腸狭窄を来し十二指腸ステントを留置した一例」	外科医師	近藤　潤也
29	H30.12.6	第31回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下尿膜管摘出術10例の検討	外科医師	近藤　潤也
30	H30.9.29	第20回中国四国脳卒中研究会	ダビガトラン服用中に脳塞栓再発し転倒、脳挫傷を生じイダルシズマブを投与した1例	神経内科医師	佐野　宏徳
31	H30.11.7	山口県MG forum	定期的なIVIg療法を要する抗AchR抗体陽性重症筋無力症の28歳女性例	神経内科医師	佐野　宏徳
32	H30.6.23	第104回日本神経学会中国・四国地方会	黄色ブドウ球菌による髄膜炎と心内膜炎で、脳梁膨大部病変と脳塞栓症を伴った25歳女性例	神経内科医師	佐野　宏徳
33	H30.9.8	第14回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	地域支援病棟を退院した独居高齢者の生活実態調査－退院2週間後の電話調査を行って－	看護師	塩田　晴美
34	H30.5.27	第66回山口県医学検査学会	術肘迅速病理診断時における凍結法の検討	臨床検査技士	鈴木　佑也
35	H30.9.29	第21回山口救急初療研究会	熱中症様症状で搬送された重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の一例	臨床研修医	瀬戸　啓介
36	H30.6.15	第40回日本癌局所療法研究会	術前化学放射線療法後切除術を施行した後に急激な転機を認めた直腸NECの1例	外科医師	藤村　秀明
37	H30.12.1	第110回日本消化器病学会中国四国支部例会・第121回日本消化器内視鏡学会中国四国支部例会	術前診断が困難でありESDを行った早期胃胎児消化管消化管類似癌の一例	臨床研修医	田中　完治
38	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	救命救急センターにおける身体抑制カンファレンスの実施効果～身体抑制の時間短縮に向けた関わり～	看護師	田邊　文香
39	H30.11.1	日本臨床麻酔学会第38回大会	手術室クリーンルームにおける磁界変化	麻酔科医長	田和　聖子
40	H30.10.6	重症患者栄養管理フォーラム	当院ICUにおいて消化態栄養剤が有効であった1例	主任栄養士	父川　拓朗
41	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	効果的な口腔ケアへの取り組み－はちみつと白ごま油の比較検討－	看護師	坪根　美紀
42	H30.5.31	第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会合同学会	ネコ咬傷により重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を発症したと考えられる1例	糖尿病・血液内科医長	鶴　政俊
43	H30.12.1	第105回日本泌尿器科学会山口地方会	ペムブロリズマブ投与により乾癬が増悪した1例	泌尿器科医長	鄭　泰秀
44	H30.6.23	第150回山口県整形外科医会	手指骨折後の回旋変形治癒に対して矯正骨切り術を行った2例	整形外科医師	富永　康弘
45	H30.7.12	第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会	「筋肉内結節性筋膜炎2例の治療経験」	整形外科医師	富永　康弘
46	H31.2.9	第151回山口県整形外科医会	逆行性広背筋皮弁による皮膚・軟部組織欠損の治療経験	整形外科医師	富永　康弘
47	H31.2.9	第20回山口ニューロサージカルカンファレンス	単心房・単心室に合併した脳膿瘍の1治験例	臨床研修医	鳥居　里奈
48	H30.5.17	第26回日本乳癌学会学術総会	週単位で急速増大し、切除後3ヶ月で局所再発をきたした乳腺間質肉腫の1例	外科医長	長島　由紀子

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
49	H30.8.31	第15回日本乳癌学会中国四国地方会	当院におけるパルボシクリブの使用経験およびチーム医療による安全な治療継続の工夫	外科医長	長島　由紀子
50	H30.11.24	第80回日本臨床外科学会総会	画像および針生検で術前に乳癌を強く疑った乳管内乳頭腫の1例	外科医長	長島　由紀子
51	H30.6.30	固定チームナーシング研究集会第10回中国四国地方会	「内服自己管理を目指した関わり～内服管理の段階に応じた介入支援方法の検討～」	看護師	中村　結希
52	H30.6.3	第104回日本泌尿器科学会山口地方会	膀胱nephrogenic adenomaの1例	泌尿器科医師	西嶋　淳
53	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	手術を受ける患者へのアロマセラピーの実施－睡眠への効果と気分変化の検証	看護師	濱田　可菜美
54	H30.5.10	第70回日本産婦人科学会学術総会	本邦におけるHIV感染妊婦の経膣的分娩受け入れ対応について－国内分娩施設における経膣分娩受け入れ可否の現状調査－	産婦人科医長	林　公一
55	H30.6.17	平成30年度山口地方部会	本邦におけるHIV感染妊婦の経膣的分娩について	産婦人科医長	林　公一
56	H30.9.23	第71回中国四国産婦人科学会総会ならびに学術講演会	本邦のHIV感染妊婦における経膣分娩対応について－HIV感染妊婦に関する診療ガイドラインの刊行にあたって－	産婦人科医長	林　公一
57	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	「HIV感染妊婦に関する診療ガイドライン」の刊行にあたり、HIV感染妊婦の経膣分娩受け入れ可能な周産期施設の現状について	産婦人科医長	林　公一
58	H30.9.1	第56回中国四国地区国立病院薬学研究会	緩和ケアに関する現状と薬剤師の貢献度調査報告	調剤主任	林　俊吾
59	H30.6.3	第117回日本皮膚科学会総会	医療紛争事例から学ぶ医療安全	院長	林　弘人
60	H30.10.20	感染ネットワーク下関 第4回学術集会	国立病院機構における院内感染対策への取り組みとサーベイランス報告	臨床検査技師長	福岡　義久
61	H30.8.25	第26回九州山口機能神経外科セミナー	Dystonic tremorに対するGpi-DBSの治療効果について	臨床検査技師長	藤岡　裕士
62	H30.10.11	日本脳神経外科学会第77回学術総会	ITB療法の意識障害および認知機能障害に対する潜在的改善効果	脳神経外科医師	藤岡　裕士
63	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	医療費後払いサービス導入に係る利用分析及び実績報告	一般職員	藤田　恵美
64	H30.5.16	第26回日本乳癌学会学術総会	同時性両側男性乳癌と前立腺癌の重複癌の1例	外科医師	古谷　圭
65	H30.11.23	第80回日本臨床外科学会総会	乳腺神経内分泌癌(NEC)の1例	外科医師	古谷　圭
66	H30.6.15	第40回癌局所療法研究会	術後イレウスを契機に診断された上行結腸癌小腸転移の1例	外科医師	古谷　圭
67	H30.6.3	第77回山口県臨床外科学会	青年期に診断し得た腸回転異常症の1手術例	外科医師	古谷　圭
68	H30.5.12	第34回日本救急医学会中国四国地方会	当院における肺塞栓治療について～薬剤師の立場から～	薬剤師	槇山　翔太
69	H30.4.24	山口県インスリン療法研究会	当院のおけるインスリン持続皮下注入療法(CSII)の検討	糖尿病・血液内科医師	松井　久未子
70	H30.10.26	第56回日本糖尿病学会中国四国地方会	3ヶ月インスリン治療を自己中断するもケトアシドーシスを来さなかった劇症1型糖尿病症例	糖尿病・血液内科医師	松井　久未子
71	H30.11.9	第72回国立病院総合医学会	ラビング法導入による手術室看護師の手荒れ軽減に向けての取り組み	看護師	三浦　真美
72	H30.11.30	第53回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会	関門医療センターの高気圧酸素治療室における危機管理の変移	臨床工学技士長	三代　英紀

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
73	H30.5.23	第91回日本整形外科学会	「人工膝関節置換術における脛骨後傾角度とkinematicsの関連－コンピュータシミュレーションを用いた2機種の検討－」	整形外科医長	峯　孝友
74	H30.11.11	JSS中国 第26回JSS四国第33回地方か学術集会	乳癌を疑う超音波像を呈し、診断に苦慮した乳管内乳頭腫の一例	臨床検査技士	宮本　友美
75	H30.11.24	平成30年度日本臨床衛生検査技師会中国四国医学検査学会	国立病院機構中国四国ブロック内研修から学ぶ人材育成の『仕組み』	臨床検査技士	宮本　友美
76	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	訪問看護開設2年目　現状と今後の課題	看護師長	三輪　美智子
77	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	地域包括ケア病棟への円滑な転棟について ～使ってなんぼ！地域包括ケア病棟への大移動計画！～	一般職員	村上　淳
78	H30.11.10	第72回国立病院総合医学会	当院における抗菌薬適正支援業務の取り組み	薬剤師	柳井　翔太
79	H30.4.20	第104回日本消化器病学会総会	化学療法長期生存例を含むEBウイルス関連胃癌の経験	臨床研究部長	柳井　秀雄
80	H30.5.11	第95回日本消化器内視鏡学会総会	早期胃癌ESDの結果の予測における術前EUSの意義	臨床研究部長	柳井　秀雄
81	H30.6.30	第24回日本ヘリコバクター学会学術集会	ピロリ菌胃炎胃粘膜からのEBウイルス検出の試み	臨床研究部長	柳井　秀雄
82	H30.11.2	第60回日本消化器病学会	EBウイルス関連胃癌診断の契機	臨床研究部長	柳井　秀雄
83	H30.7.14	第15回EBウイルス研究会	EBウイルス関連胃癌の臨床診断	臨床研究部長	柳井　秀雄
84	H30.9.8	第1回日本緩和医療学会中国四国支部学術大会	国立病院機構における緩和ケアに関する現状と薬剤師の活動	製剤主任	山﨑　富士子
85	H30.11.24	第28回日本医療薬学会年会	当院でのパルボシクリブの使用実態と副作用の発現における薬剤師の関わり	製剤主任	山﨑　富士子
86	H30.10.10	日本脳神経外科学会第77回学術総会	1.5tesla MRIとCTによる3次元融合画像を利用した微小血管減圧術	脳神経外科医長	山下　勝弘
87	H30.11.9	第72回国立病院総合医学会	TCRを使用した口腔内環境の改善への取組 －プロトコール使用し口腔ケアの統一を図る－	看護師	山下　実代
88	H30.10.27	日本医療マネジメント学会第17回山口県支部学術集会	A病棟における転倒要因と対策の検討－転倒患者インシデントレポートの分析から－	看護師	山富　早姫
89	H30.9.1	第56回中国四国地区国立病院薬学研究会	当院におけるAST活動報告	薬剤師	吉藤　直久
90	H30.11.17	第88回日本感染症学会西日本地方回学術集会・第61回日本感染症学会中日本地方回学術集会・第66回日本化学療法学会西日本支部総会	当院におけるバンコマイシン処方解析における解析ソフトの選択 ～第2報～	薬剤師	吉藤　直久
91	H30.12.6	第45回日本マイクロサージャリー学会	肘関節近傍広範囲骨欠損に対する二つ折り腓骨による再建術の経験	統括診療部長	伊原　公一郎
92	H31.3.8	第31回関西関節鏡・膝研究会	人工膝関節置換術後の歩行時体幹動揺の機種別比較	理学療法士	伊藤　成一
93	H30.10.12	第32回中国四国IVR研究会	「直腸静脈瘤に対しCTガイド下に直接穿刺し、硬化療法を施行した1例」	臨床研修医	岡　大雅
94	H30.11.25	第30回山口県作業療法学会	「ZoneⅡ手指屈筋腱損傷の治療経験」	作業療法士	笠原　誠介
95	H30.10.21	第34回山口県リハビリテーション研究会	「肩腱板断裂後療法における疼痛の一考察」	作業療法士	笠原　誠介

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
96	H31.1.25	第36回中部日本手外科研究会	手指屈筋腱損傷術後セラピィの治療経験	作業療法士	笠原　誠介
97	H30.12.7	日本医療マネジメント学会第17回九州・山口連合大会	救命救急センター病棟における急変時対応能力の向上を目指して	看護師	岸本　友希
98	H30.9.6	第93回中国四国外科学会総会・第23回中国四国内視鏡外科研究会	「食道胃接合部に生じた巨大平滑筋腫の一例」	外科医師	近藤　潤也
99	H30.11.24	第80回日本臨床外科学会総会	「高度局所進行虫垂癌に対し、多臓器合併切除にて根治切除を行った一例」	外科医師	近藤　潤也
100	H30.12.7	第31回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下尿膜間摘出術10例の検討	外科医師	近藤　潤也
101	H31.2.28	第91回日本胃がん学会総会	A Case of Continuing Chemotherapy for Recurrent Gastric Cancer with Obstructive Jaundice	外科医師	近藤　潤也
102	H30.10.27	第20回日本骨粗鬆症学会	「当科における骨脆弱性骨盤輪骨折の治療経験」	整形外科医長	栗山　龍太郎
103	H30.12.8	第16回国立病院看護研究学会学術集会	急性期病院における認知症ケアに関する看護師のアンケート調査と行動変容の検討	看護師	原田　聖三
104	H30.10.27	日本医療マネジメント学会第17回山口県支部学術集会	「整形外科病棟における回診時手指衛生の現状」	看護師	高島　涼加
105	H30.9.16	第15回中国地区消化器内視鏡技師研究会	「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を受ける患者への継続看護の取り組み」	看護師	三浦　治代
106	H31.3.23	第48回日本脳卒中の外科学会	頚動脈血栓内膜剥離術における脳虚血合併症の回避について	脳神経外科医長	山下　勝弘
107	H31.2.3	第42回日本眼科手術学会学術総会	Nd:YAGレーザー虹彩切開術の止血での熱レーザーの使用	眼科医長	小林　博
108	H30.9.7	第29回日本末梢神経学会学術集会	「腕神経叢節前損傷に対する神経移行術および広背筋移行術による肩・肘機能再建の経験」	臨床研修医	上妻　隆太郎
109	H30.11.25	第51回中国・四国整形外科学会	「腫瘍用人工膝関節再置換術の治療経験」	臨床研修医	上妻　隆太郎
110	H30.12.1	第29回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	急性腸腰筋炎後に多関節炎の増悪を認めた関節リウマチ症例	臨床研修医	上妻　隆太郎
111	H30.8.24	日本核医学会PET核医学分科会 PETサマーセミナー2018in山口湯田温泉	「症例検討会：白狐といっしょに探し出すPET画像の深層（回答者）」	放射線科医師	上田　高顕
112	H30.12.15	第49回山口県放射線科医会	REBOAを併用し、塞栓術を行った転落外傷の1例	放射線科医師	上田　高顕
113	H31.2.16	第49回日本人工関節学会	TKA術後疼痛に対するデュロキセチン内服の効果の検討	臨床研修医	深澤　和憲
114	H31.2.15	第18回日本病院総合診療医学会学術総会	熱中症様症状で搬送された重傷熱性血小板減少症候群（SFTS）の一例	臨床研修医	瀬戸　啓介
115	H30.11.23	第80回日本臨床外科学会総会	「腸重積で発見された小腸癌の1切除例」	外科医師	前田　祥成
116	H30.9.30	第30回国立病院療養所中国地区放射線技師会総会および第9回総合学術大会	「推定被ばく線量計算シートの作成について」	診療放射線技師	池田　和弥
117	H30.10.17	第45回日本臨床バイオメカニクス学会	「人工膝関節置換術後患者の歩行時体幹動揺は健常者と異なるか」	理学療法士	福田　有希
118	H31.3.8	第31回関西関節鏡・膝研究会	人工膝関節置換術後の歩行時体幹動揺における継時的変化	理学療法士	福田　有希
119	H31.3.1	第91回日本胃癌学会総会	Clinical findings of Epstein-Barr virus-associated Gastric cancer	臨床研究部長	柳井　秀雄

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
120	H30.11.22	第80回日本臨床外科学会総会	「3D-CTと胸腔鏡が診断、治療に有用であったガラス外傷の1手術例」	臨床研修医	鈴木　有十夢
121	H31.2.16	第18回日本病院総合診療医学会学術総会	診断に苦慮したACTH単独欠損症の1例	臨床研修医	鈴木　有十夢
122	H30.10.17	第45回日本臨床バイオメカニクス学会	「人工膝関節置換術後患者の平地および階段昇降における体幹側方動揺の継時的変化」	理学療法主任	楫野　允也
123	H30.12.15	第6回日本運動器理学療法学会	人工膝関節全置換術後患者における体幹動揺に着目した歩行解析の継時的変化	理学療法主任	楫野　允也
124	H30.10.6	中部日本整形外科災害外科学会第131回学術集会	「人工膝関節置換術後の伸展機構障害」	臨床研修医	髙尾　瑞季

2019(R1)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R1.6.5	2019年度日本食道学会教育セミナー／第73回日本食道学会学術集会	歯肉転移を伴ったバレット食道癌の1例	外科医長	安部　俊弘
2	R1.11.16	日本医療マネジメント学会第18回山口支部学術集会	ウォーキングカンファレンス導入の取り組み～統一した退院支援・退院調整を目指して～	看護師	岡村　志穂
3	R1.9.6	第53回日本作業療法学会	肩腱板断裂修復術後のリハビリテーション治療成績について	作業療法士	笠原　誠介
4	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	肩腱板断裂術後の夜間疼痛対応に難渋した一例	作業療法士	笠原　誠介
5	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	Dupuytren拘縮に対するコラゲナーゼ注射療法施行後の短期的セラピィの治療経験	作業療法士	笠原　誠介
6	R1.11.16	第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	結滞動作獲得に難渋した一例	作業療法士	笠原　誠介
7	R2.2.1	第37回中部日本手外科研究会・第7回中部日本ハンドセラピィ研究会	手指骨腫瘍切除後のセラピイ経験	作業療法士	笠原　誠介
8	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	ME室における中央管理機器台帳の再構築	臨床工学技士	宮田　香菜子
9	R1.7.19	第74回日本消化器外科学会総会inTOKYO	当院における局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法の治療成績	外科医長	近藤　潤也
10	R1.9.19	第94回中国四国外科学会総会・第24回中国四国内視鏡外科研究会	術後 6 年目にメッシュによる消化管穿通を生じた腹壁瘢痕ヘルニアの 1 例	外科医長	近藤　潤也
11	R1.11.16	第81回日本臨床外科学会総会	交通外傷を契機に発症した縦隔膿瘍の1例	外科医長	近藤　潤也
12	R1.12.6	第32回日本内視鏡外科学会総会	TEP法にて修復した大腿ヘルニア嵌頓の2例	外科医長	近藤　潤也
13	R1.10.11	第21回日本骨粗鬆症学会	大腿骨近位部骨折後に生じた対側大腿骨近位部骨折の検討	整形外科医長	栗山　龍太郎
14	R2.2.23	第22回西中国外傷治療研究会・第13回WCT骨接合ベーシック研修会	足関節脱臼骨折の1例	整形外科医長	栗山　龍太郎
15	R1.6.8	第60回日本臨床細胞学会春期大会	EUS-FNAにて良悪鑑別、原発推定に苦慮した淡明細胞型腎細胞癌膵転移の1例	血清主任	見國　真樹
16	R2.2.15	第35回日本環境感染学会総会・学術集会	A市9施設における感染防止対策に係る職員研修の実態	副看護師長	高山　佳代子
17	R1.9.7	第15回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	筋萎縮性側索硬化症患者のニードの把握～ALS機能評価とバーセイルインデックスを使用して～	看護師	黒田　佳奈子
18	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	透析センターにおける災害備蓄の再検討	臨床工学技士	黒田　聡
19	R1.11.16	第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	上腕骨近位端骨折術後における等尺性収縮を用いた腱板運動を試みた一例	作業療法士	佐藤　晟也
20	R1.11.16	日本医療マネジメント学会第18回山口支部学術集会	統一したスキンテア予防の効果－保湿剤塗布による皮膚水分量の変化－	看護師	三好　真美
21	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	頚動脈血栓内膜剥離術における脳虚血合併症の回避について	脳神経外科医長	山下　勝弘
22	R1.7.6	第20回九州高気圧環境医学会	関門医療センターにおける治療前訪問の現状報告	臨床工学技士	山田　祥平
23	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	消耗品管理に於ける問題点の改善方法	臨床工学技士	山田　祥平
24	R1.12.14	第17回国立病院看護研究学会学術集会	術後高齢患者へのパーソン・センタード・ケアの実践による抑制使用減少と看護師の意識変化	看護師	山本　まりこ
25	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	断らない病院、救急断診数ゼロへの取り組み	経営企画係長	寺坂　悠

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
26	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	Churg-Strauss syndromeに合併した大動脈解離の剖検例	臨床研修医	酒井　豊吾
27	H31.4.18	第123回日本眼科学会総会	抗緑内障点眼薬を投与される角膜上皮障害合併緑内障患者におけるジクアホソルの効果	眼科医長	小林　博
28	R2.1.26	第43回日本眼科手術学会学術総会	YAGレーザー虹彩切開術での上方と下方施行例のレーザーエネルギーと出血頻度	眼科医長	小林　博
29	R1.9.28	国立病院療養所中国四国地区放射線技師合同学術大会	TBT法を用いた肺動静脈1相撮影の検討	診療放射線技師	松田　智恵
30	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	大腿骨全長撮影における補助具作成	診療放射線技師	上杉　尚行
31	R1.11.16	日本医療マネジメント学会第18回山口支部学術集会	気管内挿管患者のマスク装着による口腔保湿の効果	看護師	植田　智美
32	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	当院における簡易検査と終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)の比較検討について	病理主任	森山　祐一
33	R1.6.29	第152回山口県整形外科医会	骨盤臼蓋にskip lesionを伴う大腿骨近位部軟骨肉腫の治療経験	臨床研修医	深澤　和憲
34	R1.6.7	第6回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 中国・四国支部学術集会	当院における呼吸サポートチーム(RST)の活動について	理学療法士	西川　準
35	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	消化器外科手術における看護師の滅菌手袋交換の行動変容	看護師	青木　理加
36	R1.11.15	第81回日本臨床外科学会総会	Invasive micropapillary carcinoma成分を伴った上行結腸癌の1切除例	外科医長	前田　祥成
37	R1.10.11	第60回日本脈管学会総会	嚢状腹部大動脈瘤の成長過程に対する流体力学解析	心臓血管外科医長	村上　雅憲
38	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	下関二次医療圏と県内施設における当院の診療実績ベンチマーク分析	診療情報管理士	太田　恭司
39	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	地域包括ケア病棟の運用改善への取り組み	診療情報管理士	太田　恭司
40	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	当院における内服抗悪性腫瘍薬の安全管理への取り組み	薬剤師	猪熊　知代
41	R1.7.13	第27回日本乳癌学会学術総会	チーム医療によるパルボシクリブの安全な治療継続の工夫	外科医長	長島　由紀子
42	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	当院の早期離床・リハビリテーション加算の実績と課題	理学療法士	田中　秀樹
43	R1.9.6	日本麻酔科学会 中国・四国支部第56回学術集会	プロポフォールで麻酔導入した大豆アレルギー患者の1症例	麻酔科医長	田和　聖子
44	R1.11.8	日本臨床麻酔学会第39回大会 学術集会・総会	レミフェンタニル単剤による経時的自覚症状とその後ミダゾラム、ロクロニウム併用による全身麻酔導入	麻酔科医長	田和　聖子
45	R1.8.31	第16回中国四国国立病院管理栄養士協議会研究発表会in岡山2019	ザルの衛生管理における取り組み	栄養士	東　なつみ
46	R1.9.7	第15回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	地域支援病棟を退院した独居高齢者のIADLを意識した退院支援の効果～生活実態調査より～	看護師	梅本　萌子
47	R1.6.12	第11回日本膝関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	人工膝関節置換術後歩行時体幹側方動揺の経時的変化	作業療法士	半田　麻美
48	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	多発性骨髄腫に続発したAKタンパクによる舌アミロイドーシスの1例	歯科口腔外科医師	板敷　康隆
49	R1.9.7	第57回中国四国地区国立病院薬学研究会	当院における内服抗悪性腫瘍薬の取り扱いの改善について	薬剤師	百濟　優花
50	R1.6.1	第137回西日本整形・災害外科学会学術集会	逆行性広背筋皮弁による皮膚・軟部組織欠損の治療経験	整形外科医師	富永　康弘
51	R1.7.12	第52回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会	胸壁に生じた巨大な筋肉内血管腫の1例	整形外科医師	富永　康弘

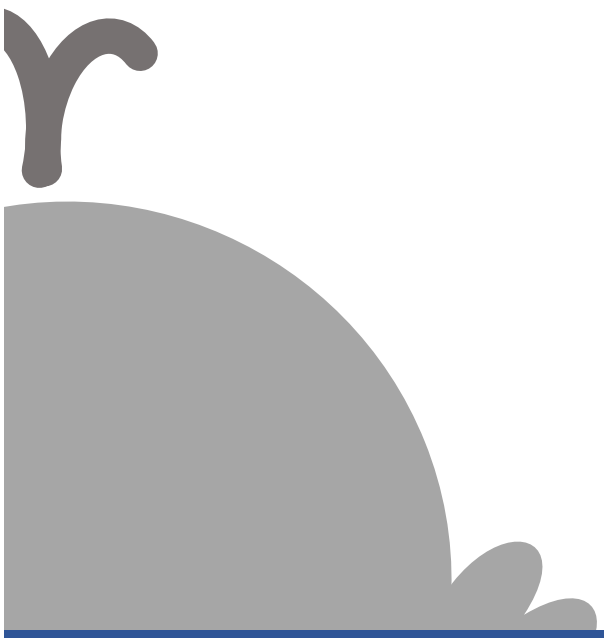
No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
52	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	当院における脳血管疾患患者に対する「自動車運転再開マニュアル」の試作	作業療法士	福原　淳史
53	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	当院における人工膝関節置換術リハビリパスの作成前後における歩行自立期間の評価	理学療法士	福田　有希
54	R2.2.22	第50回日本人工関節学会	人工膝関節置換術後の歩行時体幹動揺の変化および機種別比較	理学療法士	福田　有希
55	R1.5.17	第35回日本救急医学会中国四国地方会	初療室看護師による救急搬送された患者の家族への初回接触を妨げる要因	看護師	福留　沙紀子
56	R1.6.12	第11回日本膝関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	Possibility of Meniscal Repair for Degenerative and Horizontal Tears	整形外科医長	峯　孝友
57	R1.6.6	第73回日本食道学会学術集会	当院における超高齢者食道癌治療の現状	外科医師	北原　正博
58	R1.9.20	第94回中国四国外科学会総会・第24回中国四国内視鏡外科研究会	ニボルマブ投与後に再発巣切除を施行した再発胃癌の一例	外科医師	北原　正博
59	R1.11.15	第81回日本臨床外科学会総会	食道癌術後早期内視鏡評価にて胃粘膜血流障害の経時的変化を観察し縫合不全を回避し得た1例	外科医師	北原　正博
60	R1.11.14	第81回日本臨床外科学会総会	背部痛と高アミラーゼ血症を契機に発見されたindeterminate mucin-producing cystic neoplasmの一例	外科医長	矢原　昇
61	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	Head injury with cervical vascular complication in two young patients	臨床研修医	矢内　正恒
62	R1.7.19	第16回EBウイルス研究会	EBウイルス関連胃癌病変診断の現状	臨床研究部長	柳井　秀雄
63	R1.9.26	第78回日本癌学会学術総会	EBウイルス関連胃癌診断の内視鏡的および組織学的契機	臨床研究部長	柳井　秀雄
64	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	直腸カルチノイド腫瘍に対する内視鏡的切除の経験	臨床研究部長	柳井　秀雄
65	R1.11.22	第98回日本消化器内視鏡学会総会	早期胃癌ESD術前のEUSによるcT1aの判定	臨床研究部長	柳井　秀雄
66	R1.5.26	第94回山口県臨床細胞学会総会・学術集会	胸水中に出現した混合型大細胞神経内分泌癌(Combined large cell neuroendocrine carcinoma)の1例	臨床検査技士	鈴木　佑也
67	R1.8.31	第7回国立病院臨床検査技師協会 中国四国支部学会	診断に苦慮した淡明細胞型腎細胞癌膵転移の1例	臨床検査技士	鈴木　佑也
68	R1.11.9	第73回国立病院総合医学会	胸水中に出現した混合型大細胞神経内分泌癌の1例	臨床検査技士	鈴木　佑也
69	R1.6.13	第11回日本膝関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	人工膝関節置換術後に発表した大腿骨頭軟骨下骨折	臨床研修医	鈴木　有十夢
70	R1.7.17	第74回日本消化器外科学会総会inTOKYO	術後4年目に内腸骨静脈内転移を来した直腸癌の1例	臨床研修医	鈴木　有十夢
71	R1.11.30	第112回日本消化器病学会中国支部例会・第123回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	ESDが診断に有用であった、neuroendocrine carcinoma(NEC)と通常の分化型腺癌からなる胃Mixed neuroendocrine non-neuroendocrine neoplasm(MiNEN)の一例	消化器内科医師	和泉屋　勇太
72	R1.6.12	第11回日本膝関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	人工膝関節置換術前後の歩行における体幹動揺と下肢筋力の関連	理学療法主任	楫野　允也
73	R1.10.6	第7回日本運動器理学療法学術大会	人工膝関節置換術後における歩行時体幹動揺と身体機能の関連	理学療法主任	楫野　允也

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
74	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	消化器外科術後患者における術後QOLに影響する術前要因および身体機能、運動量の関連	理学療法主任	楫野　允也
75	R1.11.8	第73回国立病院総合医学会	音韻認識に着目したアプローチにより失構音が改善した一例	言語聴覚士	渕川　朋代
76	R1.9.7	第15回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	泌尿器科術後患者に対する嗜好を取り入れた飲水指導効果	看護師	礒部　美鈴
77	R1.9.20	第133回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	薬剤アレルギーにより治療に難渋した小児化膿性膝関節炎	臨床研修医	雑賀　絢子
78	R1.11.15	第81回日本臨床外科学会総会	巨大なリンパ節転移を認めながら原発巣は非浸潤性乳管癌という矛盾した結果に、追加病理検索が有用であった1例	臨床研修医	髙尾　瑞季
79	R1.5.31	第79回日本消化器内視鏡学会総会	EBウイルスと胃癌	臨床研究部長	柳井　秀雄
80	R2.2.27	第7回慢性期リハビリテーション学会(新型コロナウイルス感染症による学会中止のため誌上発表)	認知症症状のある患者を対象とした離床フローチャートの効果	看護師	田尻　教祥
81	R1.10.13	第52回 日本薬剤師会学術大会	「休薬が必要な経口抗がん剤」適正使用の取り組み	調剤主任	山﨑　富士子
82	R1.11.16	第5回感染症ネットワーク下関 学術集会	カテーテル関連血流感染症の考え方と抗真菌薬の適正使用	副薬剤部長	竹山　知志
83	R2.3.21	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2020	当院におけるオキサリプラチン過敏症状の発現状況に関する調査	調剤主任	山﨑　富士子
84	R1.11.29	第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会	臼蓋部悪性骨腫瘍に対する血管柄付き骨移植と自家処理骨の併用による股関節機能再建	統括診療部長	伊原　公一郎
85	R1.10.9	第78回日本脳神経外科学会学術総会	頚髄動静脈奇形の2症例	脳神経外科医師	林　大輔
86	R2.2.1	第22回山口脳神経外科カンファレンス	頚動脈閉塞を合併した若年者頭部外傷の2例	臨床研修医	矢内　正恒
87	R2.2.1	第22回山口脳神経外科カンファレンス	側頭葉てんかんで発症した海綿状血管腫の1治験例	脳神経外科医師	林　大輔
88	R1.11.15	第31回山口県作業療法学会	凍結肩術後の後療法経験	作業療法士	笠原　誠介
89	H31.4.16	第19回神経内科症例カンファレンス	汎下垂体機能低下と仮面尿崩症を呈した肥厚性硬膜炎を伴う漏斗下垂体炎の一例	臨床研修医	草野　亘
90	R1.6.11	第21回神経内科症例カンファレンス	臍部以下の感覚障害で発症し、中枢神経脱髄性疾患が疑われた22歳男性	神経内科医師	佐野　宏徳
91	R1.10.15	第25回神経内科症例カンファレンス	MPO-ANCAのニューロパチーの74歳女性例	神経内科医師	佐野　宏徳
92	R1.12.24	第27回神経内科症例カンファレンス	グレカプレビル・ピブレンタスビル投与後に脳症を呈した1例	臨床研修医	丸山　隼矢
93	R2.1.29	第27回神経内科疾患カンファレンス	非ヘルペス性辺縁系脳症と診断され紹介転院となった一例	臨床研修医	高松　絢
94	R1.7.31	第22回神経内科疾患カンファレンス	中枢神経症状で神経内科を初診した重傷熱性血小板減少症候群(SFTS)の70歳女性例	臨床研修医	小畑　文佳

2020(R2)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R2.4.25	第29回 日本有病者歯科医療学会学術大会	転倒によりオトガイ部を強打し抗てんかん薬による皮下出血が広範囲に生じた1例	歯科口腔外科医師	板敷 康隆
2	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	外来患者が外来看護者に求める接遇～外来看護者と外来患者の接遇に対する評価を比較して～	看護師	竹元 千嘉
3	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	手指屈筋腱損傷術後後療法における早期自動運動療法導入	作業療法士	笠原 誠介
4	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	急性期病院にて胃瘻管理、吸引廃痰操作が自立して自宅退院した症例	作業療法士	福原 淳史
5	R2.8.11	第106回 日本消化器病学会総会	EBウイルス関連胃癌の臨床診断の現状	臨床研究部長	柳井 秀雄
6	R2.9.2	第99回 日本消化器内視鏡学会総会	直腸神経内分泌腫瘍(NET)に対するESDの経験	臨床研究部長	柳井 秀雄
7	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	早期胃癌EUSでのcT1a判定	臨床研究部長	柳井 秀雄
8	R2.12.5	第125回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会	EBウイルス関連胃癌の背景粘膜とH. pylori感染について	臨床研究部長	柳井 秀雄
9	R2.7.26	第97回 山口県臨床細胞学会総会・学術集会	胸水細胞診でみられた形質細胞性腫瘍の1例	臨床検査技士	鈴木 佑也
10	R3.3.7	第100回 山口県臨床細胞学会総会・学術集会	EUS-FNAで診断に苦慮した淡明細胞型腎細胞癌の2例	臨床検査技士	鈴木 佑也
11	R2.11.27	エイズ学会	中国四国地方におけるHIV関連神経認知障害に関する研究－中間報告－	心理療法士	臼井 麻子
12	R3.3.11	第50回 日本脳卒中の外科学会学術集会	出血発症し急速に閉塞した中大脳動脈紡錘状動脈瘤の1治験例	脳神経外科医長	山下 勝弘
13	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	外科病棟における栄養指導件数増加に向けた取り組みと課題報告	栄養士	東久保 良美
14	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	病院給食の品質管理の追求から得られたこと	栄養士	東 なつみ
15	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	当センターの基本方針である「地域の皆さまの健康と医療を守る」ために	事務部長	齊藤 隆夫
16	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	筋緊張型筋ジストロフィー症に対する意思伝達支援において ～レスパイト入院を利用した関わり～	副作業療法技士長	片岡 靖雄
17	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	内視鏡下手術器材の点検方法の検討	看護師	秦 祐二
18	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	当院の透析センターにおけるCOVID-19 対策案	主任臨床工学技士	村田 聡樹
19	R2.10.17	第74回 国立病院総合医学会	ME 室における災害対応訓練について	主任臨床工学技士	石田 朋行
20	R2.6.25	第63回 日本手外科学会学術集会	3歳児に発生した腱鞘巨細胞腫の治療経験	統括診療部長	伊原 公一郎
21	R2.8.19	第57回 日本リハビリテーション医学会学術集会	術後頻回に股関節脱臼を繰り返した大腿骨近位部何骨肉腫のリハビリテーション治療	統括診療部長	伊原 公一郎
22	R2.11.20	第47回 日本マイクロサージャリー学会学術集会	血管柄付き骨移植による足関節固定術の治療経験	統括診療部長	伊原 公一郎
23	R2.7.1	第92回 日本胃癌学会総会	A case of malignant iymphoma with gastric lesions and early gastric cancer	外科医師	近藤 潤也
24	R2.12.15	第75回 日本消化器外科学会総会	当院における局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法の治療成績	外科医師	近藤 潤也

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
25	R3.3.10	第33回 日本内視鏡外科学会総会	A case of intestinal malrotation treated by laparoscopic Ladd procedure in an adult	外科医師	近藤 潤也
26	R3.3.3	第93回 日本胃癌学会総会	腸回転異常を伴う早期胃癌に対し、腹腔鏡下噴門側胃切除後にダブルトラクト再建を施行した一例	外科医師	近藤 潤也

独立行政法人国立病院機構関門医療センター
年報（平成30年度～令和2年度）

発　行　日　令和3年12月24日
発　行　者　独立行政法人国立病院機構関門医療センター
所　在　地　山口県下関市長府外浦町1-1
発行責任者　林　弘 人
印　刷　所　株式会社 アートネクスト